

令和4年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

児童養護施設や乳児院の小規模化・地域分散化に
おける本体施設のバックアップ体制に関する調査研究
報告書（案）

令和5（2023）年3月

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

NTT DATA

株式会社NTTデータ経営研究所

第1章	本事業の要旨	1
1.	本事業の背景	1
2.	調査主眼・主な調査項目	1
3.	調査研究の体制・検討経過	2
第2章	事業の目的	4
第3章	事業の実施内容	5
1.	アンケート調査	5
2.	ヒアリング調査	6
第4章	調査結果	8
1.	アンケート調査	8
	(1) 調査対象	8
	(2) 調査結果	8
2.	ヒアリング調査	19
	(1) 調査対象	19
	(2) 調査結果	19
第5章	分析及び考察	28
1.	各調査結果の考察	28
	(1) アンケート調査にみる状況	28
	(2) ヒアリング調査結果にみる状況	34
2.	全体のまとめ	35
3.	本調査の限界と今後の課題	36
第6章	成果の公表方法	36
	参考資料	37

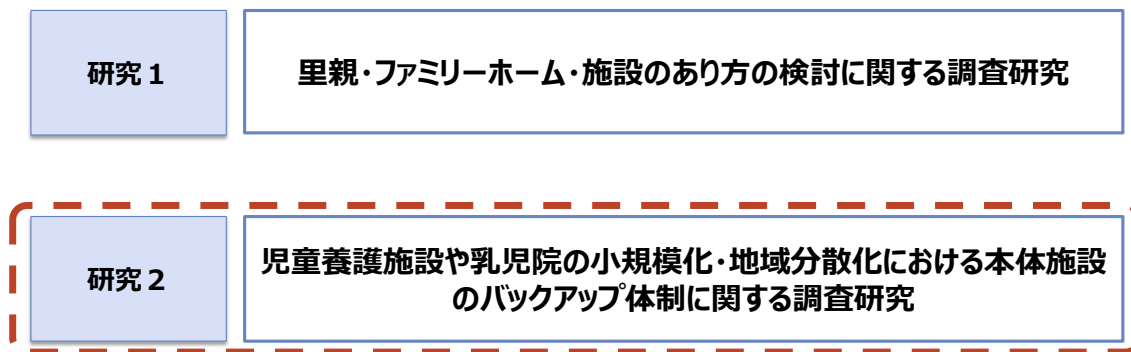
第1章 本事業の要旨

1. 本事業の背景

平成 28 年の児童福祉法改正により、家庭養育優先の原則が明示され、現在、里親支援体制の充実や、施設における小規模化・地域分散化、高機能・多機能化が進められている。そのような中、新たな法改正に向けて議論がなされた社会的養育専門委員会の報告書（令和 4 年 2 月 10 日公表）において、里親・ファミリーホーム・施設の今後のあり方の検討や、施設の小規模化・地域分散化の推進に向けた検討を開始することが提言されている。

報告書内の提言を受けて、今後の里親・ファミリーホーム・施設のあり方や、施設の小規模化・地域分散化を推進するための第一ステップとして、それぞれの子どものケアニーズや職員負担等の実態を把握することを目的として、以下 2 つの調査研究事業が立ち上がり、本事業は下図の研究 2 に該当する。

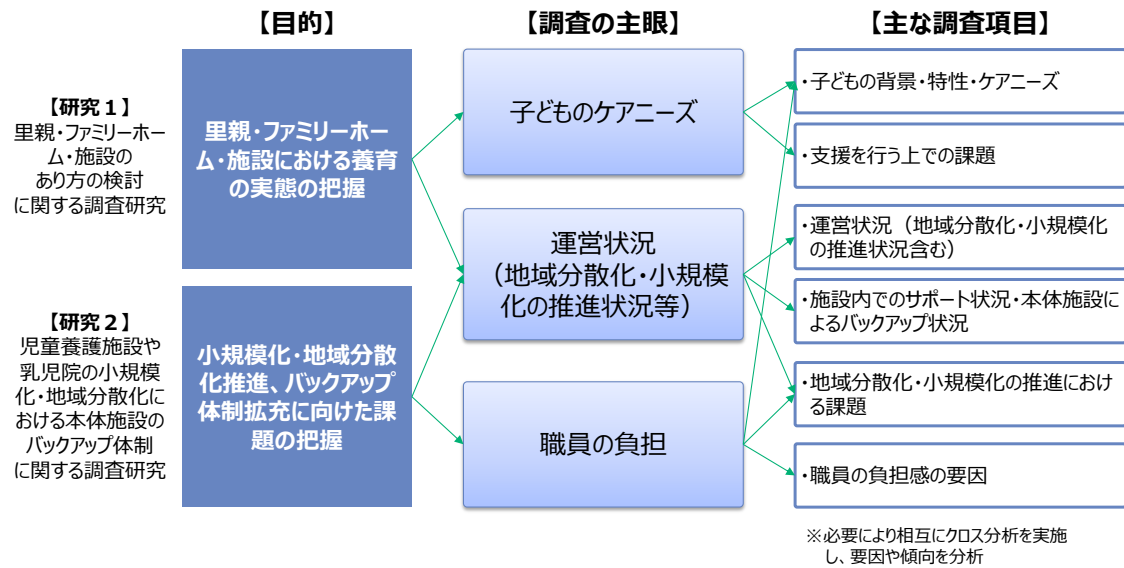
図表 1 社会的養育専門委員会の報告書を踏まえた研究事業



2. 調査主眼・主な調査項目

前述した 2 事業は目的・調査内容が重複かつ密接に関連することから、合同で調査を実施して相互に結果を共有しながら実施し、本事業（下図の「研究 2」）においては、主に職員の負担及び本体施設によるバックアップの取組に係る調査を実施した。

図表 2 本事業等の目的・主眼・主な調査項目



3. 調査研究の体制・検討経過

学識経験者と実務者から構成される検討委員会を設置し、以下の通り検討を行った。

図表 1-3 検討委員会 委員・オブザーバー (五十音順、敬称略)

氏名	所属・役職名
委員長 橋本 和明	国際医療福祉大学大学院 臨床心理学専攻 臨床心理学専攻主任 教授
委員	井出 智博 北海道大学大学院教育学研究院 教育心理学分野臨床心理学講座 准教授
	都留 和光 全国乳児福祉協議会 常任協議員
	則武 直美 全国児童養護施設協議会 副会長
	樋口 亜瑞佐 愛知教育大学 教育科学系心理講座 准教授
オブザーバー 山田 勝美	山梨県立大学 福祉コミュニティ学科 教授

図表 1-4 事務局

氏名	所属・役職名
事務局	桜花 和也 株式会社 NTT データ経営研究所 ライフ・バリュー・クリエイションユニット マネージャー
	中場 海和人 株式会社 NTT データ経営研究所 ライフ・バリュー・クリエイションユニット シニアコンサルタント

氏名	所属・役職名
野村 佳織	株式会社 NTT データ経営研究所 ライフ・バリュー・クリエイションユニット シニアコンサルタント
三道 ひかり	株式会社 NTT データ経営研究所 ライフ・バリュー・クリエイションユニット コンサルタント
中村 やよい	株式会社 NTT データ経営研究所 ライフ・バリュー・クリエイションユニット コンサルタント

検討委員会は2回開催した。開催概要を、図表 1-5 に示す。

図表 1-5 検討委員会の開催概要

	日時・場所	主な検討内容
第1回	2022年9月13日(火) 18:00~20:00 株式会社 NTT データ経営研究所会 議室/オンライン会議	<ul style="list-style-type: none"> • 事業の概要について • 調査内容(アンケート調査設計等)について
第2回	2023年3月22日(水) 10:00~12:00 オンライン会議	<ul style="list-style-type: none"> • 調査結果について • 報告書案について



第2章 事業の目的

上述の社会的養育専門委員会の報告書においては、里親・ファミリーホームに関して、「里親の種別、里親要件、柔軟な里親制度の運用やファミリーホームと里親の定員など里親、ファミリーホームのあり方について、施設の小規模化の今後も含めて、速やかに検討を開始」との提言がなされている。また、施設は多機能化・高機能化を通して地域の社会的養護の中核拠点として活動していくことが期待されている。そうした機能を効果的に高めていくためには、設備や人員等の配置の充実を図ることはもとより、本体施設の支援体制を強化し、職員のモチベーションやスキルを高めていくことが重要である。

本調査研究においては小規模化・地域分散化した施設における職員の負担について現状を把握するとともに、小規模化・地域分散化を進めている児童養護施設等の管理体制や、専門職によるバックアップ体制についての支援の状況をアンケートやヒアリング等によって調査することを目的とする。



第3章 事業の実施内容

1. アンケート調査

児童養護施設・乳児院の施設の基幹的職員、および施設で子どものケアに当たる職員を対象に、小規模化・地域分散化の状況、職員の配置状況や措置されている子どもの状況、職員が業務負担を感じる背景、施設内でのサポート状況や本体施設によるバックアップの状況等について情報を取得し、本体施設によるバックアップの現状・課題を把握するため、アンケート調査を実施した。

図表 3-1 アンケート調査の目的・調査対象

カテゴリ	内容
調査目的	小規模化・地域分散化の状況、職員の配置状況や措置されている子どもの状況、職員が業務負担を感じる背景、施設内でのサポート状況や本体施設によるバックアップの状況等について情報を取得し、本体施設によるバックアップの現状・課題を把握する。
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> 児童養護施設 : 604か所 乳児院 : 146か所 (附属する地域小規模施設、小規模グループケア含む)
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 小規模化・地域分散化の状況や本体施設によるバックアップ内容に関する質問 (施設票) : 小規模化・地域分散化の実施状況、小規模化・地域分散化施設に対するバックアップの実施内容、実施体制、実施の課題 等 業務負担に関する質問 (職員票) : 業務負担感、バックアップ状況に対する認識等
調査スケジュール	2月～3月上旬 : アンケート調査の実施 3月上旬～3月下旬 : 結果の集計・分析
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> オンライン (Questant のwebアンケート) による施設、職員調査 Excel個票による調査

図表 3-2 アンケート調査項目

分類	観点	項目例
職員体制に関する質問 (施設票)	全国の施設における小規模化・地域分散化の実施状況や小規模化の推進における課題について把握する	小規模化・地域分散化の実施有無 (実施していない理由)、小規模施設の数、従業員数、在籍している専門職
	(本体施設が回答) 小規模施設等へのバックアップとして取り組んでいる事項、成果や課題を把握する	バックアップの目的、バックアップの取組内容、特に工夫している点、バックアップを行う上での全般的な課題
	(小規模化・地域分散化施設が回答) 職員の業務負担感に対する認識や、本体施設からのバックアップの状況および施設内の取組状況について把握する	職員の業務負担に対する認識、本体施設によるバックアップの内容、バックアップに対する認識
業務負担に関する質問 (職員票) ※小規模化・地域分散化施設の職員が回答	職員の業務負担感と、背景要因として想定される要素を把握する	業務負担の認識、負担の要因になっていること、経験年数、担当している子どもの数
	本体施設のバックアップや小規模施設内での取組に対する職員の認識を把握する	本体施設によるバックアップの内容、バックアップに対する認識

2. ヒアリング調査

小規模化・地域分散化を行っている児童養護施設・乳児院を対象に、小規模化・地域分散化において想定される課題を踏まえ、課題への対応状況や効果について把握し、今後取組を検討する施設等の参考となる情報を収集することを目的に、ヒアリング調査を実施した。

図表 3-3 ヒアリング調査の目的・調査対象

ヒアリング 目的	小規模化・地域分散化において想定される課題を踏まえ、課題への対応状況や効果について把握し、今後取組を検討する施設等の参考となる情報を収集すること		
選定方法	対象施設を協議会に推薦頂き、ヒアリングを依頼し、以下の養育者・施設を対象とした		
実施方法	施設を訪問しての見学・ヒアリングを実施（一部のみweb実施）		
対象施設	種別	対象数	備考
	児童養護施設（612施設）	4施設	
	乳児院（145施設）	4施設	医療的ケアニーズへの対応を強化している乳児院と一般的な乳児院をそれぞれ2施設ずつ選定

図表 3-4 ヒアリング調査項目

ヒアリング調査項目
※合同で実施した「研究1」の質問内容を含む
<p>1. 基本情報や基本的な取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 基本情報 (2) 入所児童の状況 (3) 特徴的な取組や支援等 <p>2. ケアニーズについて</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 社会的養育を必要とした背景について特徴的な課題を抱えている子どもが多いニーズ（複数） (2) (1)の背景との関連で特別な配慮が必要となる項目 (3) 社会的養育を必要とした背景や、それに伴う特別な配慮の関連性や特徴的な組み合わせについて (4) ニーズの重複と、その場合の日常生活での表れ方 (5) ニーズの変化・進展の傾向（年齢、入所からの期間、本人の状態変化） (6) PTSD 関連項目や愛着形成上の問題について、具体的に生じるニーズ（職員が感じられる）

ヒアリング調査項目

※ 合同で実施した「研究 1」の質問内容を含む

もの)

3. 現在行っている取り組みや今後求められること

- (1) ケアにおける課題・工夫・改善点
- (2) 職員負担に関すること
- (3) 外部との連携等

4. その他

(例 ; 今後の施設のあり方として求められること等)

5. 施設の小規模化について

- (1) 小規模化・地域分散化の目的
 - (2) 小規模施設・地域分散化におけることも・職員の配置方針
 - (3) 小規模化・地域分散化における課題
 - ・職員の負担感及びその背景 (特に、本体施設と小規模施設の負担感の差について)
 - ・その他小規模施設・地域分散化による課題と考えていること
 - (4) バックアップの取組内容
 - ・取組の背景・目的
 - ・取組内容
 - ・取組の成果
 - ・取組において特に重視していること・ポイントと考える点
 - ・現状の課題認識
- ・国等に求めること

第4章 調査結果

1. アンケート調査

(1) 調査対象

児童養護施設・乳児院について、本体施設及び小規模化・地域分散化施設の基幹的職員に対する調査（施設票）と、小規模化・地域分散化施設の職員に対する調査（職員票）を実施した。回収率等は以下の通り。

図表 4-1 調査対象と回収率

区分	発出数	回収数 (施設票)	回収数 (職員票)	回収数 (個票)	回収率
児童養護施設	604	295	394	1,536	48.8%
乳児院	146	95	123	596	65.1%

(2) 調査結果

1) 児童養護施設

調査結果の概要は以下の通りである。詳細な結果については参考資料を参照されたい。

<施設票>

児童養護施設は約 9 割の施設が小規模化・地域分散化を実施しており（図表 4-2）、うち 6 割の施設が地域小規模を設置するなど、地域分散化が進んでいる（図表 4-3）。

小規模・地域分散化施設へのバックアップとして実施していることは、「職員への研修実施」が 82.7%でもっとも割合が高く、SV・本体職員からの応援の派遣・研修の実施及び参加支援・管理職との定期的な状況共有などについて、7 割程度以上の実施率となっている（図表 4-4）。一方で、バックアップを行う頻度にはばらつきがあり、例えば「経験の長い職員による SV」を週 1 回以上実施する施設は、3 割以下にとどまった（図表 4-5）。

また、バックアップを行う上で難しい・課題と感じていることについては、「本体施設職員のマンパワーが不足している」が 78.0%でもっとも割合が高く、次いで「本体職員のスキルやノウハウが不足している」が 46.7%であった（図表 4-6）。

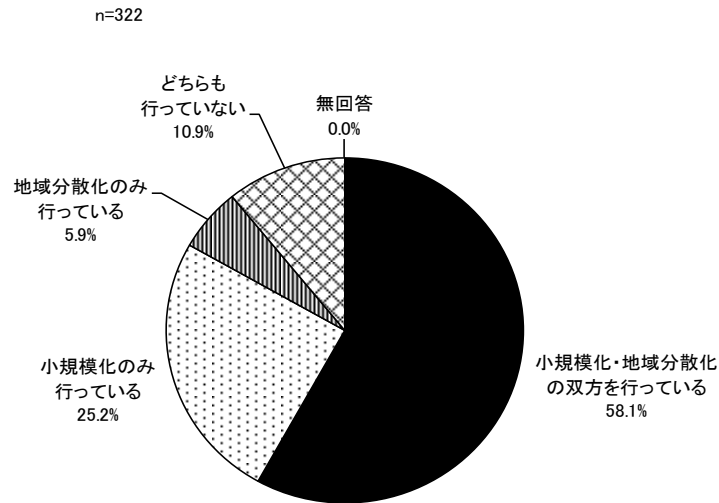
<職員票>

職員の業務上の困難の背景として、子どもの問題行動への対応・子どもとの関係性の構築、職員が少ないタイミングでの一時保護対応、自身の知識・スキルに対する不足感等が挙げられた（図表 4-7）。特にマンパワーが不足する場面として、1 人で対応する時間、経験の少ない職員のみでの対応に関する意見が多く挙げられた（図表

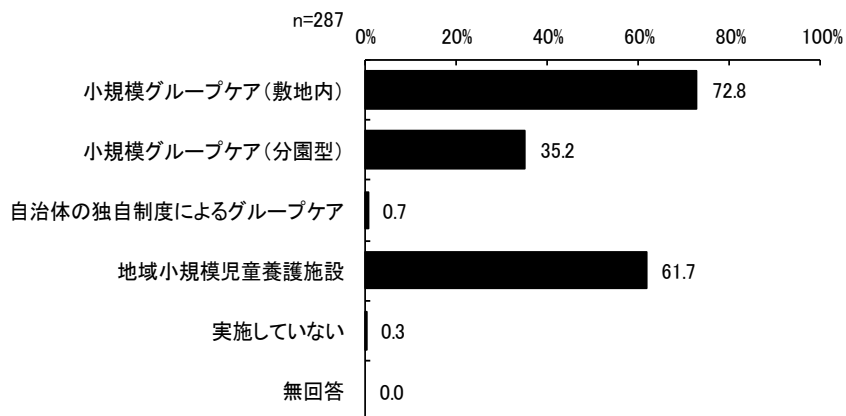
4-8)。また、発達障害のある子ども・その他障害のある子ども・愛着障害などへの対応について知識やスキルに対する不足感を感じているとの意見が挙げられた（図表 4-9）。

<施設票>

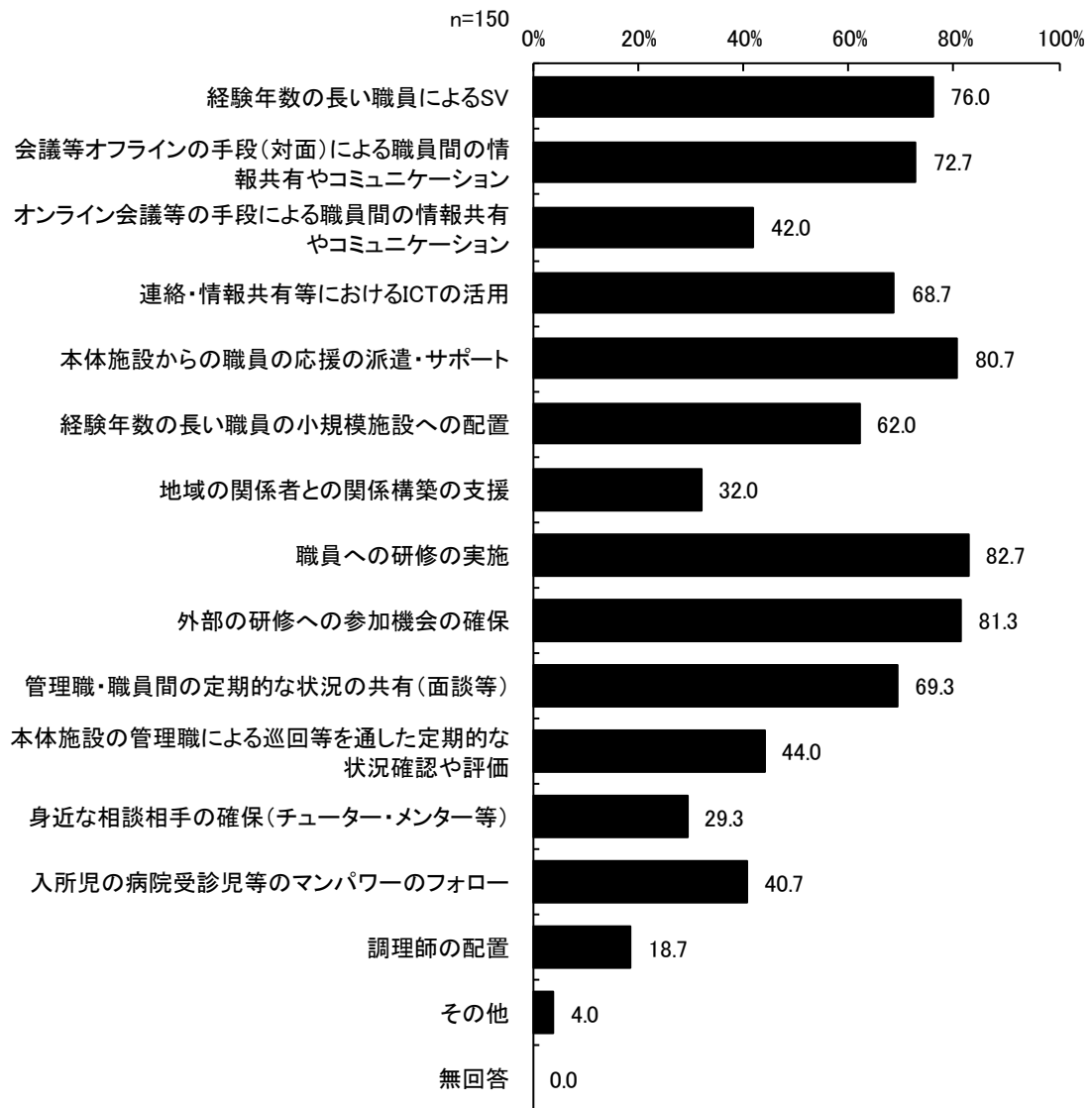
図表 4-2 小規模化・地域分散化の状況



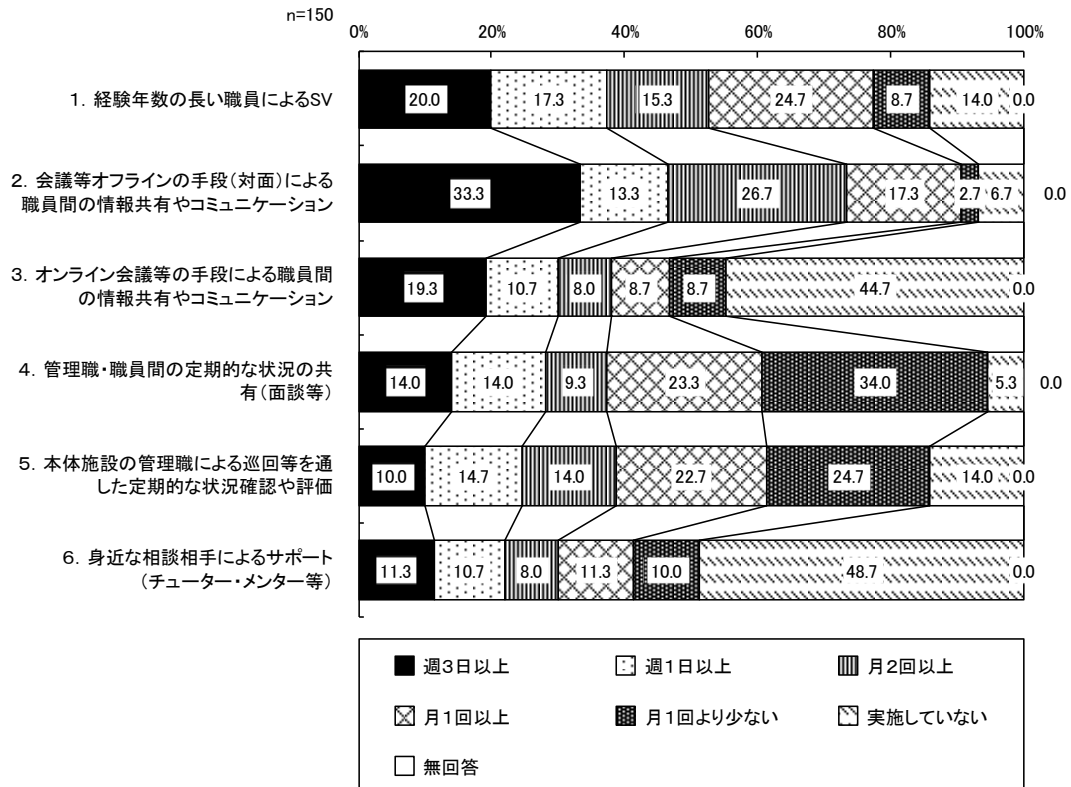
図表 4-3 小規模化・地域分散化を行っている場合、どの施設を含んでいるか



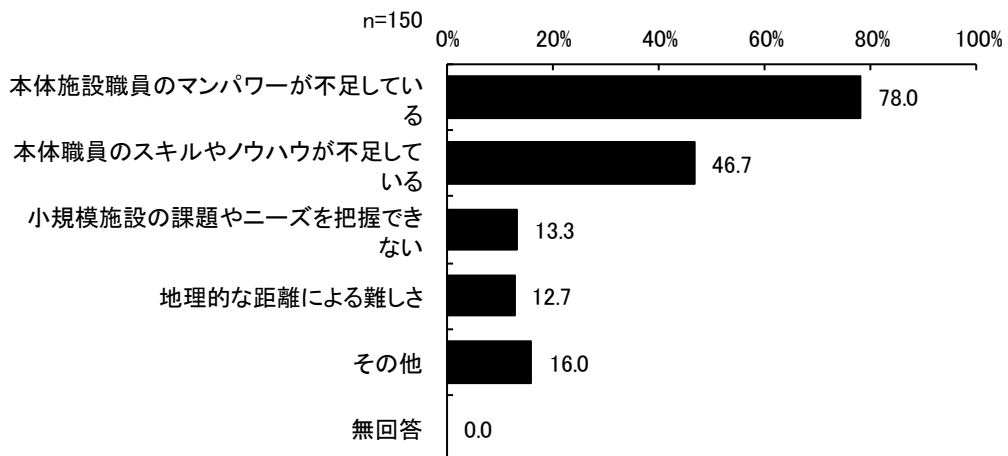
図表 4-4 小規模・地域分散化施設に対するバックアップとして実施していること



図表 4-5 バックアップの取組を行う頻度



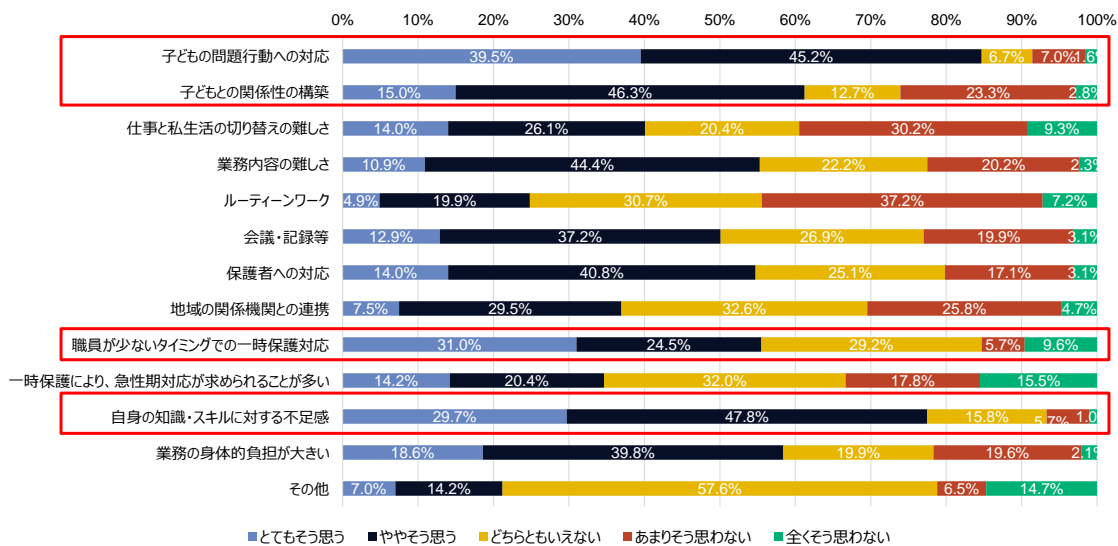
図表 4-6 バックアップを行う上で課題・難しいと感じていること



<職員票>

図表 4-7 職員の業務上の困難・負担感の背景

N = 393



図表 4-8 「自身の知識・スキルに対する不足感」について、どのような点で知識やスキルを身に付けたいと考えるか。
(子どものケア関連について)

発達障害	発達課題がある子どもの対応 自立に向けた支援 発達障がいや有している児童の個々の特性に応じた伝え方、性的問題行動への対応。 発達特性のある児童への、問題行動への声かけや、一般常識等の習得に対する支援方法
その他障害	自閉症等、障害を持っている児童への対応方法 障がいを持つ子どもに対しての支援について。
愛着障害	知的障害や発達障害を有している子どもに対し、暴力行為に及んだ際や、状態が崩れた際の対処法。学校、学業への意識の高め方。 愛着障害を有する児童への対応スキルや知識 何事にも無気力になってしまう児童への対応 愛着や発達に課題がある児童への自立支援 虐待を受けた子ども達のトラウマやアタッチメントの専門的ケアをきちんと身に付けたい
不穏・問題行動	問題行動の対応の仕方 自分の軸がぶれない指導方法 不登校児への対応。年齢が高い時や異性の愛着障害へのこちらの受け方。
トラウマ	トラウマやフラッシュバックに対する支援の仕方 被虐待児のトラウマの対応。愛着形成において職員ができる最大限の関わり方

図表 4-9 どのような場面で職員のマンパワーが不足していると感じるか

1人での対応	<ul style="list-style-type: none"> ・一日を1人体制の断続勤務で対応する回数が多く、人数が足りていないように感じる。職員が体調不良等で休むと終日勤務に当たりと負担が大きくなっていく。 ・夕食時などで入浴、食事、宿題等の業務が多いが、必ず2人勤務では無いため、対応を困難に感じる時がある。夜間の緊急通院等も1人勤務の場合は難しいため、職員不足を感じる。 ・子どもの問題行動などが起きたときに、一人で対応しなければならない時。 ・朝、職員が一人の時、体調不良や登校渋りなど、一度に複数の対応が起きたとき。
トラブル時	<ul style="list-style-type: none"> ・通院対応や学校など児童相談所などへの訪問など、通常業務以外での対応は時間外になることが多い。 ・休憩や休日の取り方。トラブル時に複数の対応が難しいこと。 ・通院業務
子どもの不穏時	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の不穏時に対応している時 ・子どもが落ち着かないとき ・子どもが問題行動を起こしたり、施設を飛び出したりした時
職員の年齢の偏り	<ul style="list-style-type: none"> ・経験年数が浅く若い職員が多い。偏ったコミュニケーションや独善的な考えを持つ職員が多い。上司の話を素直に聞かない点。 ・入職5～10年程度の経験値のある職員が少なく、直接的な児童対応以外の業務が中堅以上職員に偏り、担当業務や勤務時間超過等に影響している。 ・子供の専門性の高さで反比例した職員数。1人勤務時の対応困難場面。
その他全般	<ul style="list-style-type: none"> ・誰か一人でも休むと勤務調整をするのが大変。残業が多い。 ・日常のケアワーク（料理や掃除）とそうではない業務、地域との連携や社会資源を利用したりする中では、マンパワーが欲しいと感じる ・書類作業、事務時間の無さ

2) 乳児院

<施設票>

乳児院は 67%の施設が小規模化を実施しており、その大半が敷地内での小規模グループケアである（図表 4-10,図表 4-11）。

小規模化施設へのバックアップとして実施していることは、「職員への研修実施」が 81.8%でもっとも割合が高く、SV・本体職員からの応援の派遣・研修の実施及び参加支援・管理職との定期的な状況共有などについて、6 割以上の実施率となっている（図表 4-12）。一方で、バックアップを行う頻度にはばらつきがあり、例えば「経験の長い職員による SV」を週 1 回以上実施する施設は、2 割以下にとどまった（図表 4-13）。

また、バックアップを行う上で難しい・課題と感じていることについては、「本体施設職員のマンパワーが不足している」が 63.6%でもっとも割合が高く、次いで「本体職員のスキルやノウハウが不足している」が 40.9%であった（図表 4-14）。

<職員票>

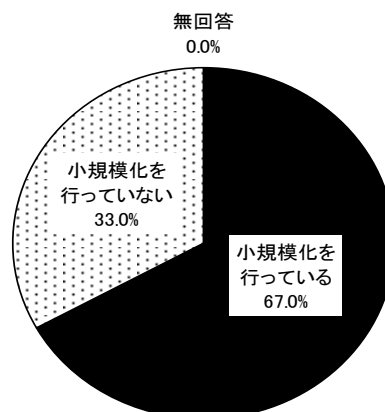
職員の業務上の困難の背景として、子どもの問題行動への対応、一時保護対応、自身の知識・スキルに対する不足感、会議・記録等が挙げられた（図表 4-15）。また、医療的ケア・発達障害・愛着形成・心理的ケア等の観点から、知識やスキルに対する不足感を感じているとの意見が挙げられた（図表 4-16）。

マンパワーの不足の場面としては、夜勤帯に 1 名で大人数に対応すること、一時保護や病児対応に伴う対応、子どものケアの必要性が高いときの対応等が挙げられた（図表 4-17）。

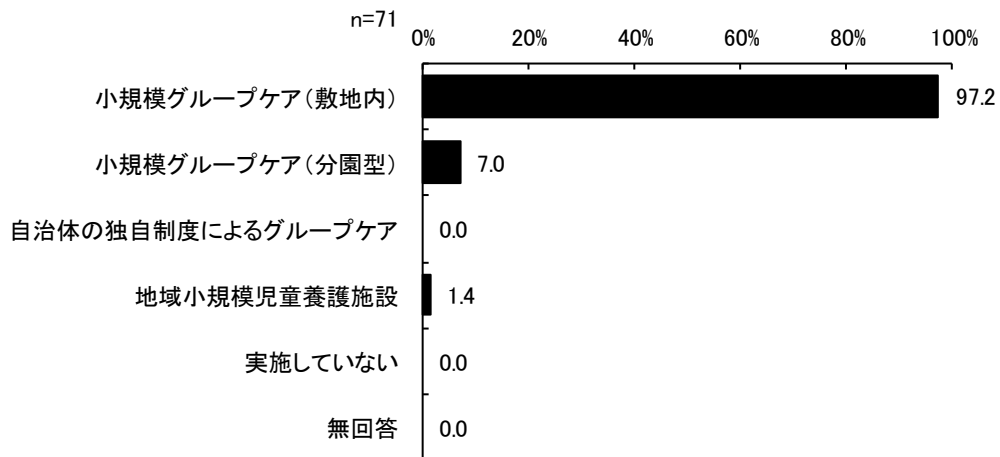
<施設票>

図表 4-10 小規模化・地域分散化の状況

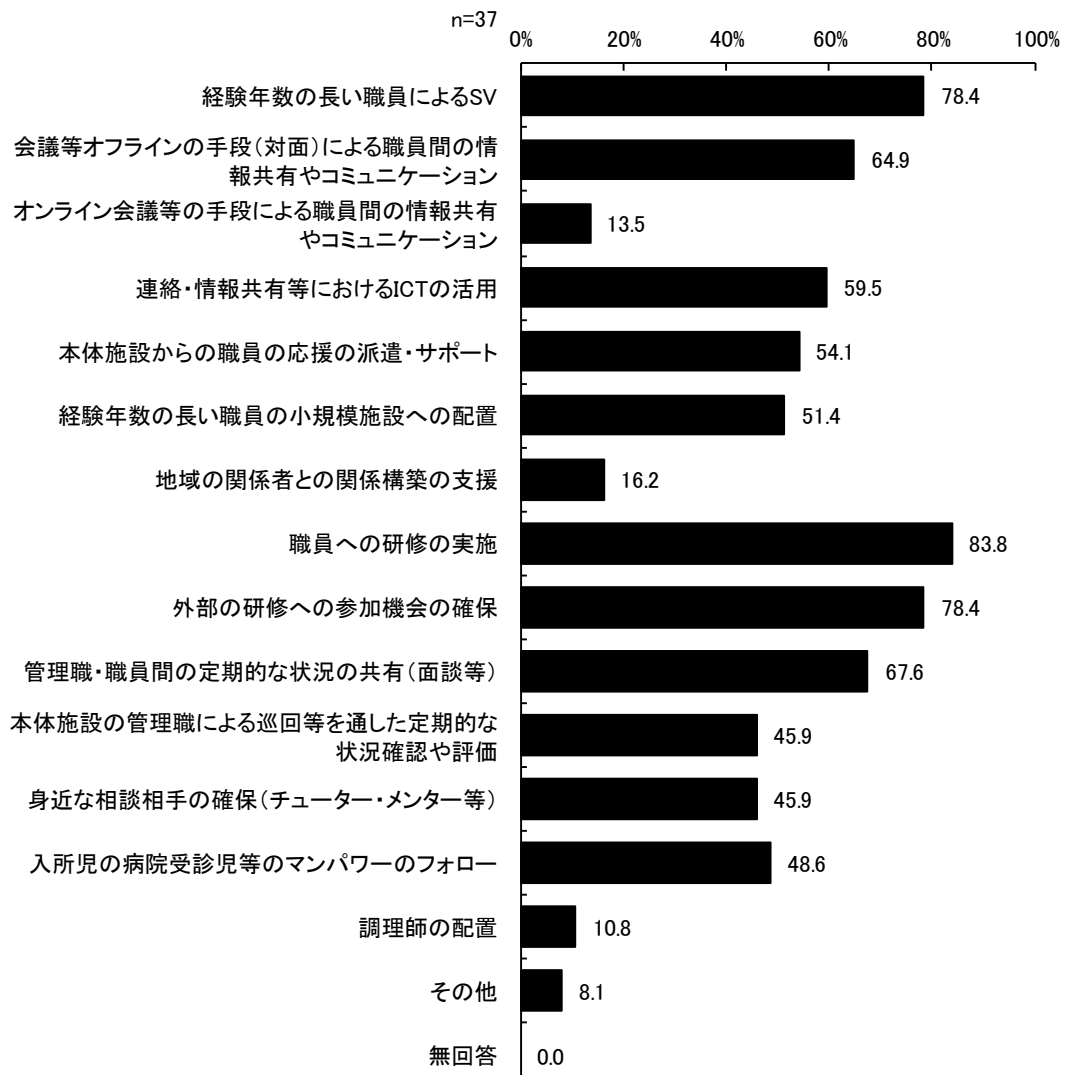
n=106



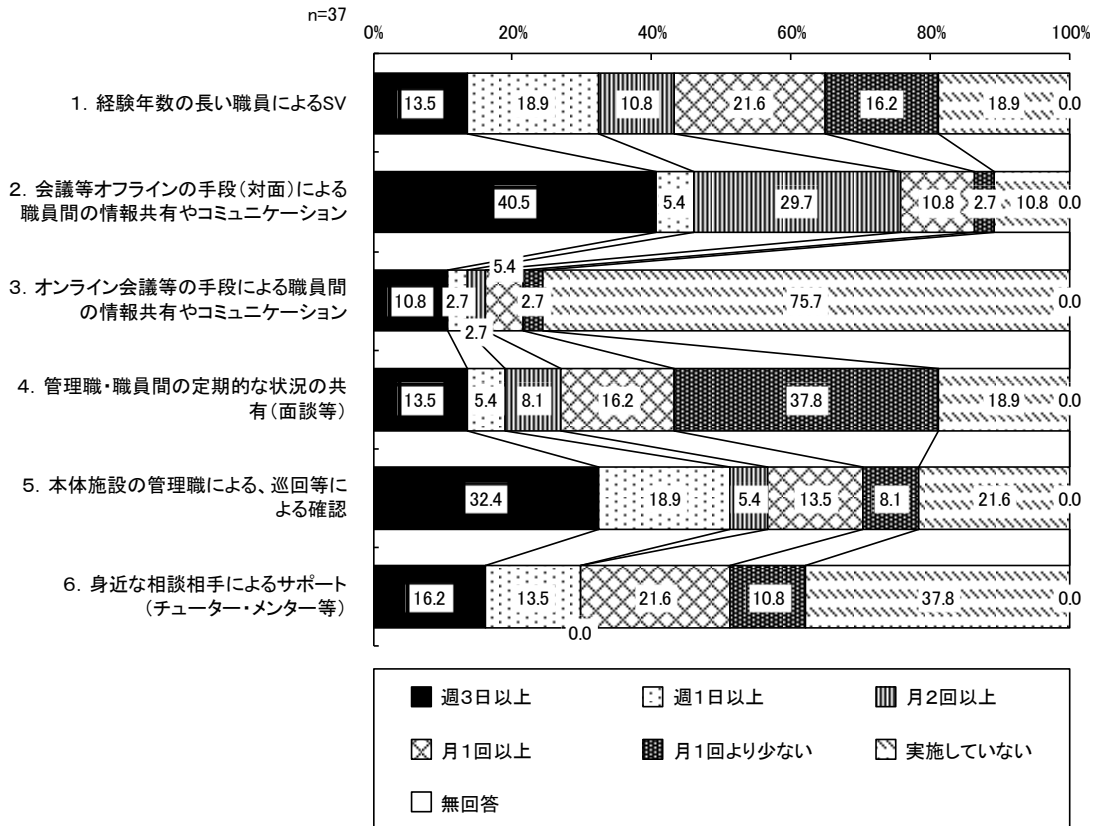
図表 4-11 小規模化・地域分散化を行っている場合、どの施設を含んでいるか



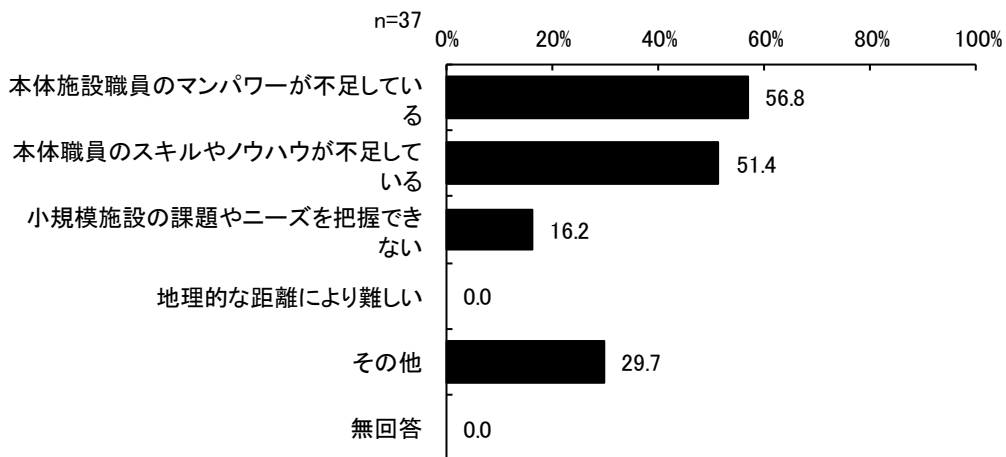
図表 4-12 小規模施設に対するバックアップとして実施していること



図表 4-13 バックアップの取組を行う頻度



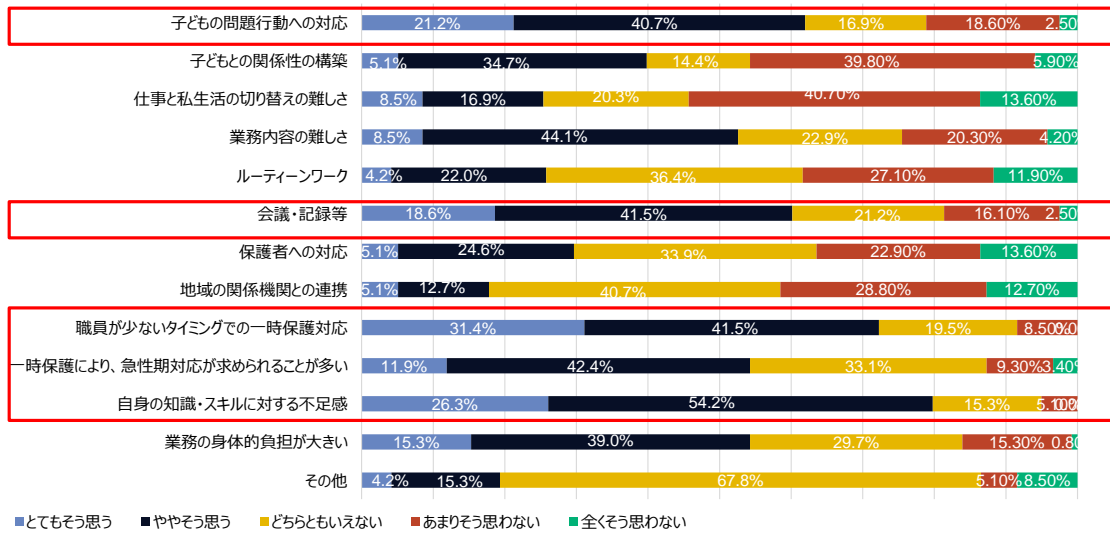
図表 4-14 バックアップを行う上で課題・難しいと感じていること



<職員票>

図表 4-15 職員の業務上の困難・負担感の背景

N = 123



図表 4-16 「自身の知識・スキルに対する不足感」について、どのような点で知識やスキルを身に付けたいと考えるか。
(子どものケア関連について)

医療的ケア	子どもの病気について
	医療的ケアが必要であったり何らかの障害を有していたり、家庭環境などで情緒面にトラブルをかかえていたりと養育や関わりが難しい子の支援において、困難に感じるときがある
発達障害	医療分野、愛着形成、保護者対応
	多動性の有る児童やダウン症児への対応など
愛着形成	発達に特性がある子どもや医療的ケアが必要な子どもに対しての知識
	発達支援が必要な児に対してより適切な支援内容は何か考える時
対応が難しい子ども	愛着障害の対応 問題行動のときの対応
	自己肯定感を育む関わり方、伝え方。病児病後児に対する関わり方、遊びの工夫。愛着形成。自立支援計画の立て方、書き方
心理的ケア	養育に関してアタッチメントの形成や言葉かけなど保育技術の面
	ミルクをなかなか飲めない子に対しての授乳方法
心理的ケア	・新生児との愛着関係の築き方・ミルク飲みがあまり良くない児の対応・パニック泣きを起こしてしまった時の対応
	試し行動や他者とのトラブルになりやすい子どもへの対応方法
心理的ケア	PTSDなど要因が推測されることへの心のケアなど心理面での知識・スキル
	心理的ケアが必要な児に対するスキルやどのような心情であるか予測するための知識

図表 4-17 どのような場面で職員のマンパワーが不足していると感じるか

夜勤帯の対応	夜勤帯、ひとりで10人～24人の子どもの対応をする時間がある。昼間は1人で5～6人（0～2）の食事介助をする時。 夜勤中は部屋に1人で宿直もないため夜勤中に救急対応や一時保護対応があっても他の児の寝ている部屋を空けなければいけない 夜間はもちろん日中もまだ小さな児であるのに1人で大人数を寝かしつけなければならない負担。寝かしつけ対応があげられない
一時保護や病児対応時	病児が出たり、一時保護で子供が増えたりした時など ショートステイや一時保護で急に子どもが入ってきたとき 急なショートステイ、一時保護等で人数が増えた時やコロナ等の感染が起きた時
子どものケアの必要性が高いとき	子どもの人数が少なくても、1人ひとりへの養育やケアの必要性が高いとき 子どものクールダウンが必要なときや、甘えを受け止めたいとき、好きなことに集中して取り組ませてあげたいとき ケアニーズの高い児が増えていることもあり、細かいところまで手をかけられない時がある。
職員1名での対応時	一人でホームを任されている時 日中をひとりでまわさないといけない時。人が少なく子どもに満足な養育ができない時

2. ヒアリング調査

(1) 調査対象

児童養護施設 4 施設、乳児院 4 施設を対象にヒアリング調査を行った。なお、施設名は非公開とする。

(2) 調査結果

各施設のヒアリング結果は以下の通り。（合同で実施した「研究 1」の結果を含む）

1) 児童養護施設

①児童養護施設 A

○入所児童の傾向、ケアニーズについて

- 高齢児が多い。
- 被虐待、非行が多い。
- 児童自立支援からの措置変更で入所する児童が多い。
- 身体的虐待、ネグレクトの背景に家族の問題（母の貧困や孤立）があることが多い。稀に性的虐待がある。
- 発達障害（疑いを含む）児童が多い。また両親にも同様の傾向がある。

○小規模化、地域分散化の状況

- 小規模化、地域分散化を行う目的は、子どもに適したケアをするため。また、コミュニケーションは人数に応じて $n(n-1)$ 通りのコミュニケーションが必要になるところ、一人の子どもに対して個別かつ密なケアをする必要があるため。
- 実施当初は比較的落ち着いている子どもを小規模施設の対象としたが、現在は大きな違いはない。

○小規模化・地域分散化の効果として感じていること

- きめ細かな相談・対応ができています。
- 施設感（建物やルールなど）が薄く、子どもが落ち着きやすい。
- 個別に子どもの話を聞く機会が増える。（個別の要求事項や対応も増える。）
- 食材の指定はあるが、何を作るかは各施設に任されているので食育や買い物の仕方の教育ができる。
-

○小規模化、地域分散化における障壁や課題

- 当初は本体、地域小規模施設間での軋轢があった。（コンサル会社に組織化を依頼し、報告・管理・相談体制が整ったことで改善した。）
- 職員同士の横の繋がりが薄くなること。
- コロナ禍のため職員同士の交流ができていない。
- 職員 1 人での対応時間ができてしまう。
- 職員を頑張らせる場面と、そうでない場面の見極めが難しい。

○小規模化、地域分散化施設に対するバックアップの取組

(組織体制について)

- コンサル会社に組織化を依頼し、報告・管理・相談体制を整えた。
- 12 人の子どもに対して 1 人のフリーのソーシャルワーカーをつけることで、困った時に誰に相談するべきかを明確化した。
- 定期的な SV を実施している。統括リーダーがホームリーダーに対する SV を月 1 回、統括リーダーも更に上から SV を受ける。
- 同職種間での交流を増やすために「プチファミリー制度」を創設して 4 人グループでの交流を促進した。
- リスクマネジメントとして情報管理を徹底（記録様式を統一して、ヒヤリハットや子供のふとしたつぶやきをすぐに抽出できるようにする等）する。
- 自己決定が重要であり、判断は自由で報告は必須、責任は上層部がとる風土を作った。
- 何かあったらすぐに現場に入れるヘルプ体制を意識している。統括リーダーには休日でも LINE 等で連絡が入る。
- コミュニケーションもなるべく対面で直接行うようにしている。

(メンター等相談しやすい環境)

- 組織改善の一環として相談しやすい環境作りを実施。
- 統括リーダーやフリーの専門職による相談や後方支援。
- 定期的な巡回や、積極的なコミュニケーションを実施する。

②児童養護施設 B

○入所児童の傾向、ケアニーズについて

- 高年齢児、多児での受け入れが多い。
- 愛着に課題のある子どもが多い傾向にある。
- 本人の特性を見ることを優先するが、発達傾向について、医療的・心理的にもアセスメントが必要である。
- ケアニーズが高いというのは気質的に難しいというだけでなく、福祉的な支援を受けるようになったことを肯定的にとらえられていないことが大きい。特に親との関係の整理の付け方が上手くできていない。
- 社会と繋がれる感覚を持っていない子どもに対しては個別対応を要している。
-

○小規模化、地域分散化の状況

- 設立当初から大舎制の養育をしていたが火事で焼失、当時の職員が移転に伴い始めから小規模で開始した。大舎制の養育に当時の職員は限界を感じていた。
- 入所の期間が長くなりそうな子どもを地域の分園に配置し、職員も合わせる形で配置したいが、高齢児（中高生）が増えてきたので上手くいっていない。

○小規模化、地域分散化における障壁や課題

- 物理的な立地の距離や、建物構造（一軒家）により職員と子どもの孤立が懸念される。

○小規模化、地域分散化施設に対するバックアップの取組

(組織体制について)

- 事務職員や、フリーで様々な施設を回る職員がいる。
- バックアップを対応する職員の力量を高めつつ、バックアップに対する意識を変えていく必要がある。バックアップというのは単なる留守番ではなく、スキルがある職員に求められている業務である。

(子どものアセスメント)

- 同法人の他施設では、入所時にアセスメントホームで子どもの状況を詳細に把握する期間を設けており、職員と子どもの効果的なマッチングに寄与している。

(関係機関や施設内の専門職との関わり)

- 専門職との会議を定期的実施している。
- 児童精神科医と連携し、職員と子どものコンサルテーションや診察へ連れていくことを実施している。児童精神科医の見立てというのは職員にとって勇気づけになっている。

(緊急時の把握と対応)

- 担当がいざというときに付き添える状況を作っている。
- バックアップを日々のサポートに組み込んで緊急時の対応に備えている。

(メンター等相談しやすい環境)

- 職員同士の顔が見える関係と、職員と子どもの関係の両方を作ることを意識している。
- ベテランの職員から若手職員に教える OJT を行っている。
- 職員から悩みが表出されるまで待つ、ということをしていないようにしている。
- 担当者の組み合わせが若い職員と経験のあるスタッフの組み合わせになるよう、極力考慮している。
- 所内の会議では子どもの話だけでなく、若手職員の様子を話すようにしている。

(その他)

- 家事を担う生活支援員を 2 施設に 1 人程度の割合で配置することにより、職員と子どもの両方の心地よい空間づくりに繋がっている。
- 子どもの状況や成長をよく見てアドバイザーをする人がいなければ対応できないという子どもが増えてきており、養育者と子どもが健康的な関係を築くことが難しくなっている。
- 児童相談所に子どもの情報が複数集まるため、行政と子どもが一番初めに接触したときの初回アセスメントの見直しを行うべきではないか。

③児童養護施設 C

○入所児童の傾向、ケアニーズについて

- 高齢児が多い。高齢児の入所理由としては里親委託の不調や、家庭での虐待由来によることが多い。
- 虐待は表向きには子どもに問題ありという理由でくるが、そうではないことが多く、DV も半数ほど絡んでいる。
- 短期で家庭復帰させたいという依頼のあるケースが増えている。
- 入所理由の多くは虐待である。要因として「1 人親世帯であるが未婚のパートナーがいる」家庭や、貧困状態にある家庭が多い。
- 背景として若年出産、親の精神疾患（母親や両親ともというのも多い）、偏った養育感を持っている親等がある。ネグレクトも発生している。
- 安心して子どもが本来の自分が出せるようになると、新たなニーズが出てくるが、職員自身も頑張りどころとして受

け止めるようにしている。特定の職員に負担が集中するのでバックアップしている。

○小規模化、地域分散化の状況

- 子どものケアニーズが複雑化する中、より密な対応をするためには小規模化、地域分散化が必要と考え取組を進めた。
- 在籍期間が長くならざるを得ない子どもや、より個別的な関わりが必要な子どもは地域小規模側に配置している。
- 地域小規模は本体と比べてセキュリティが弱くなるため、保護者が実力行使で子どもを連れ帰るようなことをしない子どもという前提になる。
- 小規模化によって、子どもとの接点が増え、アタッチメントや発達などの個別の対応を丁寧に行うことができると感じている。

○小規模化、地域分散化における障壁や課題

- 他施設の地域小規模から職員同士の交流や共有の場が欲しいと言われる。
- 特定の職員に負担（子どもからのアクションや相談等）が集中することがあり、これを本体でバックアップして職員を支援している。
- 一人の職員に集中してしまうようなときは、本体で優先順位を付けて（どこにニーズがあって、どのポイントにしっかりフィットすれば良いのか等）、一緒に援助方針立てるようにしている。

○小規模化、地域分散化施設に対するバックアップの取組

（組織体制について）

- 組織化の取り組み：各組織のリーダー、それを統括するリーダー、各ホームに 4-5 人の職員がいて、それぞれ集まって直接会話をする時間を増やしている。
- 同じ立場同士での会話も増やすようにしている。地域小規模が多くあることで繋がりや理解の共有の場が生まれやすく、それを共有する立場が多いと職員の安心感にも繋がる。
- 会議の出席についても、超過勤務としても良いとしている。
- 地域分散化されているからこそ、各職員の役割を明確化して、看護師や栄養士もそれぞれの立場で介入している。
- 会議については、本体も含めて会議の質を上げることを目指しており、報告会でなく議論の場とすることを徹底している。

（関係機関や施設内の専門職との連携）

- 施設の自由裁量ではあるが、献立に栄養士のチェックを入れて質の担保をしている。

（メンター等相談しやすい環境）

- 指導級の保育士間のミーティングを増やして生活部分の共有をする。

（その他）

- 地域小規模施設の確保の際、賃貸だと中々適した物件が見つからないため、施設を建てる助成があるとありがたい。

④児童養護施設 D

○入所児童の傾向、ケアニーズについて

- 被虐待児がここ数年で 9 割を超えているのが現状である。虐待に至った理由として発達障害のある児童の入所が増えている。
- 親も発達障害を持っており社会から孤立している場合が多い。
- 最近には特に高齢児童や精神疾患のある児童の入所が増えている。
- 愛着関係と依存関係の課題がある。コミュニケーションのベースの部分であるため、その部分が脆弱であることで、他者とのコミュニケーションや自分を大切にできないなどの問題に繋がる。
- 昔は施設に入所して完全に切り離された生活が存在したが、今は携帯一つで SNS や他の居場所を求めることが出来るため、子どもが施設内の人間関係などで困難に直面した際に、踏ん張れずに他の居場所に行ってしまうことがある。
- 親にも特性があるケースが多いので保護者の対応にもある程度のテクニックが必要であり、職員は緊張感をもって対応している。

○小規模化、地域分散化の状況

- 様々な課題を抱えた児童と一緒に暮らす喜びや、無意識の中で育ちあえる環境を作り、互いの違いを理解し合い自分を取り戻していくことを目的としている。時代が変わって保護と管理が重要とされなくなったことが背景にある。
- 強制的に何かをやらせるのではなく、スポーツでも芸術でもやりたいことを見つけるきっかけを作るのが今の施設の役目であり、時代の流れである。多職種の専門家がいて補い合いながら子どもが育ち、全員ではないが本来の自分を取り戻していける流れを経験している。

○小規模化、地域分散化施設に対するバックアップの取組

(関係機関や施設内の専門職との関わり)

- 入所時に児童相談所のフォローを行い子どもの親との繋がりを強く構築している。

(緊急時の把握と対応)

- 敷地内に小規模拠点が点在するのでお互いのフォローはしやすくなっている。職員のみ通行可能な通路から隣の家に行くことができる。
- 各家庭に緊急ブザーが設置されていて非常ベルのように全館どこで家庭で発報したかわかるようになっている。

(メンター等相談しやすい環境)

- 状況を共有して結果は出なくても、今行っていることへの評価を定期的に正しく行わないと、職員が無力感にさいなまれてしまう。状況を把握しながらオープンに語らい、事が重篤化する前に敏感に察知し議題にあげることが大事である。

(その他)

- 何をするにも人材不足で色々なニーズに対応できない状況にある。効率化・支援だけでは対応が難しい。
- 18 歳がゴールではなくその先を見据えた養育が重要であり、地域に根付いた制度が必要である。

2) 乳児院

① 乳児院 A

○入所児童の傾向、ケアニーズについて

- 近年親の精神疾患が多いと感じる。
- 児童相談所から来たときの子どものアセスメント（環境要因なのか先天的特性なのか分からない）や対応が難しい。
- 課題やケアニーズは大きくなっているが、20年前と比較して地域での養育が受けやすくなった。専門職（看護やリハ）と関わりやすくなった。
- 医療的ニーズを抱えた子どもにも、虐待による愛着障害等が重なっていることがあり入所前の家庭の状況を見ることができれば良いと思う。
- 施設に来た当初は抱っこがしにくい、なかなか眠らない、音に敏感、入浴時に不安定、などのケースがある。
- 入所当初に全く泣かないとなると怪訝に思う。少し経ってから自傷他害となって影響が現れたりする。

○小規模化、地域分散化の状況

- 日中は小規模だが夜間は本園で過ごす。
- 小規模化・地域分散化の効果として感じていることとしては、子どもの言葉が増え、グループの子ども同士の仲間意識が増える。
- 夜間は本園（集団）に戻るため、日中と夜間の切り替えができる。

○（小規模化、地域分散化における）障壁や課題

- 職員にとって、自身が親のように愛情を注いできた子どもが施設を離れる際には様々な葛藤がある。職員のケアに心理職員を入れて、こうした葛藤を言語化する支援を行っている。また中堅職員を交えた関わりを心掛けている。
- （夜間は本園（集団）に戻るため）日中と夜間の切り替えができない子ども（発達に課題がある）の対応。

○小規模化、地域分散化施設に対するバックアップの取組

（組織体制について）

- 入所している子どもをグループに分けて、グループリーダーと主任を配置している。

（関係機関や施設内の専門職との連携）

- 母子面会時には親の状況確認が必要なので、親の主治医や院内社会福祉士の意見を重要視している。親と子供の両方に大人がつくような形で母子面会をスタートしている。
- 療育関係の施設と病院と多く連携している。特に嘱託医は24時間連携をとっている。比較的大きい子どもが多いので幼稚園も連携といえる。
- 公認心理師がおりプレイセラピーを実施している。1回30分、毎週や隔週で実施している。記録を行いケースカンファレンスで共有し状況によっては母親へも共有している。
- 4～5歳が多いため児童相談所と連携し子どもの現状を報告している。

（メンター等相談しやすい環境）

- 日常では、声掛けを心掛けている。週に複数回は面談で振り返る時間を設けており、安心・不安・今後の希望

を聞いている。

- ケースカンファレンスで子どもの状況報告を多職種で実施し、担当職員が自分以外の職員も担当児を見てい
と感ずることができる。

(その他)

- 子どもの一生を断続的にしないために乳児院は何ができるかを考える必要がある。乳児院にいる間だけが、子
どもの一生ではない。社会的養護の実情と、何を大事にして養育を行っていくのかという部分を世間に伝えていく必
要がある。
- 乳児院の職員と、子どもがこれから行く施設（児童養護施設等）にいる大人や両親との関係性が良好である
ように努力している。

②乳児院 B

○小規模化、地域分散化の状況

- 小規模化の目的は、家庭的養育に近づけるため（通常の家では、父母がつきっきりで乳児の子育てをしてい
る）。子どもとの関係性を構築するために、個別に応答できる体制を整える。

○小規模化、地域分散化における障壁や課題

- 養育に当たる職員の共感疲労の問題に対応する必要があると考えている。

○小規模化、地域分散化施設に対するバックアップの取組

(組織体制について)

- 複数人で養育単位を担当している。ある意味バックアップのような体制が日常的に取れている。

(子どものアセスメント)

- 乳児期との関係性構築の様子をビデオ録画している。録画記録を踏まえ、職員がどのようなアクションを取ると、乳
児たちがどのような反応を示したか等を文書として整理している。そのまま乳児のアセスメントとして、活用している。

(関係機関や施設内の専門職との連携)

- 同じ施設内に児童養護施設や療育施設があるため、緊急時には協力を得るようにしている。近隣に総合病院
があり、医療連携をしている。
- 心理担当職員が乳児-職員との関係性構築支援を行っている。担当乳児と職員を観察してフィードバックを行っ
ている。

(メンター等相談しやすい環境)

- 心理的なバックアップが重要のため職員が孤立しないよう、職員同士、責任者-職員の会話は多くするよう心掛
けている。

③乳児院 C

○入所児童の傾向、ケアニーズについて

- 発達障害の傾向のある子どもがおり、2 歳になるまでにしっかり観察をして対処する際に適切な繋ぎを行うように
している。
- 医療的なニーズを抱えた子どもが 1 割程度いる。（てんかん発作、血管腫、副作用管理の必要な薬剤を使用

している、等)

- 若年母子の割合が 1 割程度いる。親の両親（子どもの祖父母）が機能不全家族であったり、周囲の支援が不足していることがある。

○小規模化、地域分散化の状況

- 子どもの変化の対応がしやすくなり、特定の職員が対応できることによって子どもとの関係が近づき安心につながっている。

○小規模化、地域分散化における障壁や課題

- 人員配置上の課題：技量のある職員を配置するのは工夫が必要であり、ベテラン職員の技術などを若手に教えるという点においても、地域小規模施設のように物理的に別の場所になってしまうとできなくなってしまう。職員のモチベーションにもあまり良い影響ではない。
- 夜勤帯において職員 1 人当たりの子どもの見る人数が多くなる。
- 本体施設が人員配置上の課題をどのように解消するか、ベテラン職員の経験の共有をどのように行うかというのが重要である。

○小規模化、地域分散化施設に対するバックアップの取組

(組織体制について)

- 部屋長が職員の個別の問題に全て対応し、対応しきれないことや組織的に対応する必要があることは、フロア長の対応となる。

(関係機関や施設内の専門職との連携)

- 心理の職員が専門的判断について説明しても、保育士には保育の専門性の視点があり、専門職ごとの視点のずれやわだかまりが発生することがある。
- 産前産後母子支援の担当者がいるため、役所の手続きや見守りを実施している。

(メンター等相談しやすい環境)

- 昼間であれば複数人数の職員がいるのでメンターへ相談できることにはなっているが、そのような関係性が出来ているかと言われると難しい。
- 制度として取り入れていないが、同じ部屋の担当がメンター的存在になる。しかし職員間の相性についての考慮はできるときと、できないときがある。

④乳児院 D

○入所児童の傾向、ケアニーズについて

- 近年一時保護の件数が増えている。
- 児童の一時保護の相談がある。高齢児が増えている。
- 入所の理由として一番多いのが心理的虐待（ネグレクトや置き去り）である。母親の精神疾患や不調は昔から多い。
- 新生児委託を実施しているため 0 歳児が増えている。望まない妊娠などにより、母親が妊娠時から自身と胎児

のケアができていないことが多い。

- 入所当初に子どもが虐待を疑われる症状（目が合わない、笑わない、など）があり、特に1歳以上で入所となる子どもは回復に時間がかかる。
- 家庭復帰や里親委託というゴールが見えてくると、子どもが自信を持ってきている様子などが見られるが、成長が上手いかない子どもには1対1の時間を多くとるように個別の職員が対応している。

•

○小規模化、地域分散化の状況

- 当初より小規模化を実施。乳児保育のなかでチームで対応できるのが乳児院の強みである。

○小規模化、地域分散化における障壁や課題

- 2歳を超えると発達障害や自閉症を疑う症状が現れてくるので、3歳児以上のクラスでは目が離せない。
- コロナ禍によって職員同士の対面の交流が難しかった。

○小規模化、地域分散化施設に対するバックアップの取組

(組織体制について)

- チームで関わっていかないと職員が徒労感を感じてしまう。子どもとの関わりのなかで感じたモヤモヤなどを共有できるようなチームの土壌作りが大事である。
- 担当制であり、今年から職員は夜勤帯には別室でしっかり休憩を取るようになっている。
- 別事業を含めた様々な加算等を獲得し、職員の潤沢な配置を心掛けている。
- 全職員参加の会議がある。原則として全員参加し、共有の機会を作っている。参加に際して対価を払うようにして、コミュニケーションを取るよう努力している。

(メンター等相談しやすい環境)

- 新人職員へのメンター制の導入。
- 同期で話す機会を作るようになっている。また研修をフォローアップに含めて実施している。
- 全員参加の職員会議の実施。

(その他)

- 自分自身を表出できる土壌づくりを施設として心掛けている。
- 乳児院の目的が家庭復帰なのか、里親委託なのか見極めて、状況がまだ分からないうちから子どもへの説明を実施するのが必要である。
- 家族支援の観点が重要である。子どもを見るだけでなく、そもそも親の自尊心や自己肯定感への配慮といった両親との関係性の構築が必要となっている。

第5章 分析及び考察

1. 各調査結果の考察

(1) アンケート調査にみる状況

アンケート調査を踏まえた、小規模化・地域分散化された施設における職員の状況やバックアップに対するニーズについて以下に述べる。

1) 児童養護施設

本体施設によるバックアップの取組は一定程度行われているが、職員の支援に対するニーズと本体施設の取組内容にギャップがある

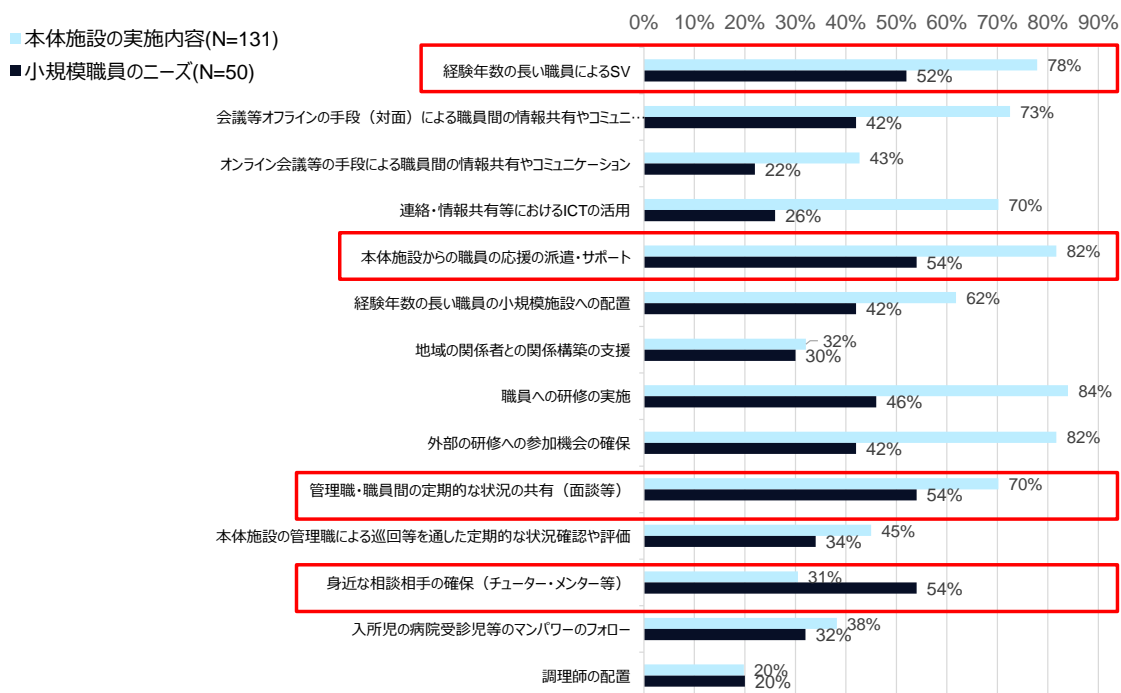
第4章で述べた通り、アンケート調査では、職員が業務上の困難さや業務の負担感を感じる要因として子どものケアニーズへの対応の難しさ、自身のスキルやノウハウへの不足感といった課題が明らかになった。また、自由回答からは、1人で対応する時間、経験の少ない職員のみでの対応する場面の多さに関する意見が多く挙げられており、小規模化・地域分散化によって、職員が経験の多寡に関わらず、1人で子どもに対応する時間が増えていることが示唆された。

職員のバックアップのニーズと本体施設の取組を比較したところ、「身近な相談相手の確保」のニーズが高いにもかかわらず、取組があまり行われていないことが分かった（図表 5-1）。その他、SV、本体施設からの職員の派遣、管理職・職員の定期的な状況共有等のニーズが比較的高い。また、支援の望ましい頻度からも、身近な相談相手によるサポートに対するニーズが高いことが示唆された。

また、自由回答からは、本体施設に求める支援として、現場の状況の理解・アドバイスを求める意見が最も多く、次いでトラブル対応のフォローが挙げられた（図表 5-3）。

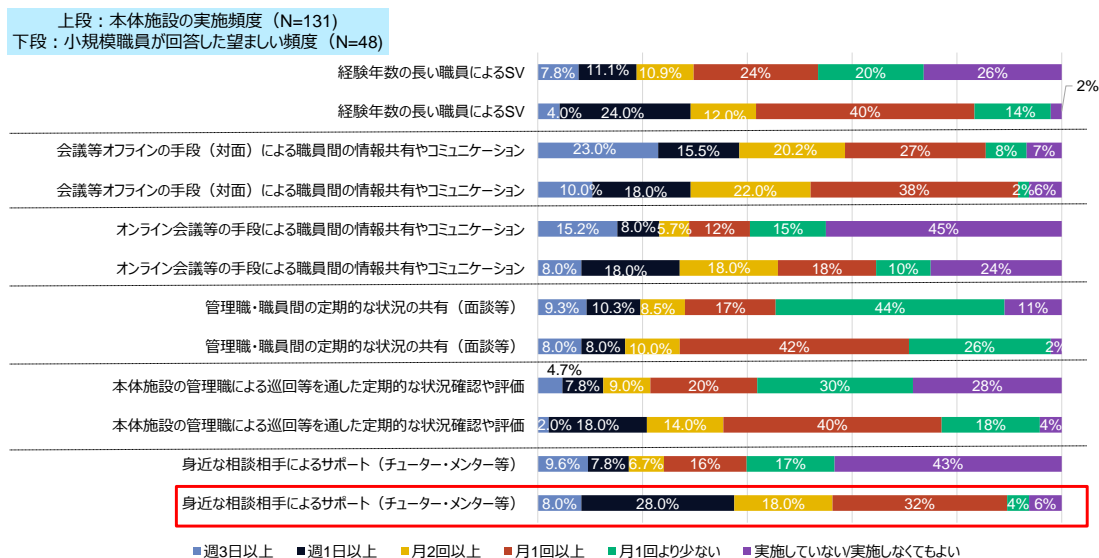
これらの結果から考えられる職員のバックアップのニーズとして、「誰かに気軽に相談や共有を行える（抱え込まなくてよい）環境」や、「気にかけてもらっていると感じられ、必要があればすぐに相談ができる環境」「1人で対応が難しい際に必要な支援を受けられること」等の要素が挙げられる。

図表 5-1 職員のバックアップのニーズと本体施設の取組



※小規模職員のニーズは追加アンケートにより調査

図表 5-2 バックアップの望ましい頻度と本体施設のバックアップの頻度



※小規模職員の支援の望ましい頻度は追加アンケートにより調査

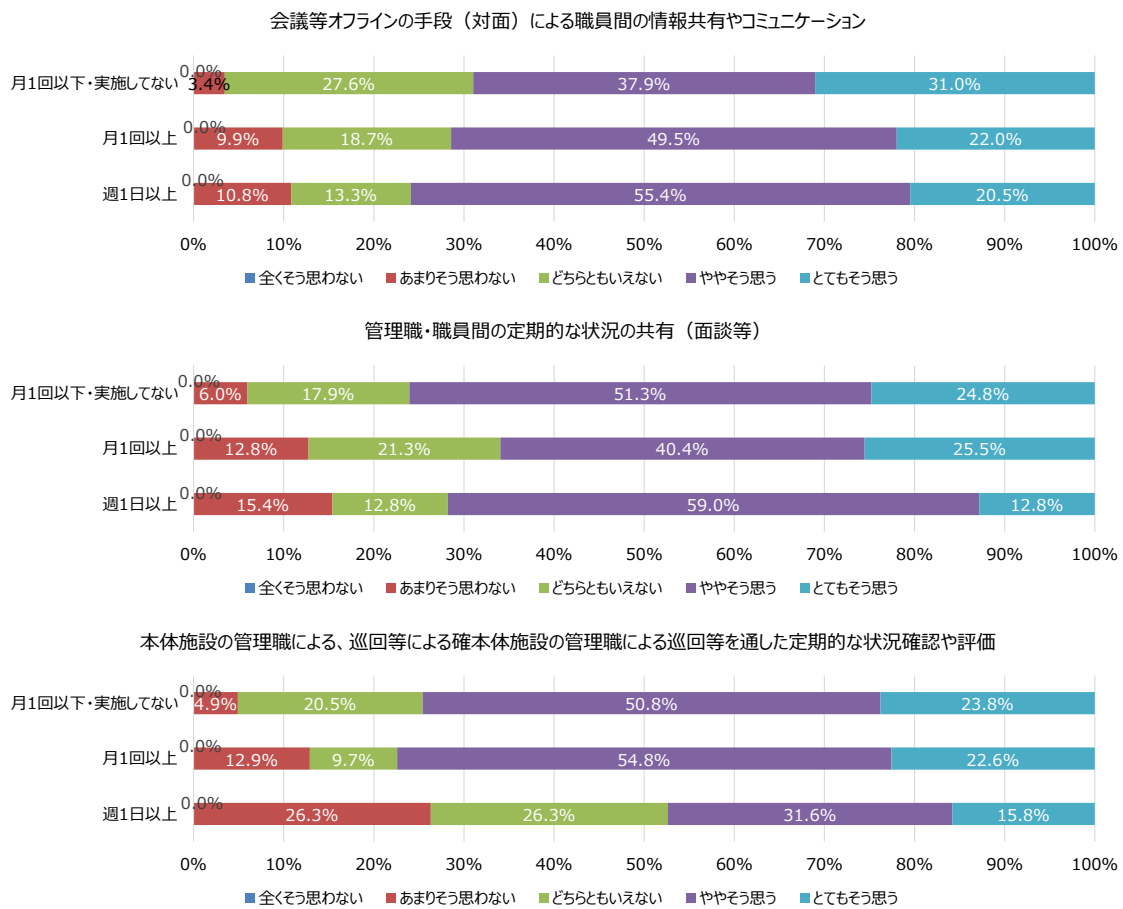
図表 5-3 本体施設に求める支援

現場の状況の理解、アドバイス等	情報を共有し、支援が正しく行われているかの判断。また何かあった際のフォロー
	こまめに気にかけてもらい、アドバイスを頂きたい。また認めてもらいたい。
	これまでの自立支援の成功例や失敗例を元に、難しい児童の自立をより良い方向に導いていけるようなアイデアや方法を具体的に教えて欲しい。
	ホームの現状を理解してもらい、対応策をアドバイスしてもらう。
	現場の声をもっと聞いてもらいたい。
	困っているときに支援をするのではなく普段から現場のことも視野に入れていつでも支援できる状態であってほしい
トラブル対応	小規模は孤立しがちのため、支援で悩んだ際に相談に乗ってもらえたら助かります。話を聞いてもらえるだけでも楽になることが多いです。
	職員同士のコミュニケーションや連携、相談
	急な通院対応時などの勤務フォロー、頻度は少なくとも複数人勤務を実施する為の勤務フォロー、定期的な支援の振り返りの場の設定
	問題行動があったさいの勤務カバーをして貰えたら助かります
	トラブルのフォロー時や関係機関(学校、市、児童相談所など)との調整。
マンパワーの確保	児童の送迎の協力体制。緊急時の協力体制。
	職員が不足している時に応援に来てくれること
	調理補助、児童の送迎
定期的な巡回等による状況の把握	1人で留守番をする事が難しい子を、もう少し気軽に預かってもらえたら、担当との時間が持ちやすいと感じます。
	管理職による巡回等を通じた定期的な状況確認や評価
	用事が無くても、子どもの様子や職員の様子など部屋の雰囲気を感じ、子どもの身近な存在でいるように顔を出してほしい。
	定期的な小規模施設の職員への聞き取り調査

本体施設によるこまめな状況の把握が行われるほど、職員の負担感が小さくなる傾向がみられた

職員票の調査結果について、業務の負担感を感じているか（5段階評価）と本体施設から受けている支援の頻度についてクロス集計を行ったところ、「会議等オフラインの手段（対面）による職員間の情報共有やコミュニケーション」「管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）」「本体施設の管理職による、巡回等による本体施設の管理職による巡回等を通じた定期的な状況確認や評価」において、実施の頻度が高いほど、職員の負担感が小さい傾向が見られた。この結果から、本体施設によるこまめな状況の把握が、職員の負担感の軽減に寄与する可能性が示唆された。

図表 5-4 業務上で負担感は大きいと感ずるか × 本体施設から受けている支援の頻度



2) 乳児院

本体施設によるバックアップの取組は一定程度行われているが、職員からは現場の状況の把握やマンパワーのフォロー等のニーズに係る意見が挙げられている

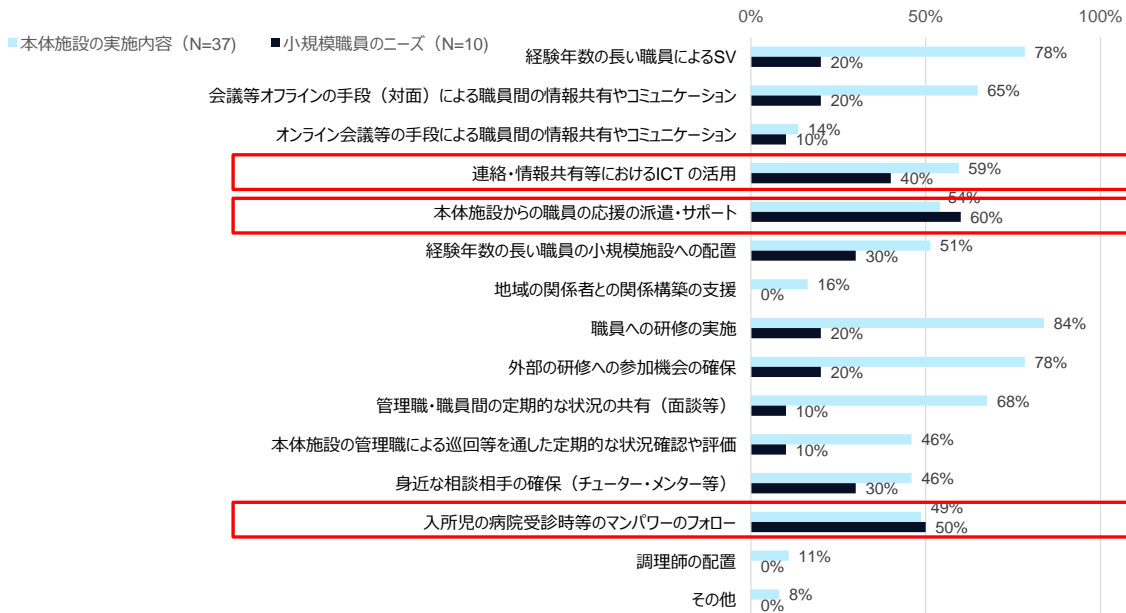
アンケート調査では、職員が業務上の困難さや業務の負担感を感じる要因として子どもの問題行動への対応など、子どもへの対応の難しさ、自身スキルやノウハウへの不足感といった課題が明らかになった。知識やスキルの不足感については、医療的ケア、発達障害、愛着形成などについての意見が多く挙げられ、ケアニーズの高い子どものアセスメントや対応における後方支援のニーズが高いことが示唆された。

職員のバックアップのニーズと本体施設の取組を比較したところ、本体施設からの職員の派遣、入所時の病院受診時等のマンパワーのフォロー等のニーズが高い結果となった（図表 5-5）。

また、自由回答からは、本体施設に求める支援として、現場の状況の理解・アドバイスを求める意見が最も多く、次いでトラブル対応のフォローが挙げられた（図表 5-6）。

これらの結果から考えられる職員のバックアップのニーズとして、「誰かに気軽に相談や共有を行える（抱え込まなくてよい）環境」や、「気にかけてもらっていると感じられ、必要があればすぐに相談ができる環境」「1人で対応が難しい際に必要な支援を受けられること（ケアニーズの高い子どものアセスメントの支援等）」「ICT等の活用による業務の効率化」等の要素が挙げられる。

図表 5-5 職員のバックアップのニーズと本体施設の取組の比較



※小規模職員のニーズは追加アンケートにより調査

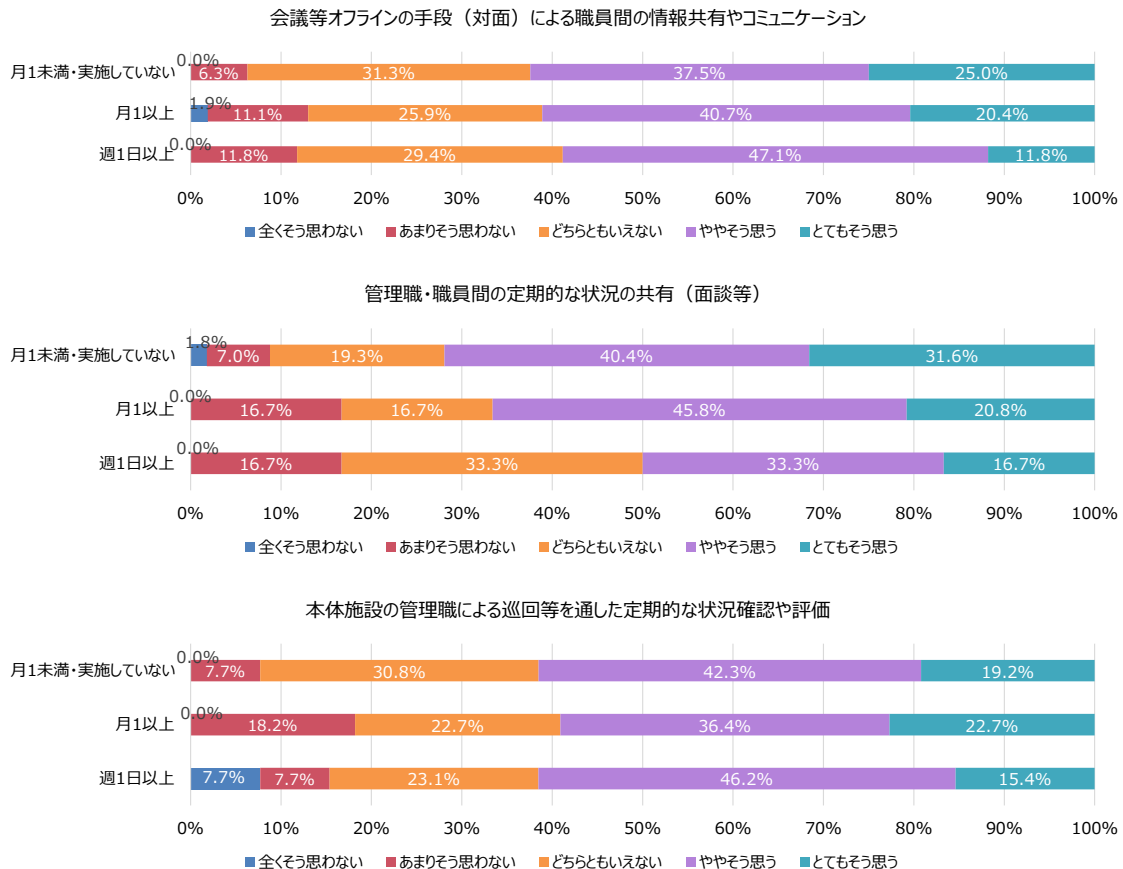
図表 5-6 本体施設に求める支援

現場の状況の理解、アドバイス等	こまめな面談で悩みなどを話しアドバイスしてもらえ時間が欲しい。
	困難なことに直面した時に、温かいアドバイスと一緒に悩み考えてくれることが、困難を乗り越える力になると考えている。
	養育について現場をもっと見てもらって、適切な関わり方や不適切な関わりなどの指導(一人ひとりの職員の良い所や課題ある所の把握をした上で)をしていただきたいです。
	現場の状況を実際見たり感じたりしてほしい
マンパワーの確保	・職員個人個人のスキルの把握・若手職員が相談できる機会・勤務歴が長い職員のワンマンにならないよう風通しを良くする
	人手が足りない時の応援と、日々の状況や職員の働き方の把握など、こちらが言わなくても知っていて欲しい
	個別的な対応が必要な場面で、他の複数の児童をケアするためにマンパワーの支援(まったなしの状況のため)
ICT化	十分な人材確保、人材育成、長く勤めるための職員間の関係把握、管理。
	記録等の電子化

本体施設によるこまめな状況の把握が行われるほど、職員の負担感が小さくなる傾向がみられた

職員票の調査結果について、業務の負担感を感じているか(5段階評価)と本体施設から受けている支援の頻度についてクロス集計を行ったところ、児童養護施設と同様に、「会議等オフラインの手段(対面)による職員間の情報共有やコミュニケーション」「管理職・職員間の定期的な状況の共有(面談等)」「本体施設の管理職による、巡回等による確本体施設の管理職による巡回等を通じた定期的な状況確認や評価」において、実施の頻度が高いほど、職員の負担感が小さい傾向が見られた。この結果から、本体施設によるこまめな状況の把握が、職員の負担感の軽減に寄与する可能性が示唆された。

図表 5-7 業務上で負担感は大いと感じるか × 本体施設から受けている支援の頻度



(2) ヒアリング調査結果にみる状況

1) 児童養護施設

アンケート調査では、地域分散化や小規模化が進んだことにより、経験の少ない職員でも小規模グループ全体を1人で対応する場面が増えたことや、本体施設や他のグループとの物理的距離が生じたことにより、職員が抱え込む状態に陥りやすいこと等が示唆された。これらを踏まえ、支援が必要な状況を的確に把握するとともに、職員が身近に相談できる環境を整備する等の必要があると考えられた。一方で、本体施設側のバックアップにおける課題として、バックアップを行うマンパワーの不足が挙げられた。

上記を踏まえ、ヒアリング調査においては、バックアップどのように職員に対する後方支援を効果的に行うことができるかについて、調査を行った。

ヒアリング調査の結果、バックアップの取組に係るポイントとして、以下のような取組の共通項が挙げられた。

- 問題が発生してから把握や対応を行うのではなく、日常的に職員やこどもの状況を把握すること
- メンターや食事をする場を設ける等、横のつながりを作る仕組みをつくること
- 職員のスキルを伸ばす観点から、子どもの状況と職員の能力・状況を踏まえ、どこまで支援を行うべきかの見極めを行うこと
- 上記を実現するため、また小規模施設のリーダー・それらを統括するリーダー等、職員をバックアップするための組織を編成すること
- また、上記に加え、以下のような個別の取組の工夫がみられた。
- 外部の専門職との連携
- 非専門職（生活支援を行う職員）の介入
- ICTの活用による連絡・情報連携の効率化

2) 乳児院

アンケート調査から、施設内における小規模化が進められており、夜間等における1人対応等や子どものケアニーズが高まった際において、職員が経験・スキルの不足やマンパワーの不足を感じていることが示唆された。一方で、本体施設側のバックアップにおける課題として、バックアップを行うマンパワーの不足が挙げられた。

上記を踏まえ、ヒアリング調査においては、職員が負担感を感じる背景の詳細な状況や、マンパワーに限界があることを踏まえたうえで、どのように職員に対する後方支援を効果的に行うことができるかについて、調査を行った。

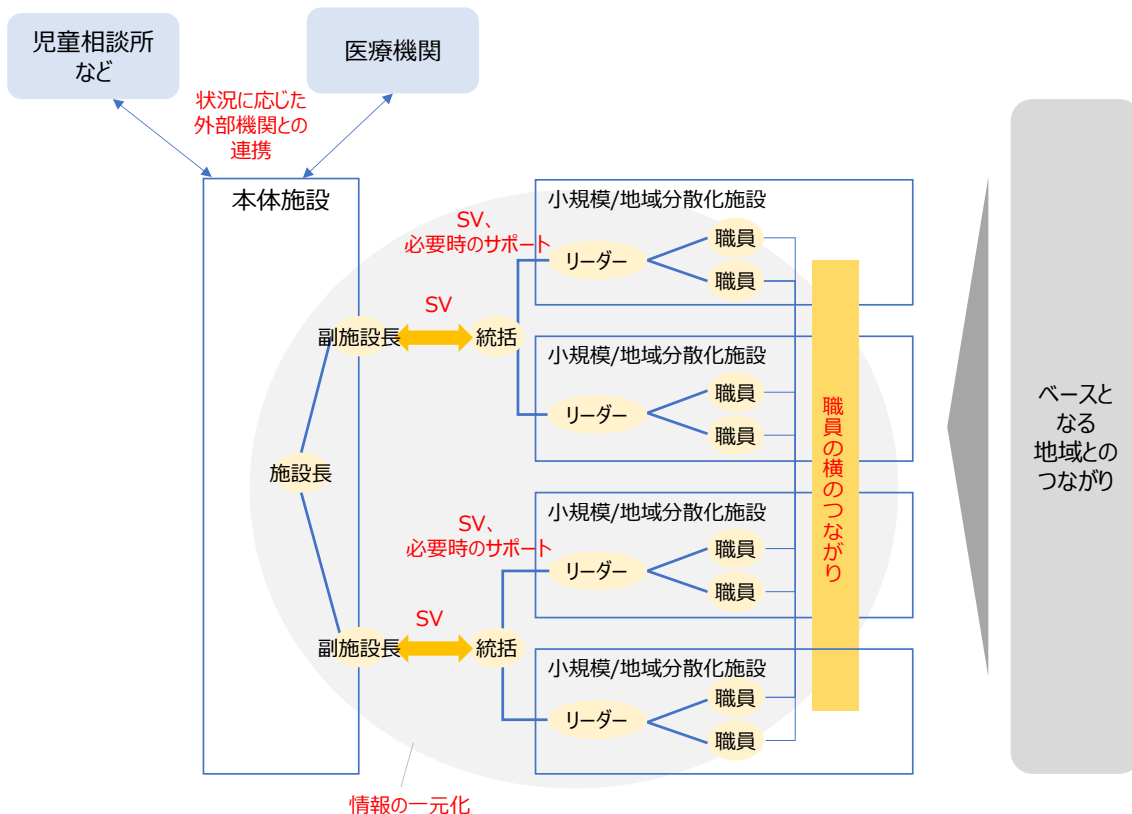
ヒアリング調査の結果、バックアップの取組に係るポイントとして、以下のような取組の共通項が挙げられた。

- 職員が子どもとの関わりのなかで感じる不安や負担感等を共有できるよう、ケースの共有の機会の設置やチームの土壌作りを行うこと
- 乳児のアセスメントや乳児と職員の関係構築において、必要に応じて、施設内の心理職の職員との連携や、外部の医療機関との連携を積極的に行うこと

2. 全体のまとめ

小規模化・地域分散化における現状及び支援に対するニーズ、またヒアリング調査で得られたバックアップの取組の実態を踏まえ、本体施設によるバックアップにおいて取り組むべき取組の全体像について、図表 5-8 の通り整理を行った。

図表 5-8 本体施設において取り組むべきバックアップの取組の全体像（イメージ）



児童養護施設・乳児院では小規模化・地域分散化が進められている一方で、調査を通して、職員のバックアップのニーズに対応する体制の整備は十分に進んでいるとはいえない状況が明らかになった。また、医療的なケアを要する子どもや高齢児の入所の増加など、専門的知見を踏まえたケアを要する子どもが増えたという意見も挙げられた。これまで以上によりきめ細やかな職員の支援や指導、あるいは施設本体と小規模化・地域分散化した施設との連携、医療機関等の外部機関との連携等が求められていると言える。

上記のことから、子ども・職員に対するアセスメントを適切に行い、状況に応じたマッチング、フォロー、後方支援を行うため、組織内において以下のような点を推進する必要があると考えられる。

- 子どもや職員の状況をこまめに把握し、SV や必要時のサポートを組織的に行うための体制の構築
- 現場の子どもや職員の情報を一元化する仕組みや体制の強化（組織体制の構築、ICT の活用等）
- 職員間で相談や支え合いを行う横のつながりの確保

また、組織外においては、組織内の子ども・職員の状況に応じた、医療機関等の外部機関との連携、地域とのつながりの強化（子どもに関わる関係機関との連携に加え、地域の人材が生活支援を担うことで状況把握や職員のサポート的な役割を担う等、地域資源との積極的な連携を含む）を図ることが重要と考えられる。

また、小規模化・地域分散化した施設においては、施設と子ども、職員と子ども、子どもと子ども、といったマッチングの重要性が大舎制よりも高まると考えられる。そのため、本体施設の機能として子どもに対するアセスメントをより緻密に行っていくとともに、職員の能力や業務に対する認識等の把握（職員に対するアセスメント）を十分に行う必要がある。子どもの入所時におけるホームや職員とのマッチングが重要であることから、日常的な状況把握に加え、入所時の子どものアセスメントを強化する仕組み（一時保護の仕組みの活用、アセスメントホーム等）についても検討する必要があると考えられる。

3. 本調査の限界と今後の課題

本調査では、アンケート調査で明らかになった児童養護施設及び乳児院の小規模化・地域分散化の現状やバックアップに対するニーズ、またヒアリング調査を通じて得た取組内容の分析を通して、子どもや職員の状況をこまめに把握し、SV や必要時のサポートを行うための組織体制の構築や職員間の横のつながり、現場の情報の一元化が重要であることが明らかになった。

一方で、今年度の調査から明らかになった、全国の施設におけるバックアップの組織体制（人員体制を含む）、バックアップを支える人材の育成、ICT の活用等による情報の集約・管理等に係る現場の状況や課題等について、今後検討を深めていく必要があると考えられる。

第6章 成果の公表方法

弊社ホームページ上に本報告書を掲載する。

参考資料

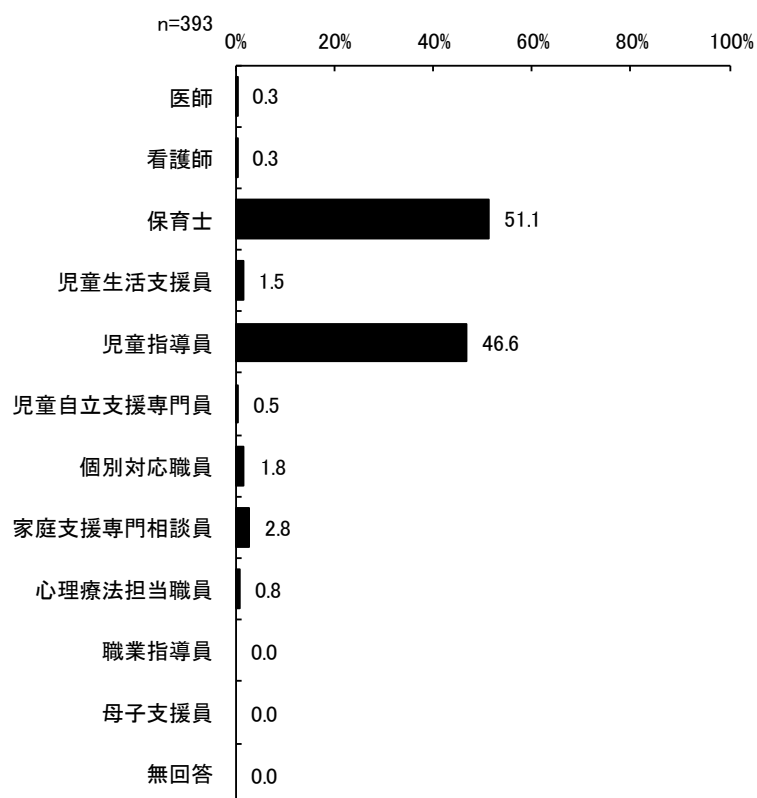
- アンケート調査結果詳細
- アンケート調査票

アンケート調査結果詳細

1) 児童養護施設 職員票

① 基礎情報

Q2 職種



Q 3 社会的養護関連施設（児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設等）での経験年数

単位：年

調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
393	9.6	8.3	0	44

Q 4 小規模施設における経験年数

単位：年

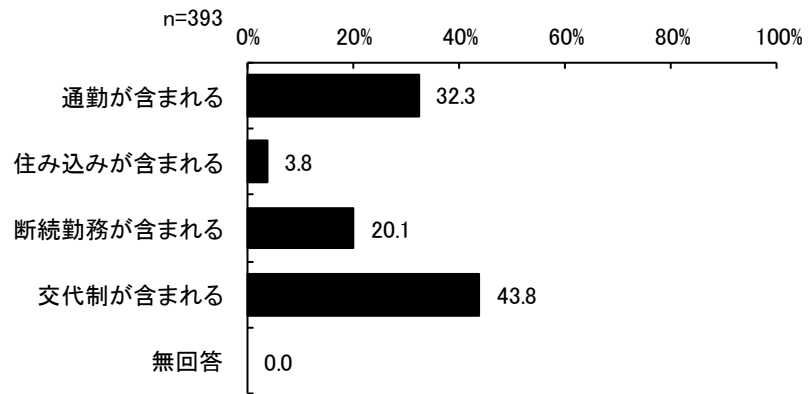
調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
393	4.3	4.0	0	29

Q 5 施設での経験年数

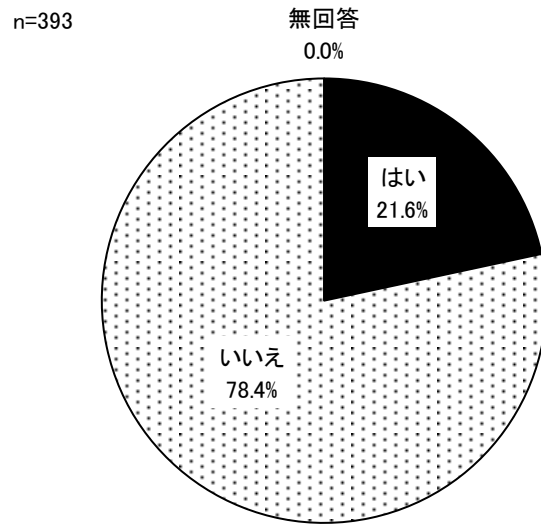
単位：年

調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
393	8.5	8.2	0	58

Q 7 勤務形態



Q 8 本体施設への兼務を行っているか



Q 9 本体施設への勤務はおよそ週何日程度か

単位:日

調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
391	0.7	1.5	0	7

Q 9 小規模施設への勤務はおよそ週何日程度か

単位:日

調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
391	4.6	1.4	0	7

Q10 担当している子どもの人数

単位:人

調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
393	4.6	2.8	0	23

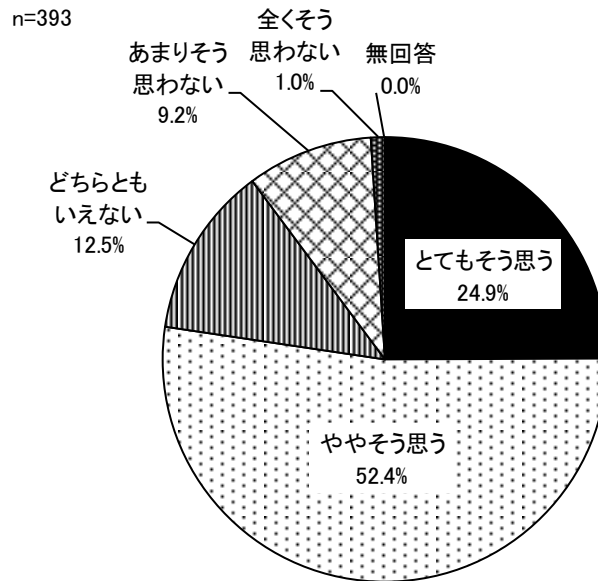
Q11 担当している子どもの人数 (2022年9月1日時点)

単位:人

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
0歳	393	0.0	0.0	0	0
1歳	393	0.0	0.1	0	1
2-3歳	393	0.1	0.3	0	5
4-5歳	393	0.2	0.5	0	2
6-9歳	393	0.9	1.2	0	6
10-14歳	393	1.7	1.5	0	11
15-17歳	393	1.4	1.3	0	9
18歳以上	393	0.4	0.7	0	4

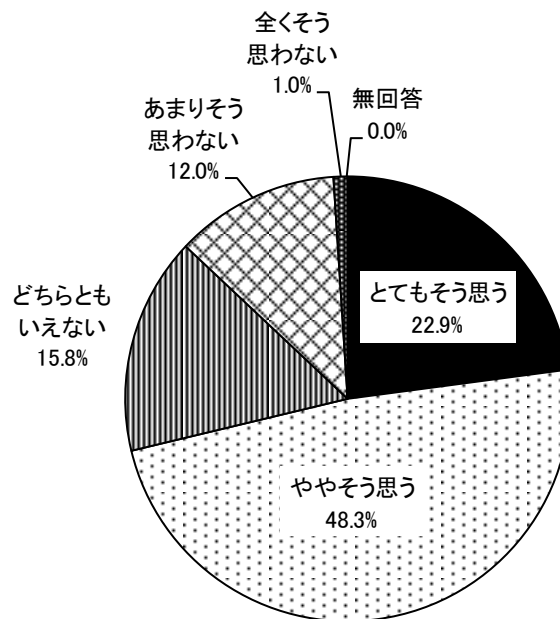
② 業務上の困難や負担感について

Q12 業務上で困難な事象に直面することが多いと感じるか

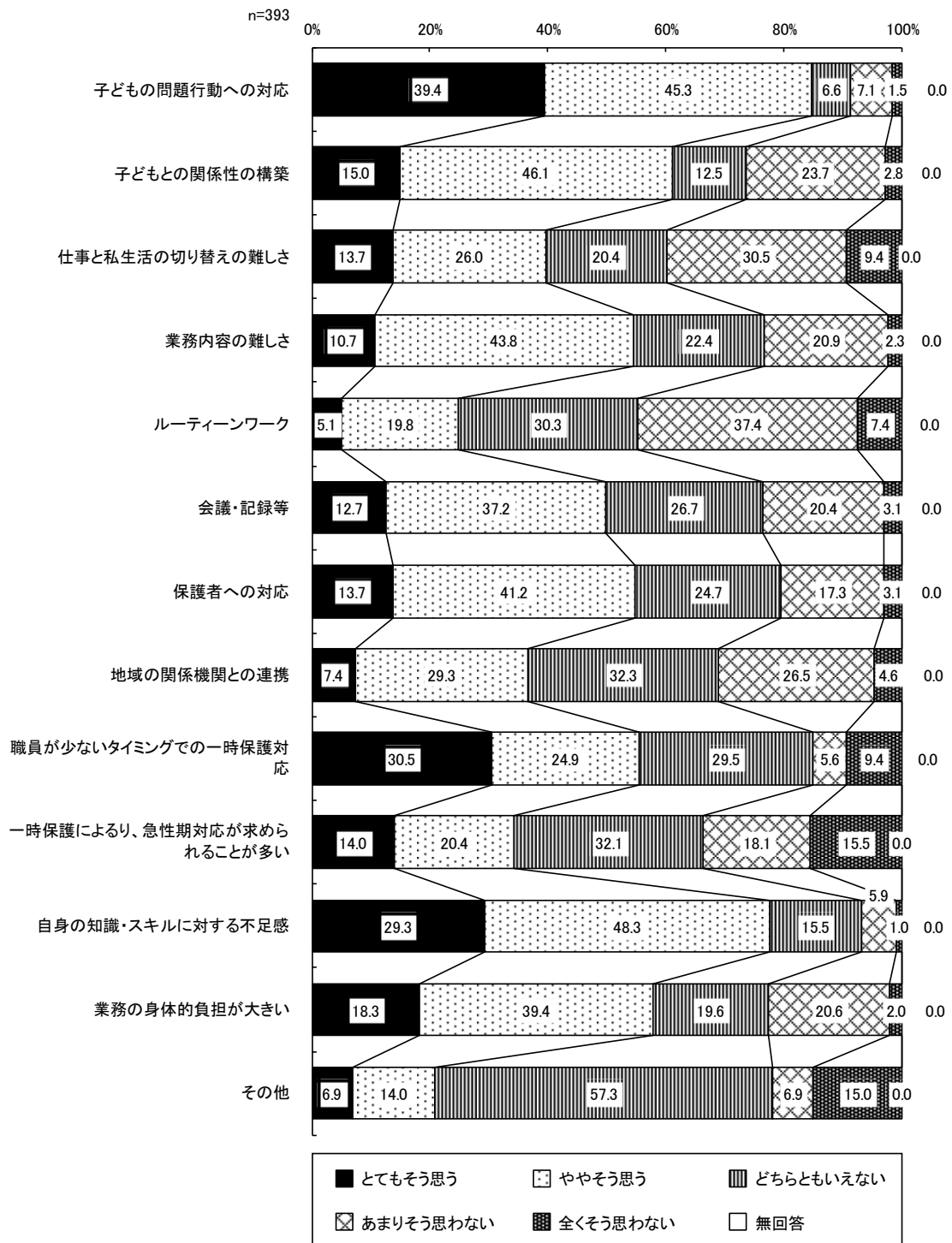


Q13 業務上で負担感は大きいと感じるか

n=393

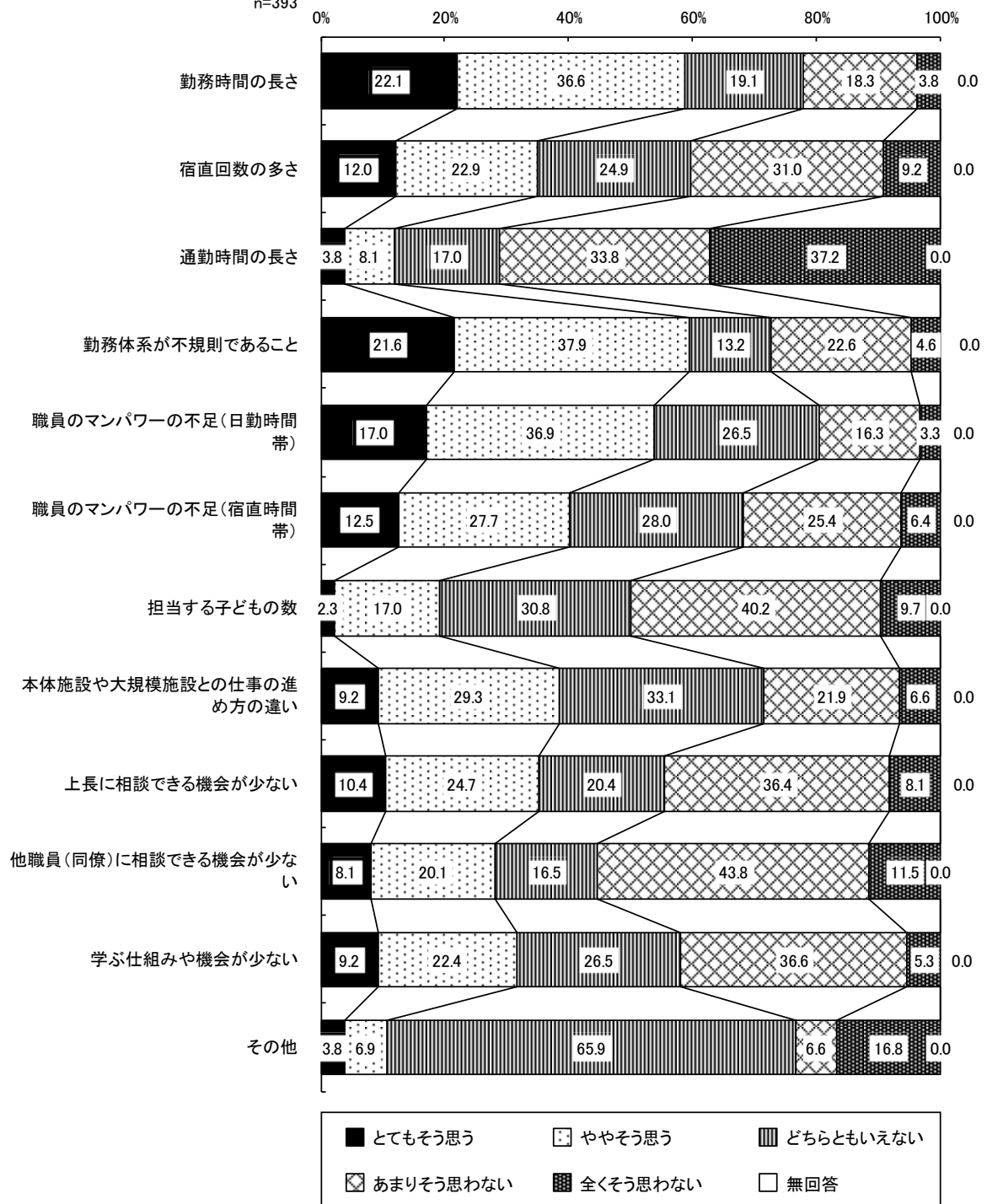


Q14 困難に直面する際の要因

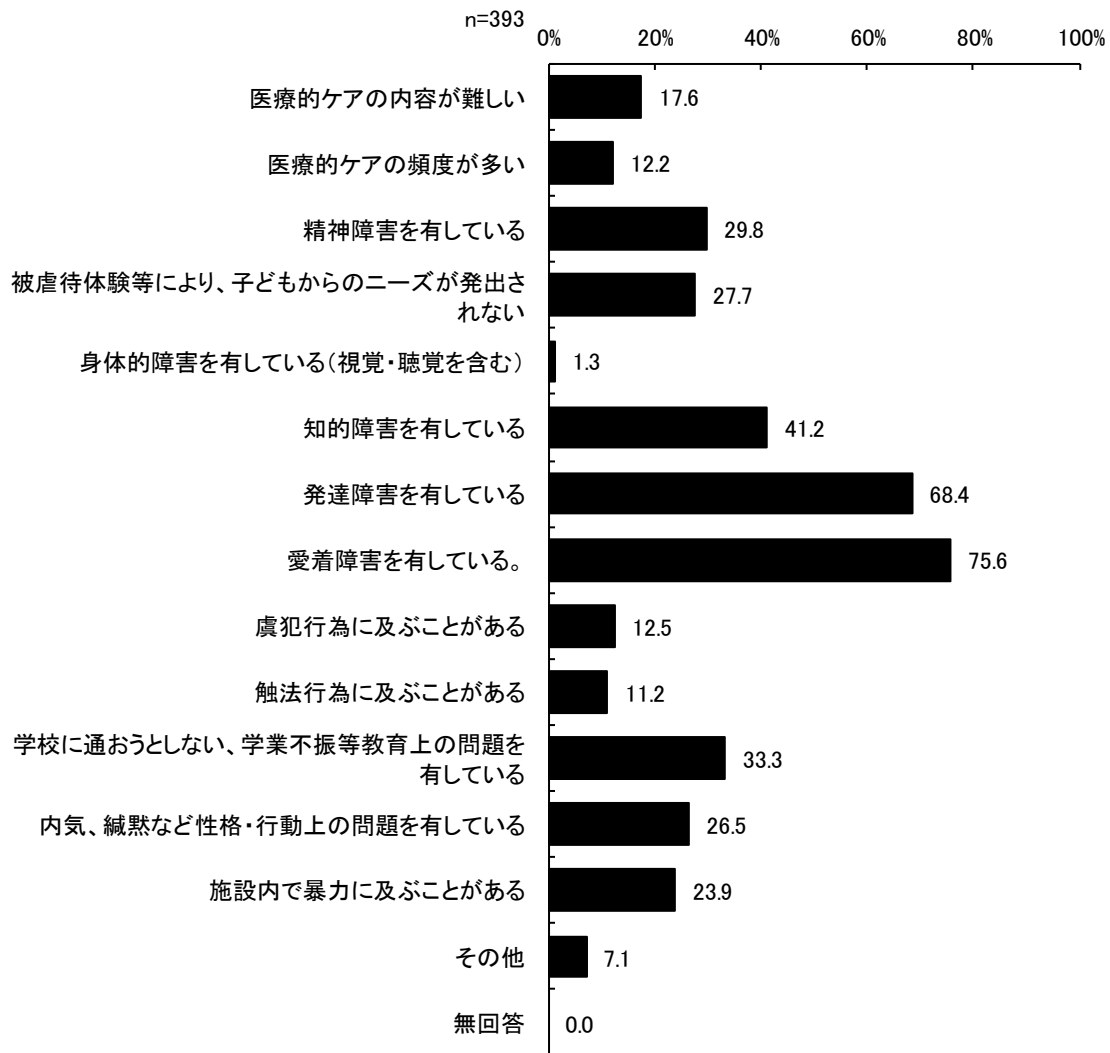


Q15 困難を感じる際の背景要因

n=393



Q16 子どもをケアするうえで困難に直面する際の背景にある子どもの状況として当てはまるもの



Q17 どのような点で知識やスキルを身に付けたいと考えるか (自由回答・抜粋)

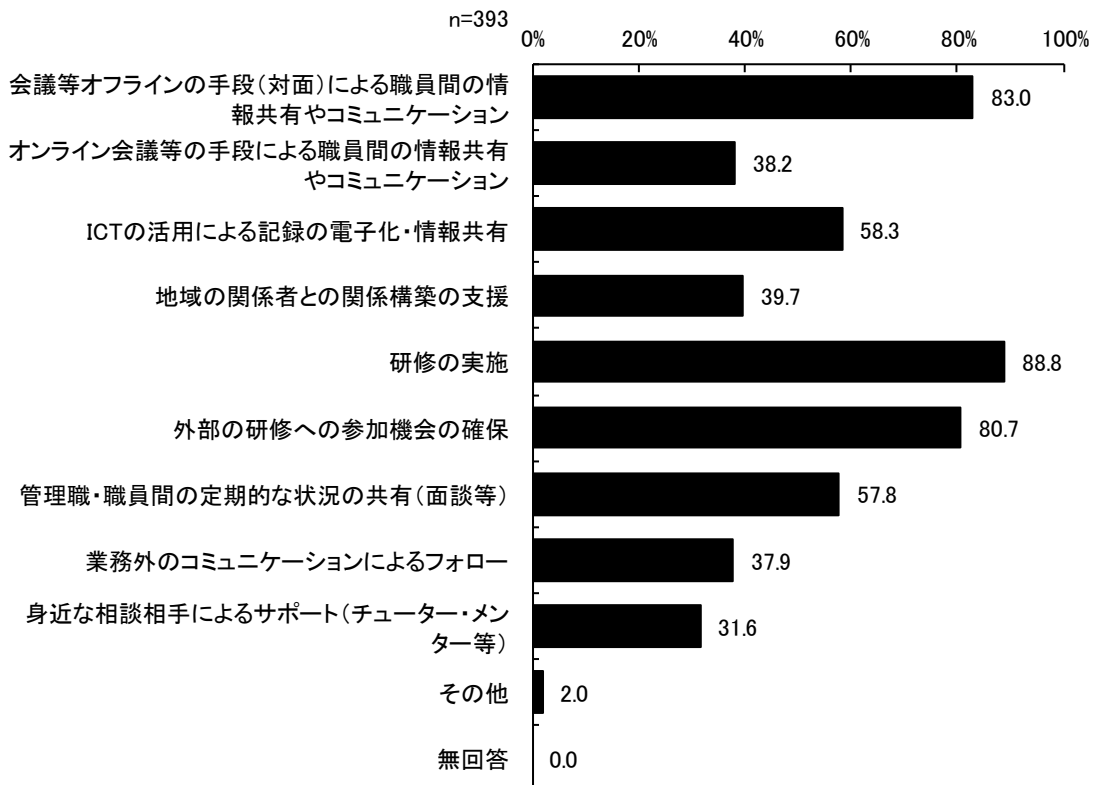
発達障害	発達課題がある子どもの対応 自立に向けた支援 発達障がい有している児童の個々の特性に応じた伝え方、性的問題行動への対応。 発達特性のある児童への、問題行動への声かけや、一般常識等の習得に対する支援方法
その他障害	自閉症等、障害を持っている児童への対応方法 障がいを持つ子どもに対する支援について。 知的障害や発達障害を有している子どもに対し、暴力行為に及んだ際や、状態が崩れた際の対処法。学校、学業への意識の高め方。
愛着障害	愛着障害を有する児童への対応スキルや知識 何事にも無気力になってしまう児童への対応 愛着や発達に課題がある児童への自立支援 虐待を受けた子ども達のトラウマやアタッチメントの専門的ケアをきちんと身に付けたい
不穏・問題行動	問題行動の対応の仕方 自分の軸がぶれない指導方法 不登校児への対応。年齢が高い時や異性の愛着障害へのこちらの受け方。
トラウマ	トラウマやフラッシュバックに対する支援の仕方 被虐待児のトラウマの対応。愛着形成において職員ができる最大限の関わり方

Q18 どのような場面で職員のマンパワーが不足していると感じるか（自由回答・抜粋）

1人での対応	<ul style="list-style-type: none"> ・一日を1人体制の断続勤務で対応する回数が多く、人数が足りていないように感じる。職員が体調不良等で休むと終日勤務になだたりと負担が大きくなっていく。 ・夕食時などで入浴、食事、宿題等の業務が多いが、必ず2人勤務では無いため、対応を困難に感じる時がある。夜間の緊急通院等も1人勤務の場合は難しいため、職員不足を感じる。 ・子どもの問題行動などが起きたときに、一人で対応しなければならない時。 ・朝、職員が一人の時、体調不良や登校渋りなど、一度に複数の対応が起きたとき。
トラブル時	<ul style="list-style-type: none"> ・通院対応や学校など児童相談所などへの訪問など、通常業務以外での対応は時間外になることが多い。 ・休憩や休日の取り方。トラブル時に複数の対応が難しいこと。 ・通院業務
子どもの不穏時	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の不穏時に対応している時 ・子どもが落ち着かないとき ・子どもが問題行動を起こしたり、施設を飛び出したりした時
職員の年齢の偏り	<ul style="list-style-type: none"> ・経験年数が浅く若い職員が多い。偏ったコミュニケーションや独善的な考えを持つ職員が多い。上司の話を素直に聞かない点。 ・入職5～10年程度の経験値のある職員が少なく、直接的な児童対応以外の業務が中堅以上職員に偏り、担当業務や勤務時間超過等に影響している。
その他全般	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の専門性の高さに反比例した職員数。1人勤務時の対応困難場面。 ・誰か一人でも休むと勤務調整をするのが大変。残業が多い。 ・日常のケアワーク（料理や掃除）とそうではない業務、地域との連携や社会資源を利用したりする中では、マンパワーが欲しいと感じる ・書類作業、事務時間の無さ

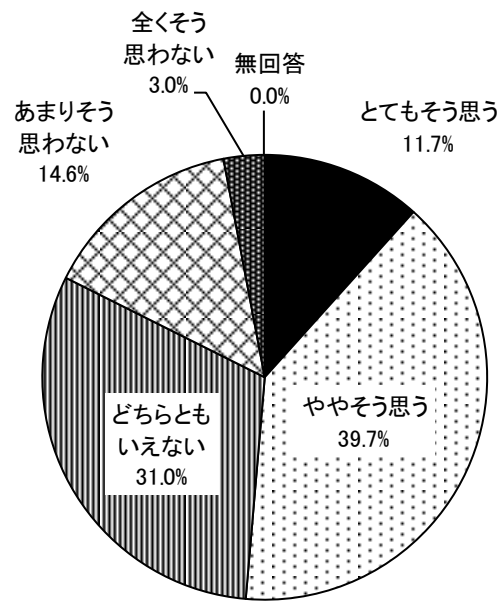
③ バックアップに係る取組について

Q19 施設内の取組で行っているもの

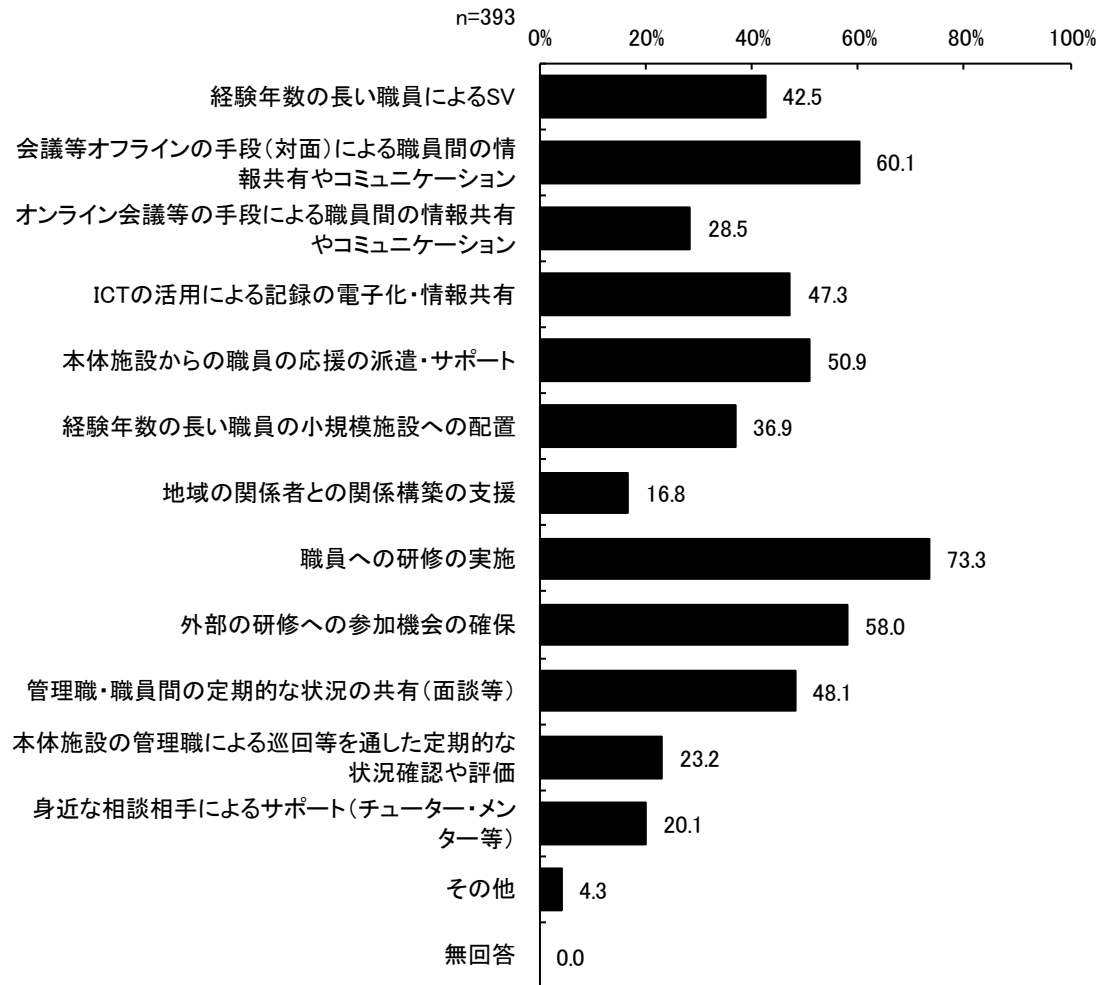


Q20 本体施設から十分なバックアップを得られていると感じるか

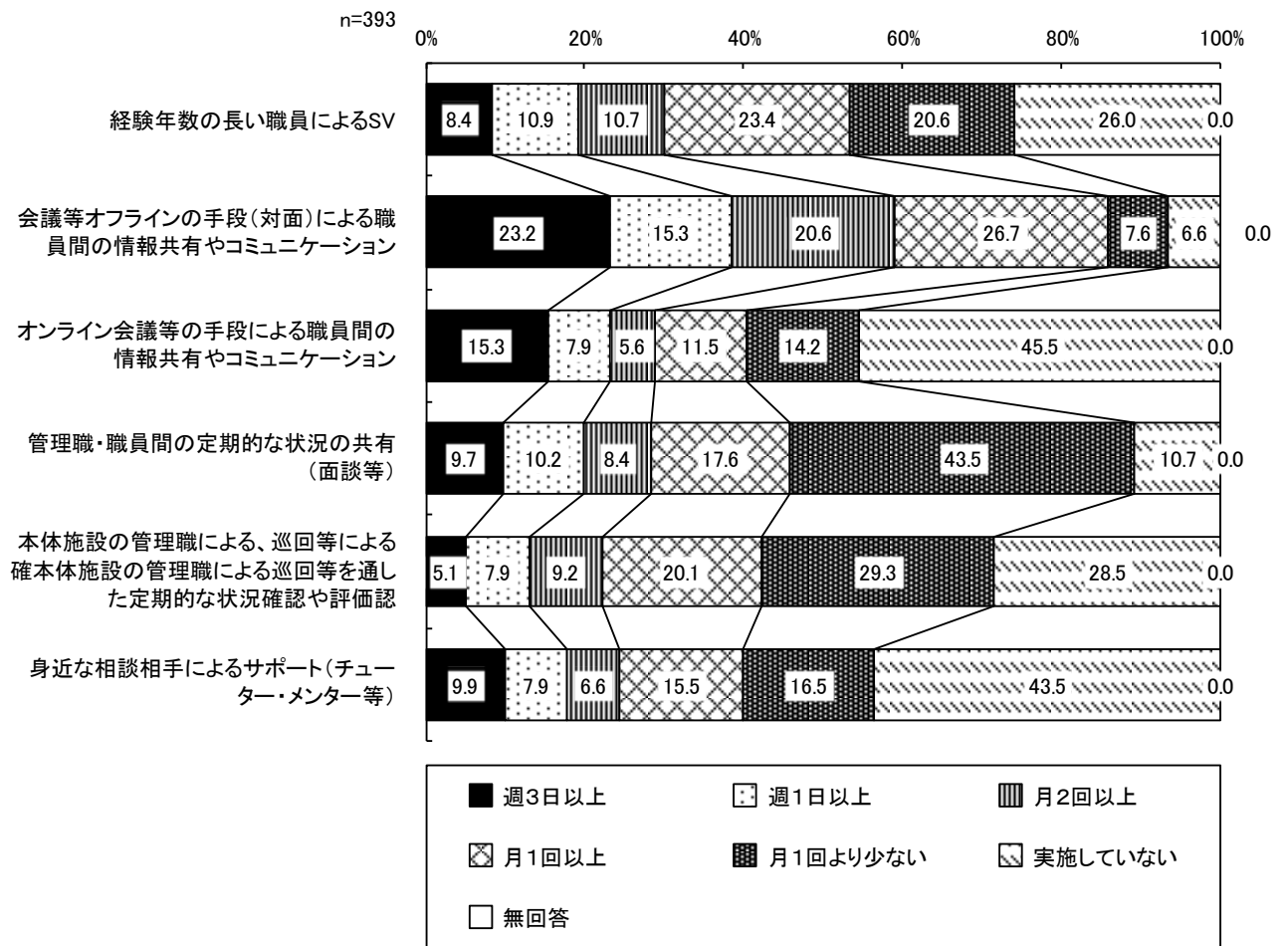
n=393



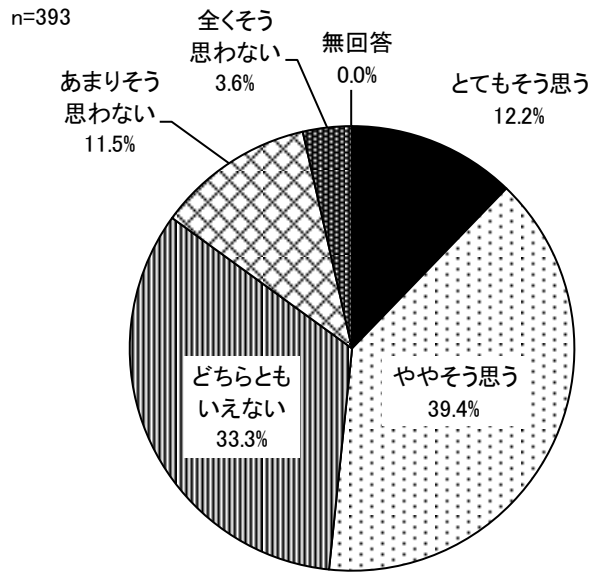
Q21 本体施設から受けている支援として当てはまるもの



Q22 取組を受ける頻度



Q23 本体施設から受けている支援が、自身の業務負担軽減や業務の効果的な実施において効果があると感じているか



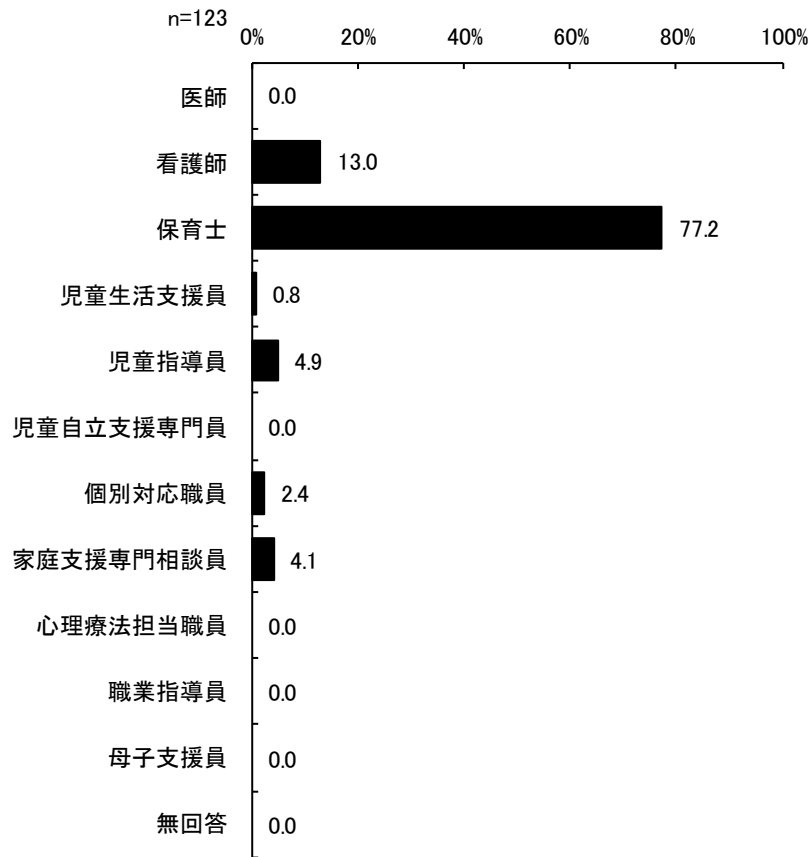
Q24 本体施設からの支援に期待すること（自由回答・抜粋）

現場の状況の理解、アドバイス等	情報を共有し、支援が正しく行われているかの判断。また何かあった際のフォロー
	こまめに気にかけてもらい、アドバイスを頂きたい。また認めてもらいたい。
	これまでの自立支援の成功例や失敗例を元に、難しい児童の自立をより良い方向に導いていけるようなアイデアや方法を具体的に教えて欲しい。
	ホームの現状を理解してもらい、対応策をアドバイスしてもらおう。
	現場の声をもっと聞いてもらいたい。
トラブル対応	困っているときに支援をするのではなく普段から現場のことも視野に入れていつでも支援できる状態であってほしい
	小規模は孤立しがちのため、支援で悩んだ際に相談に乗ってもらえたら助かります。話を聞いてもらえるだけでも楽になることが多いです。
	職員同士のコミュニケーションや連携、相談
	急な通院対応時などの勤務フォロー、頻度は少なくとも複数人勤務を実施する為の勤務フォロー、定期的な支援の振り返りの場の設定
	問題行動があったさいの勤務カバーをして貰えたら助かります
マンパワーの確保	トラブルのフォロー時や関係機関(学校、市、児童相談所など)との調整。
	児童の送迎の協力体制。緊急時の協力体制。
	職員が不足している時に応援に来てくれること
定期的な巡回等による状況の把握	調理補助、児童の送迎
	1人で留守番をする事が難しい子を、もう少し気軽に預かってもらえたら、担当との時間が持ちやすと感じます。
	管理職による巡回等を通じた定期的な状況確認や評価
	用事が無くても、子どもの様子や職員の様子など部屋の雰囲気を感じ、子どもの身近な存在できるように顔を出してほしい。
	定期的な小規模施設の職員への聞き取り調査

2) 乳児院 職員票

① 基礎情報

Q 2 職種



Q 3 社会的養護関連施設（児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設等）での経験年数

単位:年

調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
123	9.0	8.4	0	38

Q 4 小規模施設における経験年数

単位:年

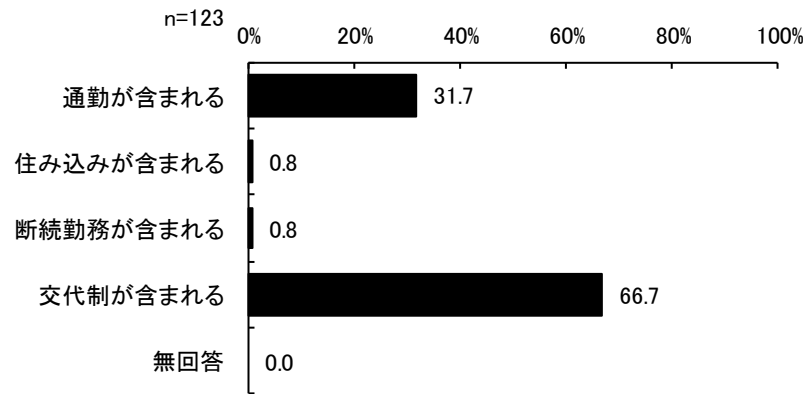
調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
123	4.5	3.7	0	22

Q 5 施設での経験年数

単位:年

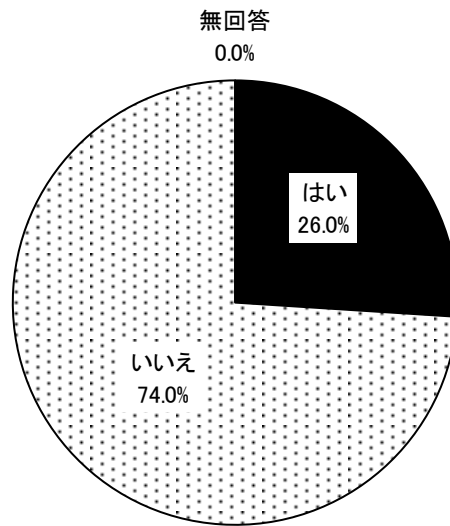
調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
123	7.8	7.6	0	35

Q 7 勤務形態



Q 8 本体施設への兼務を行っているか

n=123



Q 9 小規模施設への勤務はおよそ週何日程度か

単位:日

調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
123	4.3	1.7	0	7

Q10 担当している子どもの人数

単位:人

調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
123	3.8	6.0	0	51

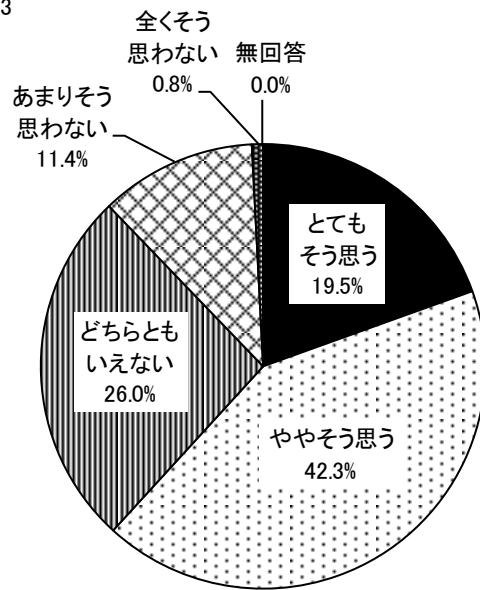
Q11 担当している子どもの人数 (2022年9月1日時点)

単位:人

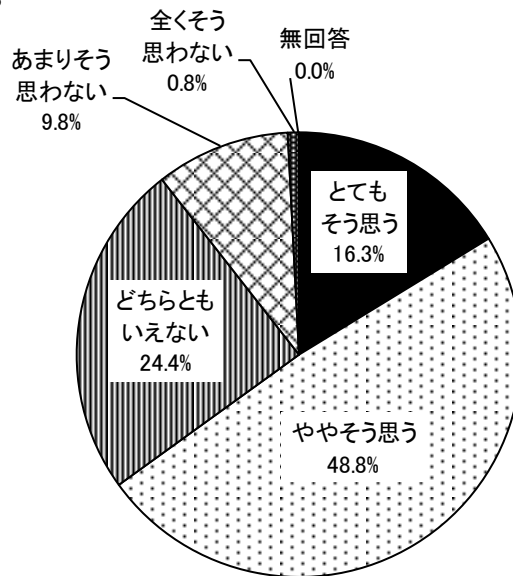
	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
0歳	123	0.8	1.7	0	10
1歳	123	1.0	1.6	0	12
2歳	123	0.8	1.6	0	12
3歳以上	123	0.8	1.2	0	7

② 業務上の困難や負担感について

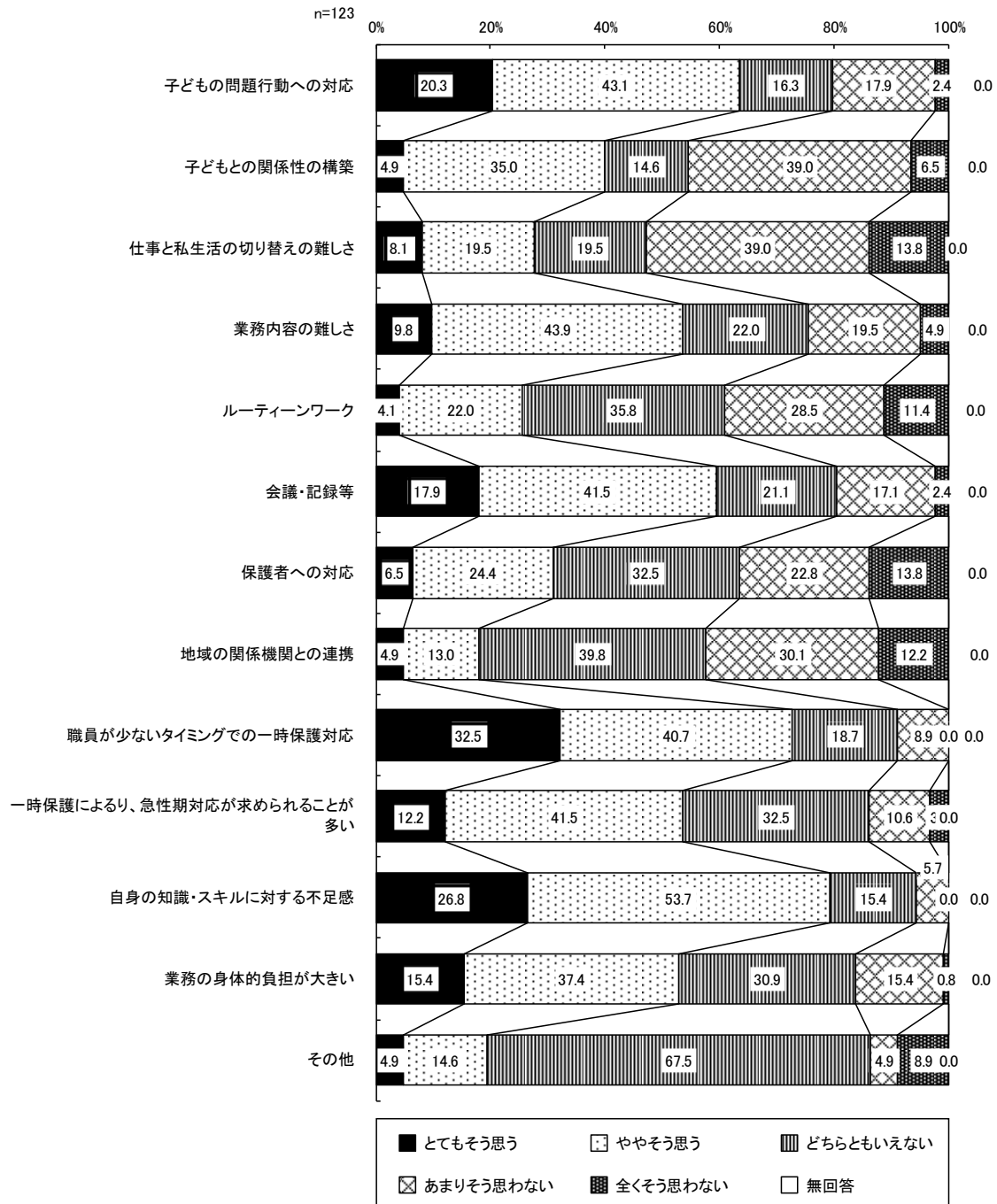
Q12 業務の負担が大きいと感じるか
n=123



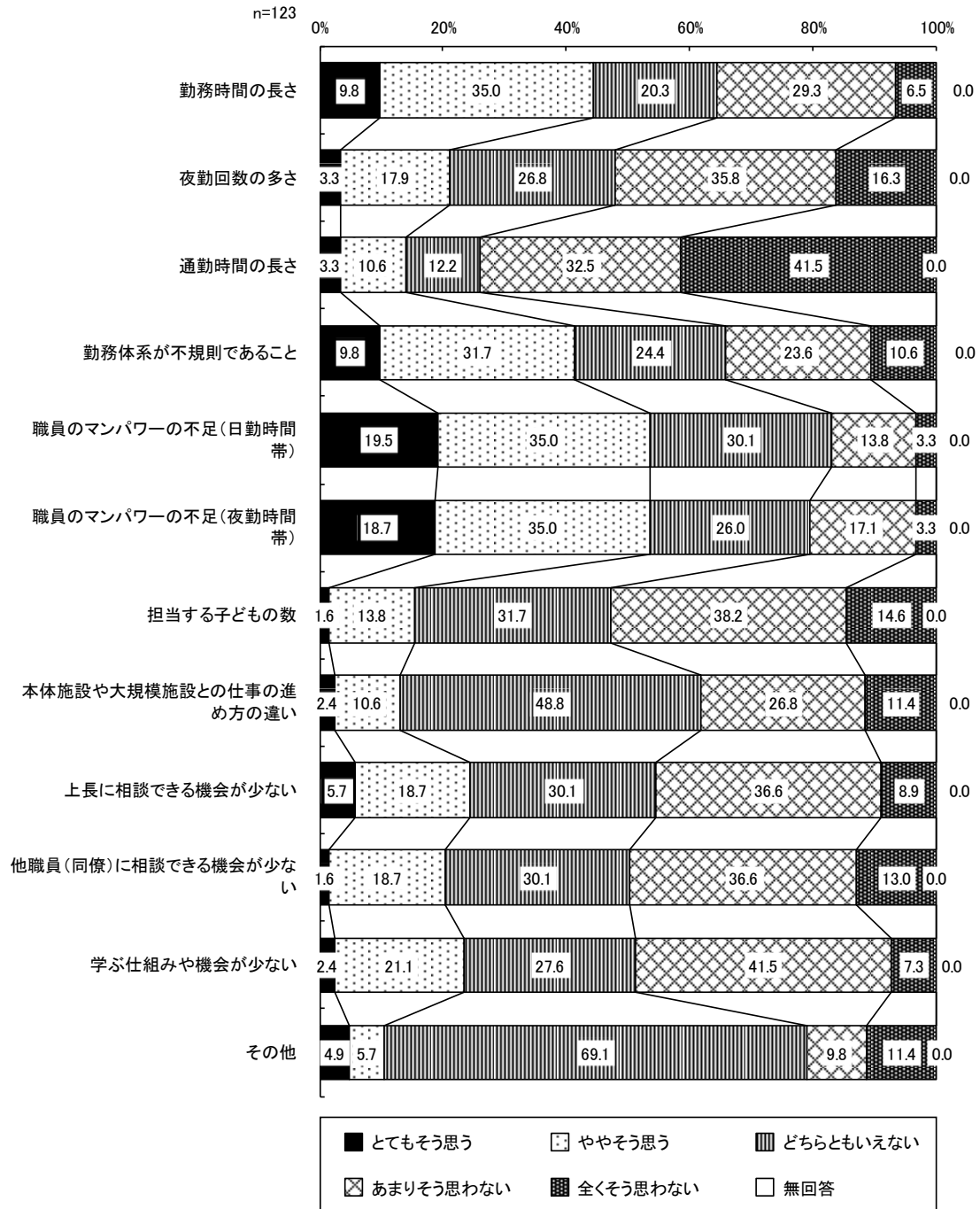
Q13 業務上で困難な事象に直面することが多いと感じるか
n=123



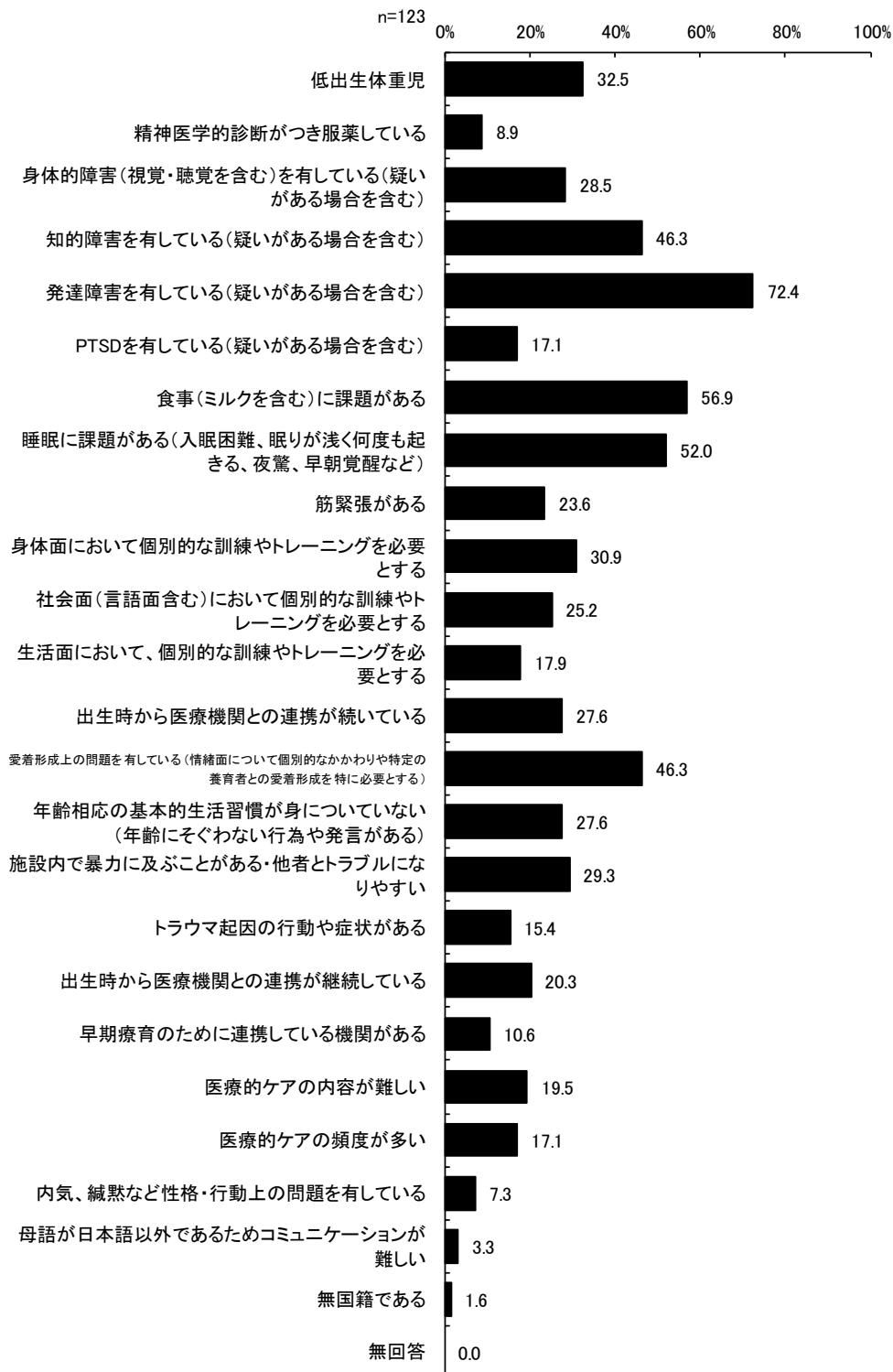
Q14 業務上で困難に直面する際の要因



Q15 業務上で困難に直面する際の背景要因



Q16 子どもをケアするうえで困難に直面する際の背景にある子どもの状況として当てはまるもの



Q17 どのような点で知識やスキルを身に付けたいと考えるか（自由回答・抜粋）

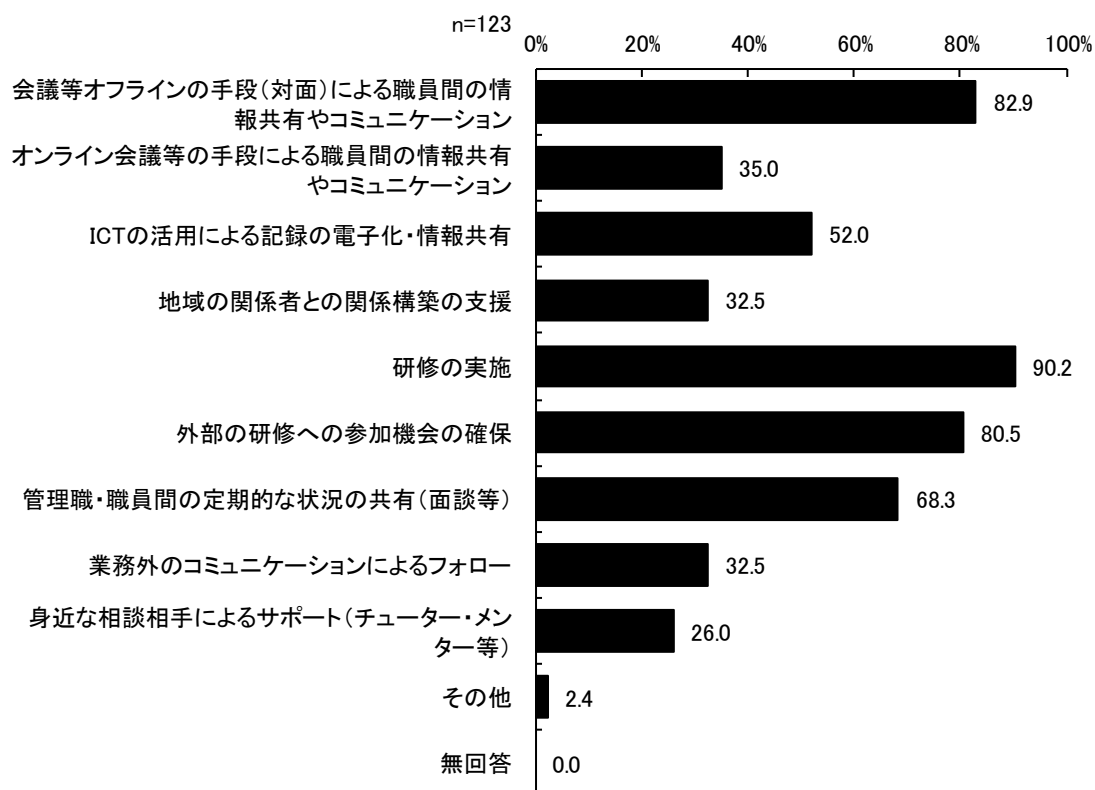
医療的ケア	子どもの病気について
	医療的ケアが必要であったり何らかの障害を有していたり、家庭環境などで情緒面にトラブルをかかえていたりと養育や関わりが難しい子の支援において、困難に感じるときがある
	医療分野、愛着形成、保護者対応 多動性の有る児童やダウン症児への対応など
発達障害	発達に特性がある子どもや医療的ケアが必要な子どもに対する知識
	発達支援が必要な児に対してより適切な支援内容は何か考える時
愛着形成	愛着障害の対応 問題行動のときの対応
	自己肯定感を育む関わり方、伝え方。病児病後児に対する関わり方、遊びの工夫。愛着形成。自立支援計画の立て方、書き方 養育に関してアタッチメントの形成や言葉かけなど保育技術の面
対応が難しい子ども	ミルクをなかなか飲めない子に対する授乳方法
	・新生児との愛着関係の築き方・ミルク飲みがあまり良くない児の対応・パニック泣きを起こしてしまった時の対応 試し行動や他者とのトラブルになりやすい子どもへの対応方法
心理的ケア	PTSDなど要因が推測されることへの心のケアなど心理面での知識・スキル
	心理的ケアが必要な児に対するスキルやどのような心情であるか予測するための知識

Q18 どのような場面で職員のマンパワーが不足していると感じるか（自由回答・抜粋）

夜勤帯の対応	夜勤帯、ひとりで10人～24人の子どもの対応をする時間がある。昼間は1人で5～6人（0～2）の食事介助をする時。
	夜勤中は部屋に1人で宿直もないため夜勤中に救急対応や一時保護対応があっても他の児の寝ている部屋を空けなければいけない 夜間はもちろん日中もまだ小さな児であるのに1人で大人数を寝かしつけなければならない負担。寝かしつけ対応がしてあげられない
一時保護や病児対応時	病児が出たり、一時保護で子供が増えたりした時など
	ショートステイや一時保護で急に子どもが入ってきたとき 急なショートステイ、一時保護等で人数が増えた時やコロナ等の感染が起きた時
子どものケアの必要性が高いとき	子どもの人数が少なくても、1人ひとりへの養育やケアの必要性が高いとき
	子どものクールダウンが必要なときや、甘えを受け止めたいとき、好きなことに集中して取り組ませてあげたいとき ケアニーズの高い児が増えていることもあり、細かいところまで手をかけられない時がある。
職員1名での対応時	一人でホームを任されている時
	日中をひとりでまわさないといけない時。人が少なく子どもに満足な養育ができない時

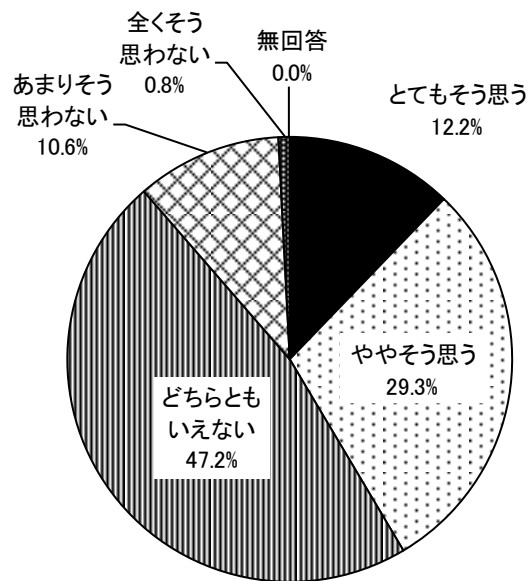
③ バックアップに係る取組について

Q19 施設内の取組で行っているもの

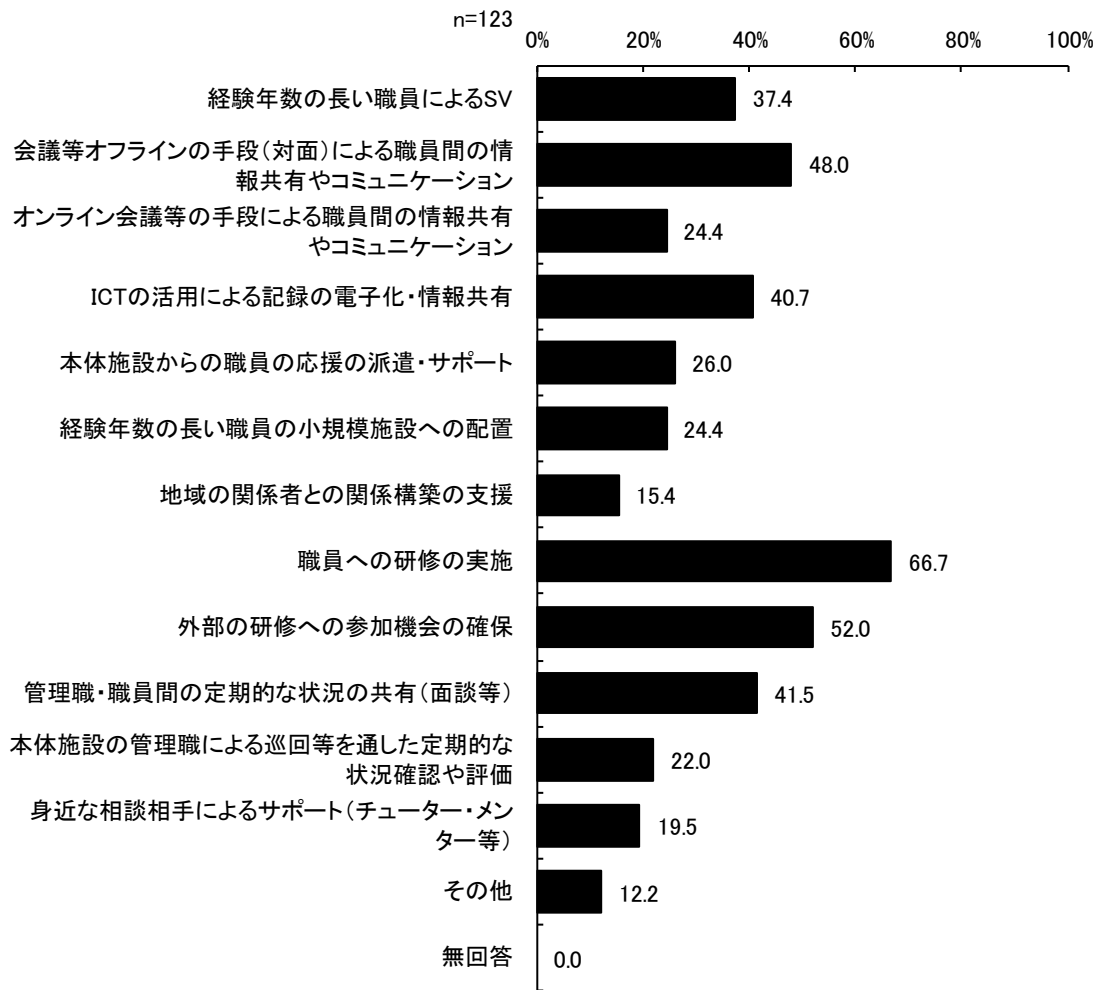


Q20 本体施設から十分なバックアップを得られていると感じるか

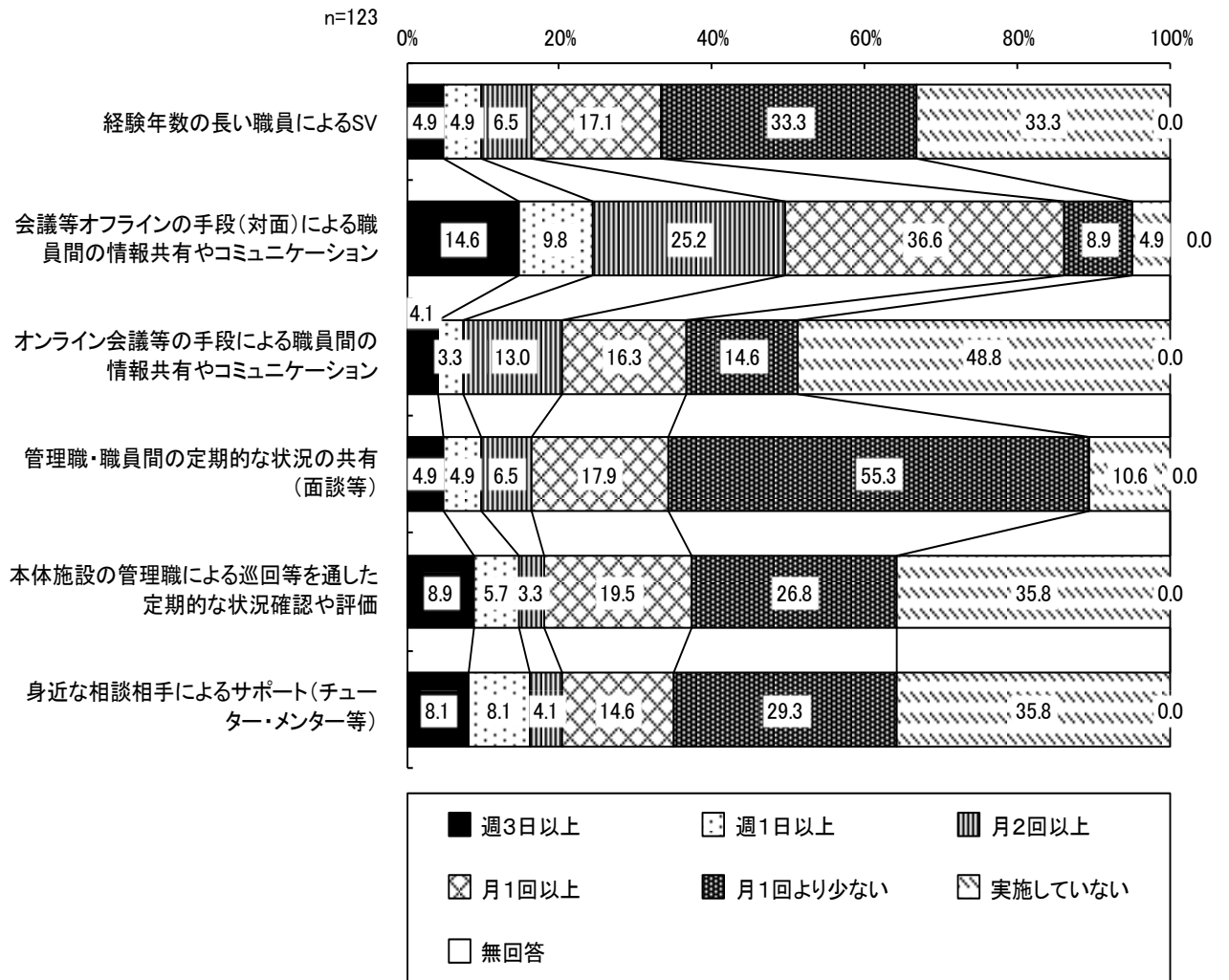
n=123



Q21 本体施設から受けている支援

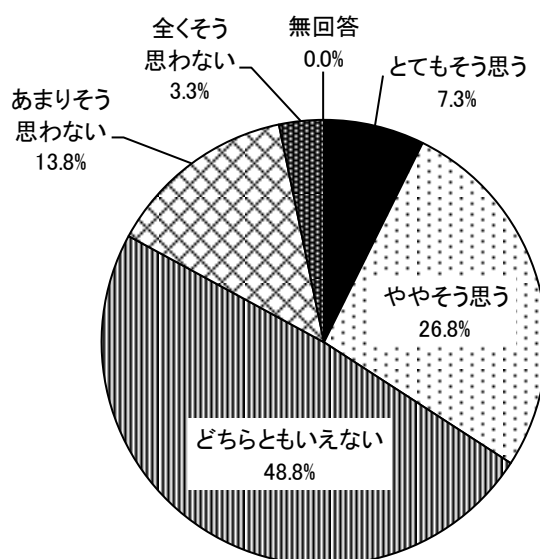


Q22 取組を受ける頻度



Q23 本体施設から受けている支援が、自身の業務負担軽減や業務の効果的な実施において効果があると
感じているか

n=123



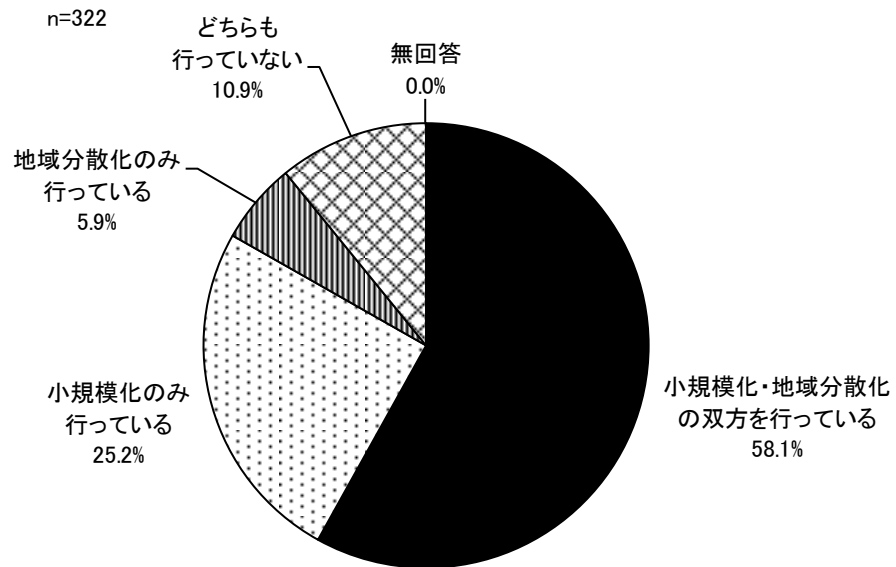
Q24 本体施設からの支援に期待すること（自由回答・抜粋）

現場の状況の 理解、 アドバイス等	こまめな面談で悩みなどを話しアドバイスしてもらえる時間が欲しい。
	困難なことに直面した時に、温かいアドバイス等一緒に悩み考えてくれることが、困難を乗り越える力になると考えている。
	養育について現場をもっと見てもらって、適切な関わり方や不適切な関わりなどの指導(一人ひとりの職員の良い所や課題ある所の把握をした上で)をしていただきたいです。
マンパワーの確 保	現場の状況を実際見たり感じたりしてほしい
	・職員個人個人のスキルの把握・若手職員が相談できる機会・勤務歴が長い職員のワンマンにならないよう風通しを良くする
	人手が足りない時の応援と、日々の状況や職員の働き方の把握など、こちらが言わなくても知っていて欲しい
ICT化	個別的な対応が必要な場面で、他の複数の児童をケアするためにマンパワーの支援（まったなしの状況のため）
	十分な人材確保、人材育成、長く勤めるための職員間の関係把握、管理。
	記録等の電子化

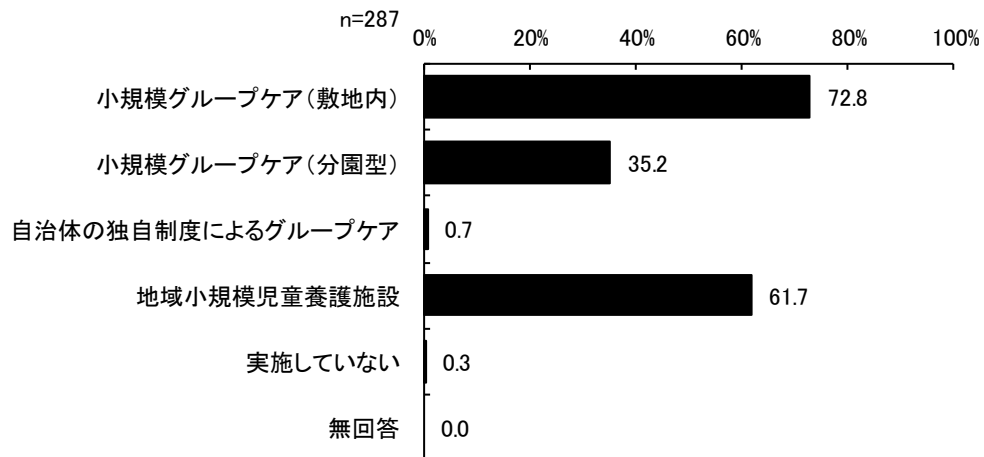
3) 児童養護施設 施設票

① 小規模化・地域分散化の状況

Q 5 施設では小規模化・地域分散化を行っているか

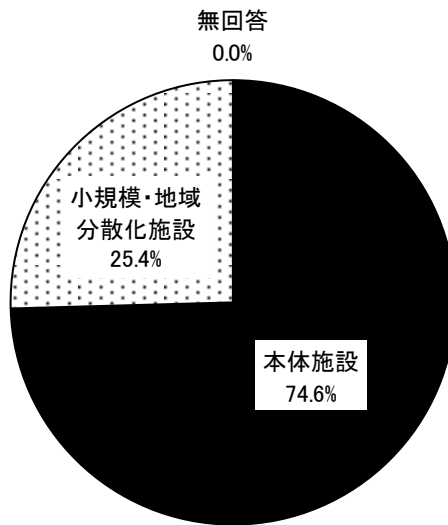


Q 6 小規模化・地域分散化を行っている場合、どの施設を含んでいるか



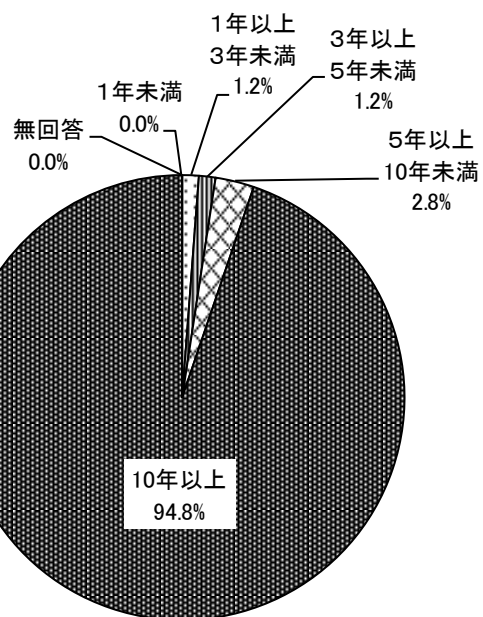
Q 7 「本体施設」「小規模・地域分散化施設」のいずれに該当するか

n=287



Q 8 施設の設立後年数

n=249



Q 9 施設の従業員数

単位:人

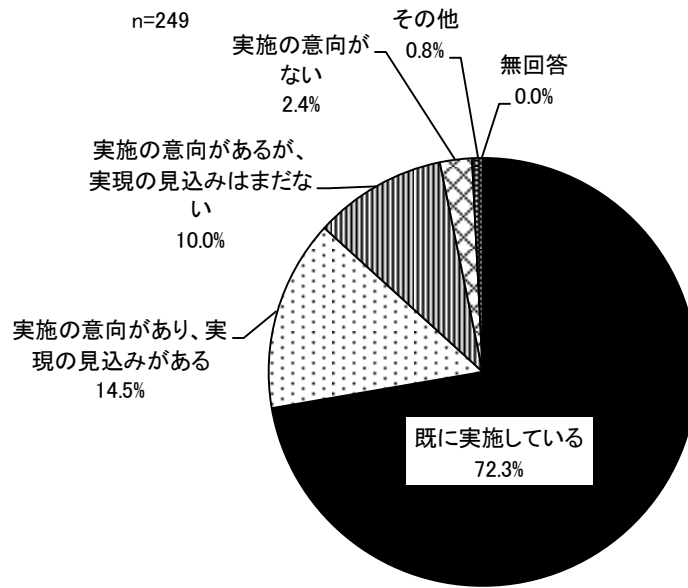
調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
249	37.6	15.2	3	148

Q10 施設に常駐している専門職の人数

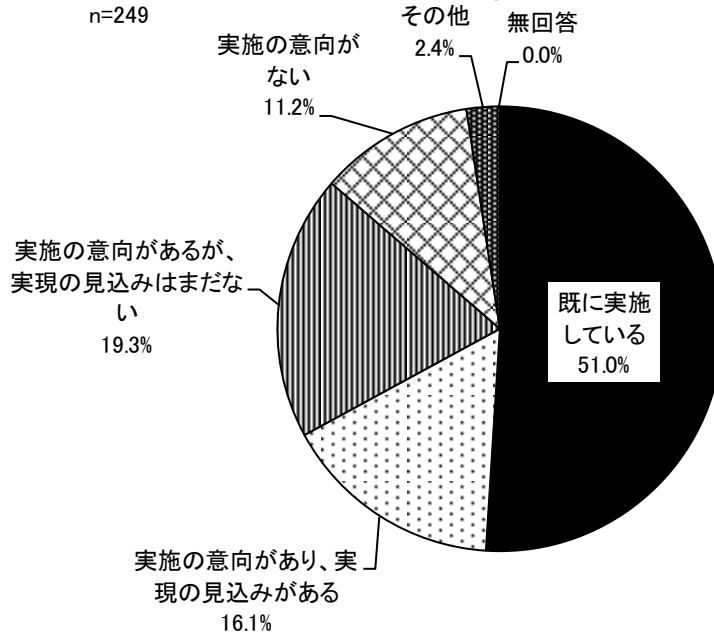
単位:人

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
医師	249	0.1	0.3	0	2
看護師	249	0.6	0.9	0	7
保育士	249	12.0	7.1	0	35
児童生活支援員	249	0.6	2.7	0	27
児童指導員(少年指導員含む)	249	9.9	7.7	0	72
児童自立支援専門員	249	0.4	0.8	0	10
個別対応職員	249	1.0	0.8	0	13
家庭支援専門相談員	249	1.6	0.6	0	3
心理療法担当職員	249	1.3	0.9	0	6
職業指導員	249	0.1	0.3	0	1

Q11 小規模化・地域分散化の今後の実施意向 (1) 小規模化



Q12 小規模化・地域分散化の今後の実施意向 (2) 地域分散化



Q14 小規模化・地域分散化の目的（自由回答、抜粋）

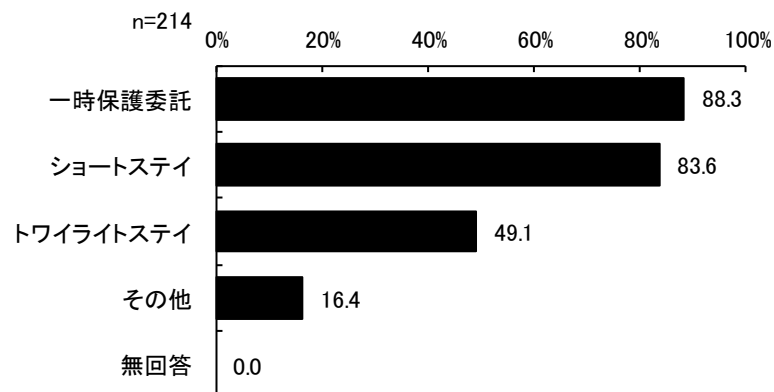
家庭的養育	<ul style="list-style-type: none"> ・より家庭に近い環境での養育を推進するため ・家庭的養護の推進と実現 ・刺激の少ない落ち着いた生活を送るため ・地域の中でより家庭に近い環境の中で自立にむけた支援ができる。
個別支援 子どもへの細やかな支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個別的支援を行うため ・ケアニーズの高い児童に対して、より家庭的で望ましい支援を展開するため ・ケア単位をちいさくすることで、児童に対してより丁寧に養育できる環境を作ることを目的とする ・子どもへの細やかな自立支援
地域との距離を近づけるため	<ul style="list-style-type: none"> ・入所児童に地域生活を体験させるため
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの職員配置ができること

Q15 施設全体の定員数

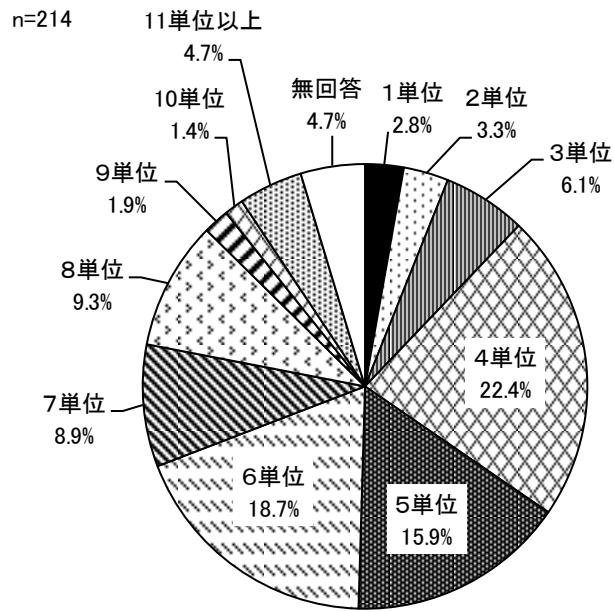
単位:人

調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
214	44.7	18.4	1	148

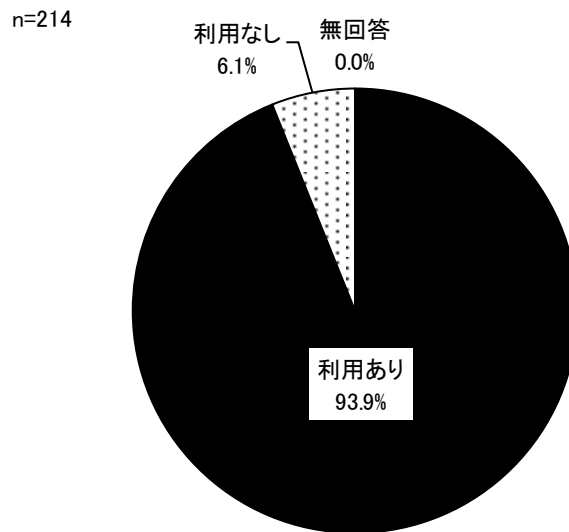
Q16 施設で実施している事業



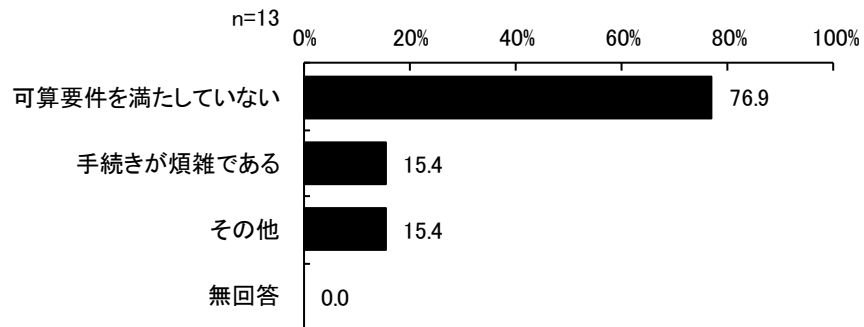
Q17 施設の養育単位数



Q18 小規模化・地域分散化に対する加算を利用しているか



Q19 加算を使用していない理由



Q20 どの職員を小規模施設に配置するか（自由回答、抜粋）

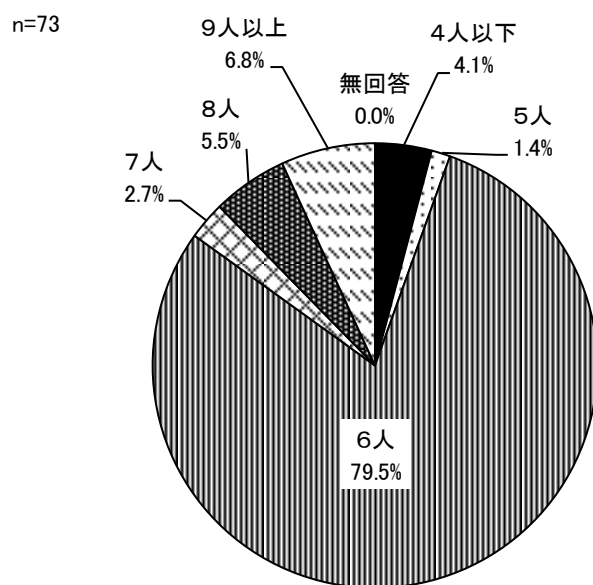
技量・経験年数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験年数の多い職員 ・ 経験年数の多い職員をリーダーとし、年数の浅い職員を組み合わせている ・ 子どもとの関係性、コミュニケーション力 ・ さまざまなケースに対応できるだけのスキル、経験および意欲を持った職員 ・ 地域との関わりも含めて対応可能なこと
職員のバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験年数、男性、女性のバランス ・ チームとして男女、年齢バランスを考慮する ・ ベテランと若手のバランスを考慮
子どもとの関係性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の関係性と子どもとの相性を重視している ・ 経験豊富で児童との関係性も良好な職員 ・ 児童との相性・本体施設との職員バランス

Q22 施設の設置年

単位:年

調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
40	2008.2	21.4	1900	2022

Q23 施設の定員



Q24 施設（小規模施設内）の従業員数

単位:人

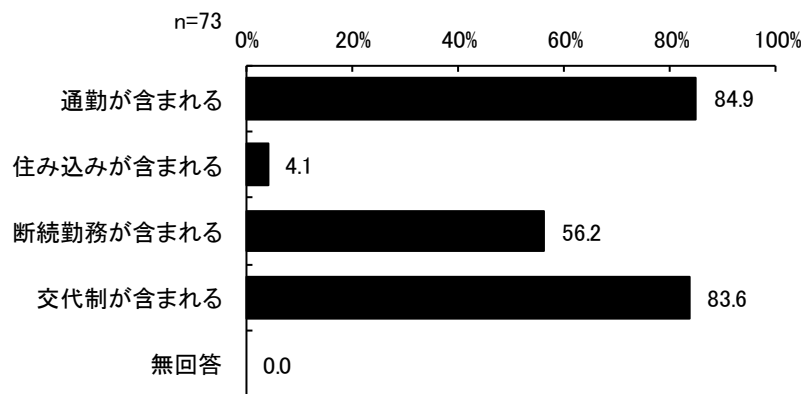
調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
73	6.4	7.3	2	44

Q25 施設に常駐している専門職の人数

単位:人

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
医師	73	0.0	0.0	0	0
看護師	73	0.1	0.3	0	1
保育士	73	4.4	5.2	0	29
児童生活支援員	73	0.1	0.3	0	2
児童指導員	73	3.3	3.5	0	17
児童自立支援専門員	73	0.1	0.5	0	4
個別対応職員	73	0.2	0.4	0	1
家庭支援専門相談員	73	0.3	0.7	0	2
心理療法担当職員	73	0.3	0.6	0	3
職業指導員	73	0.0	0.2	0	1

Q26 施設における勤務形態で当てはまるもの



Q27 本体施設の職員で施設の支援を兼務している職員は何名いるか

単位:人

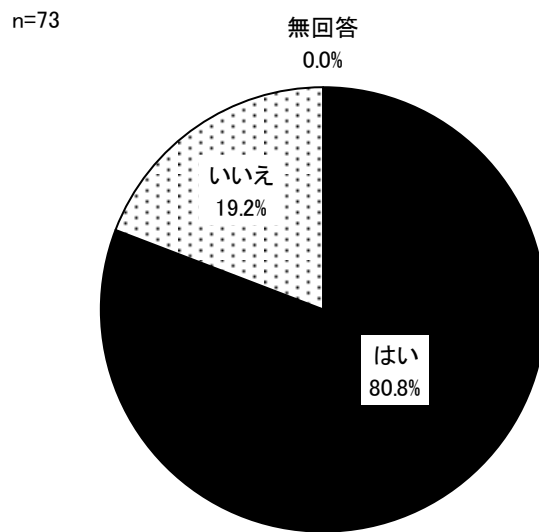
調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
73	2.0	2.3	0	15

Q28 施設（小規模施設内）の職員の平均勤続年数

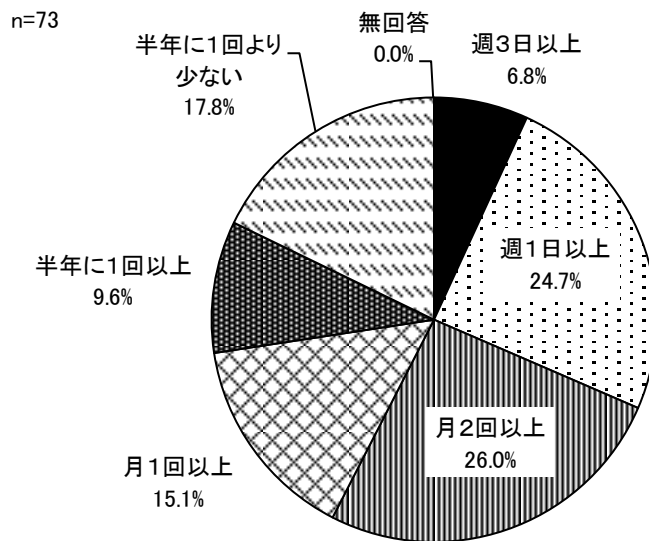
単位:年

調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
73	7.1	3.9	2	22

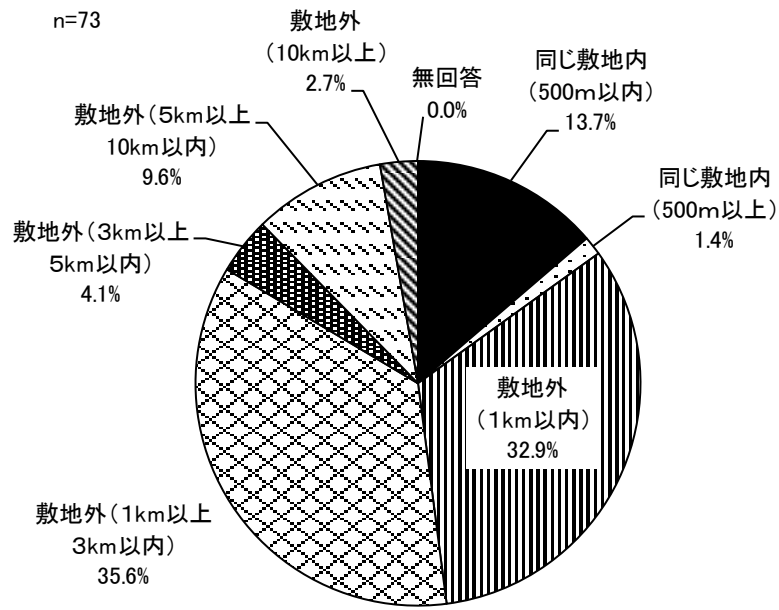
Q29 兼務でない本体施設の職員から支援を受けることはあるか



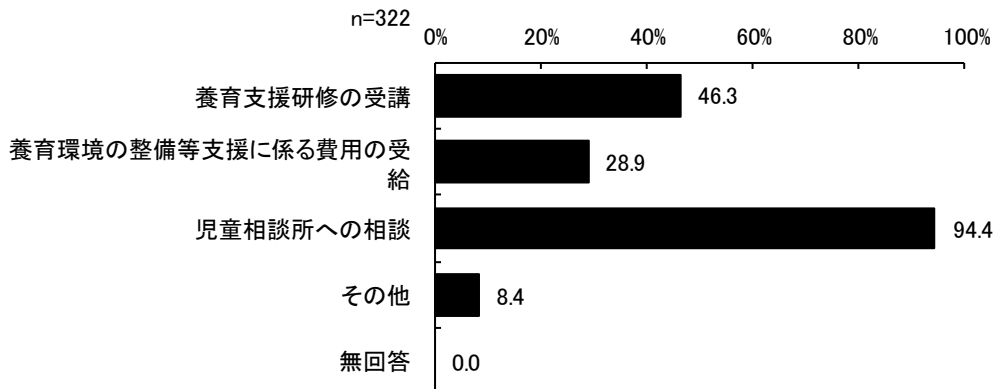
Q30 兼務でない本体施設の職員による支援はどの程度の頻度で行われるか



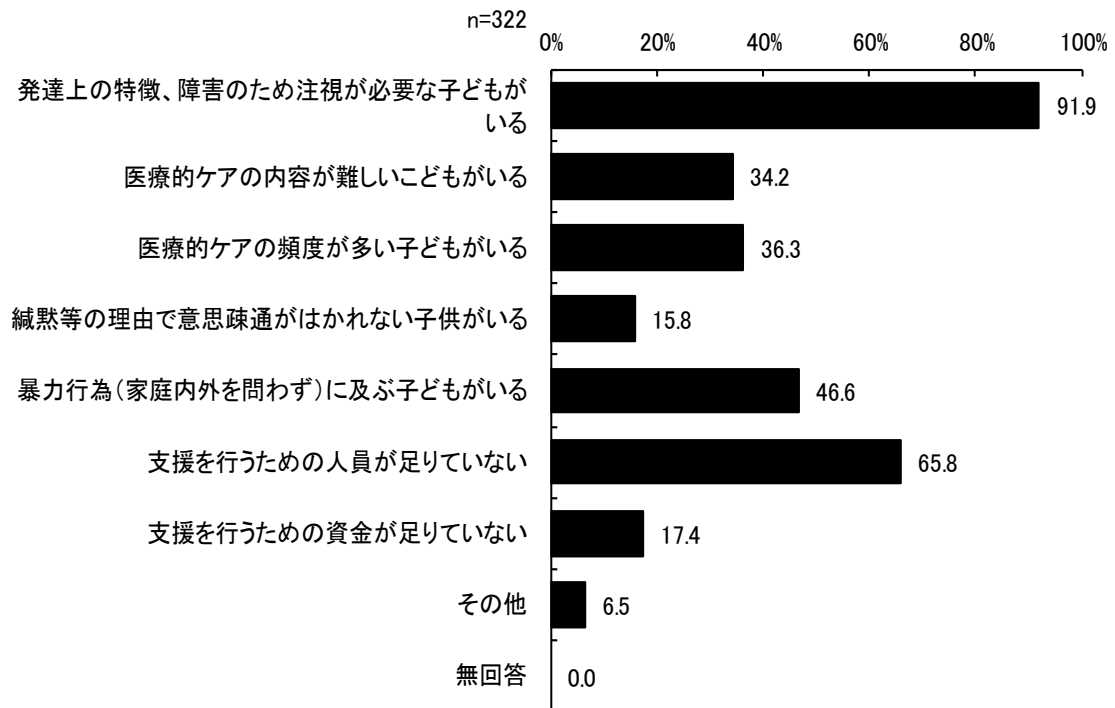
Q31 本体施設との距離はどの程度あるか



Q36 公的サービスで利用しているもの

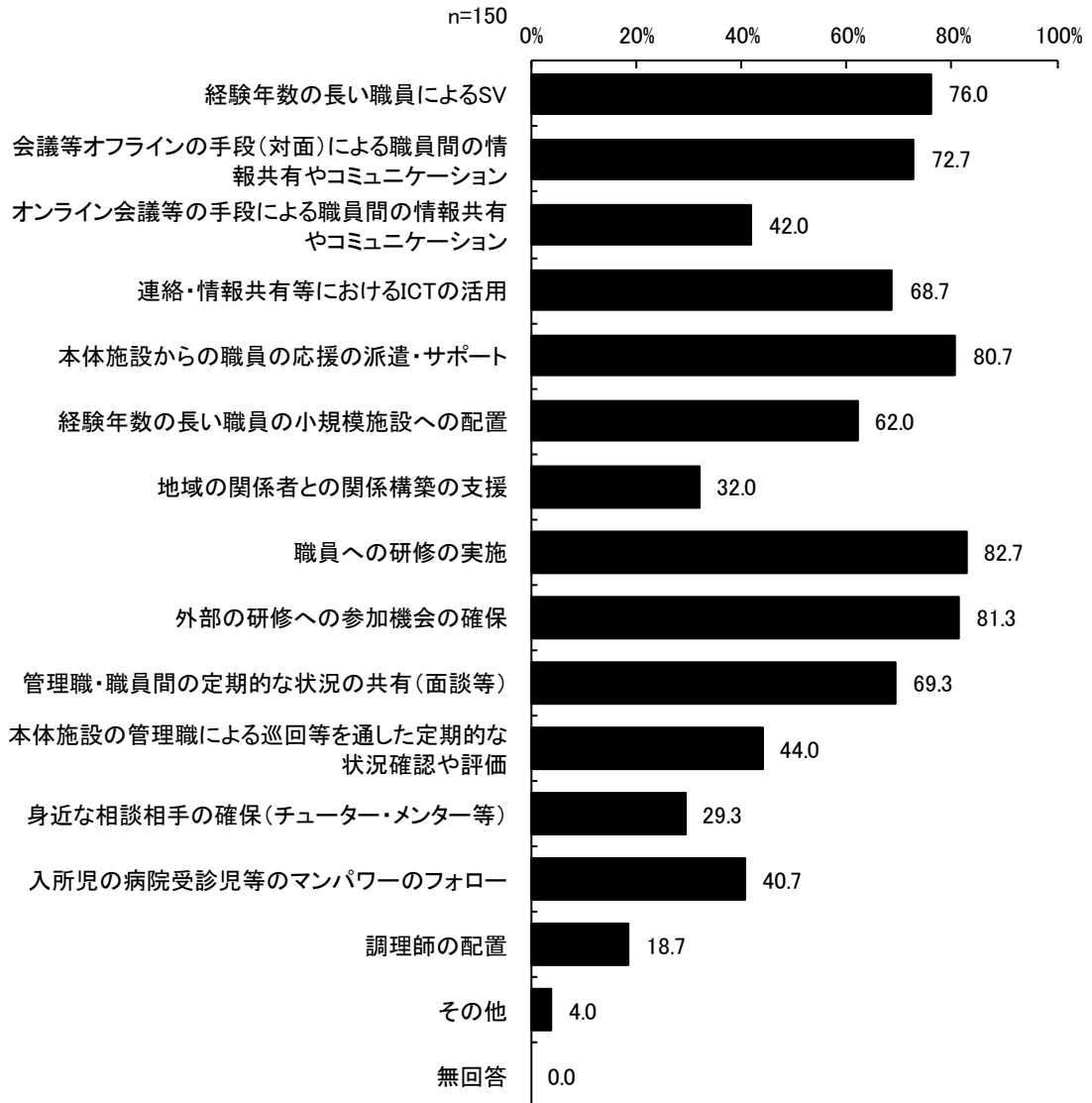


Q38 現在子どもの支援を行う上で苦労していること

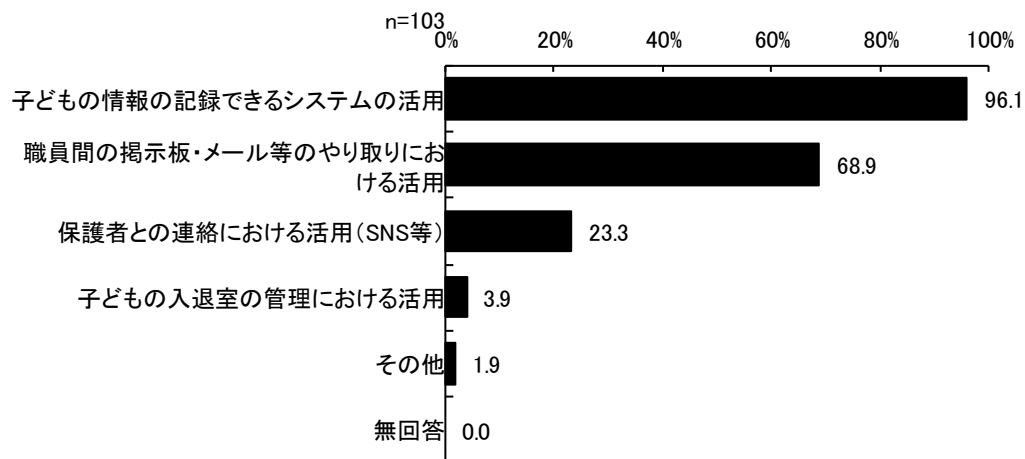


② バックアップの取組状況（本体施設が回答）

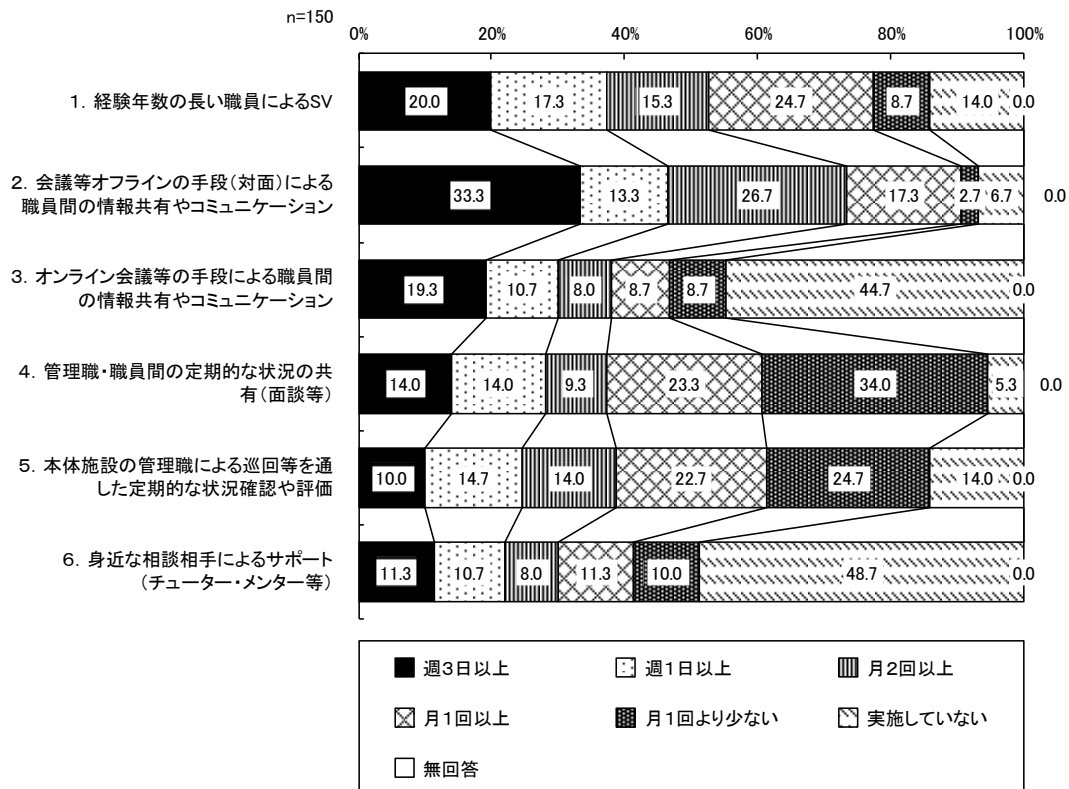
Q41 小規模・地域分散化施設に対するバックアップとして実施していること



Q42 ICT 活用の取り組みの詳細

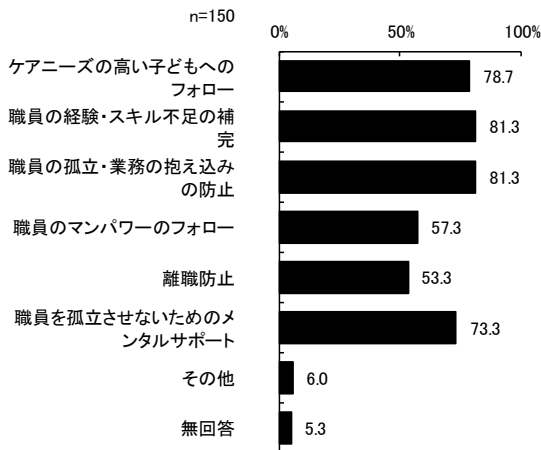


Q43 バックアップの取組を行う頻度

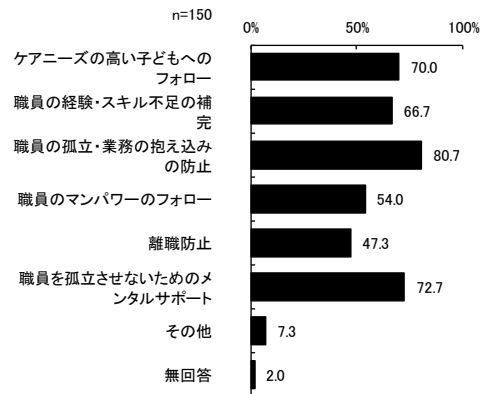


Q44 バックアップの各取組の目的や狙い

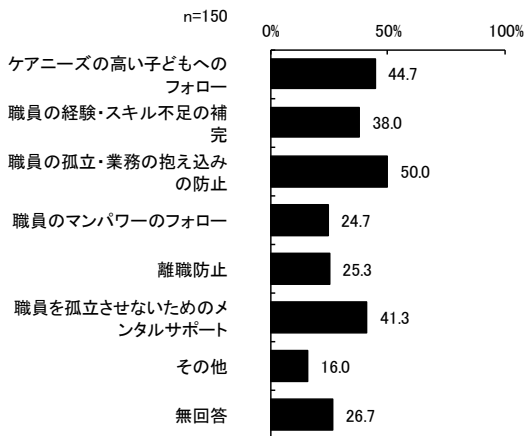
1. 経験年数の長い職員によるSV



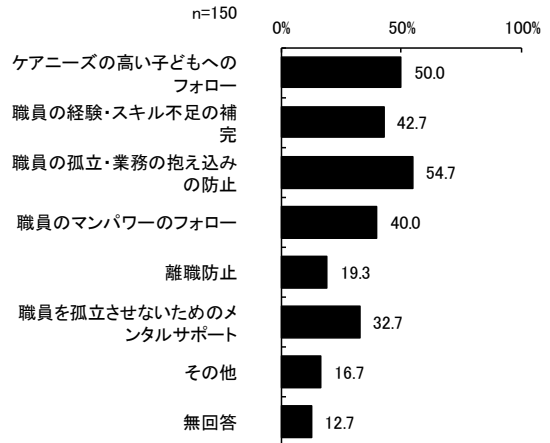
2. 会議等オフラインの手段(対面)による職員間の情報共有やコミュニケーション



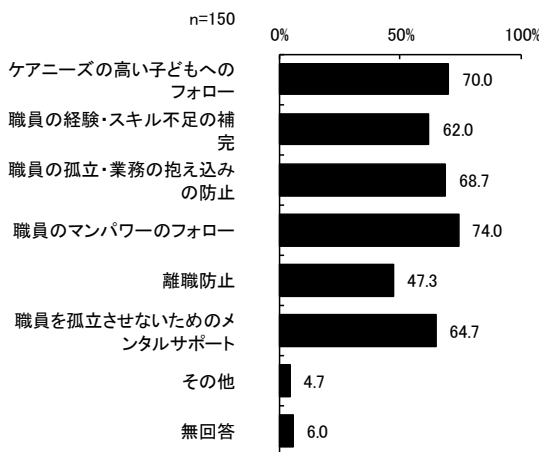
3. オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション



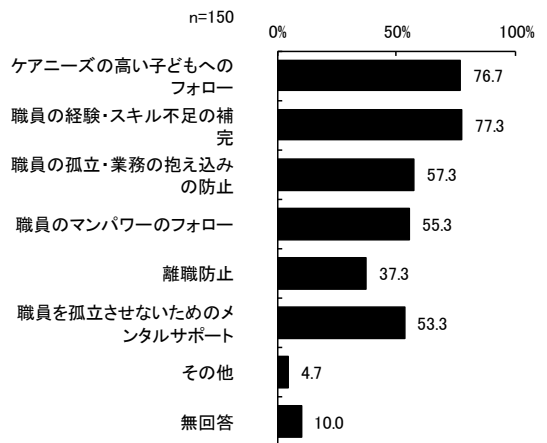
4. ICTの活用による記録の電子化・情報共有



5. 本体施設からの職員の応援の派遣・サポート

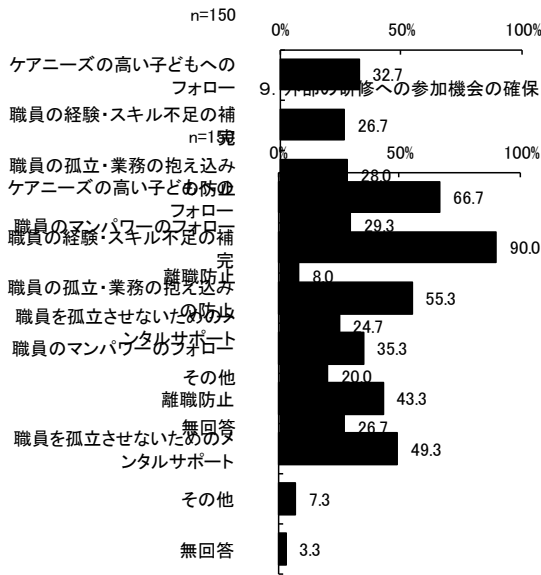


6. 経験年数の長い職員の小規模施設への配置

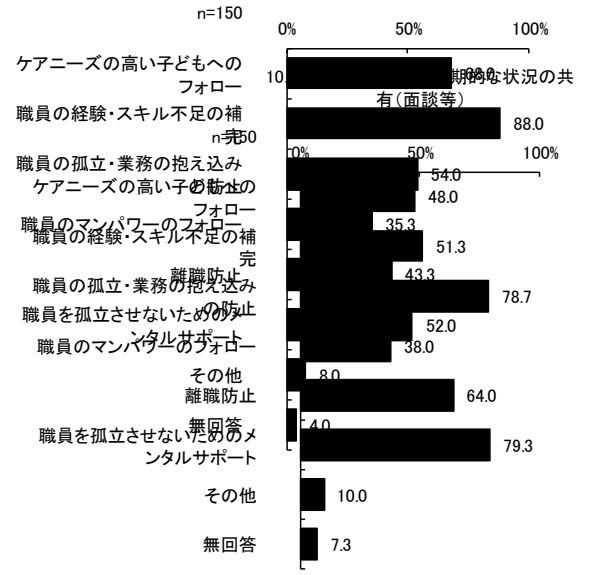


Q44 バックアップの各取組の目的や狙い

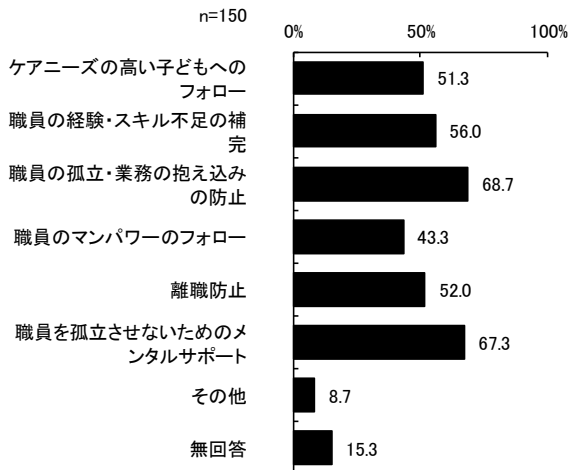
7. 地域の関係者との関係構築の支援



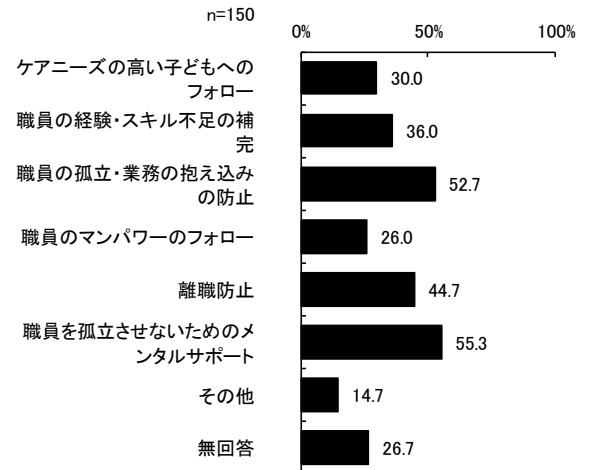
8. 職員への研修の実施



11. 本体施設の管理職の定期的な状況確認や評価

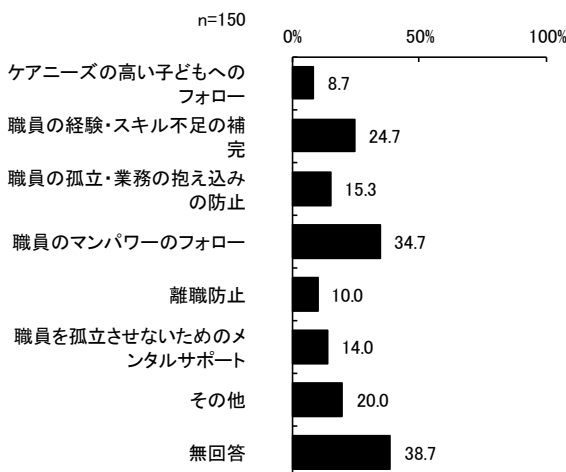


12. 身近な相談相手の確保(チューター・メンター等)

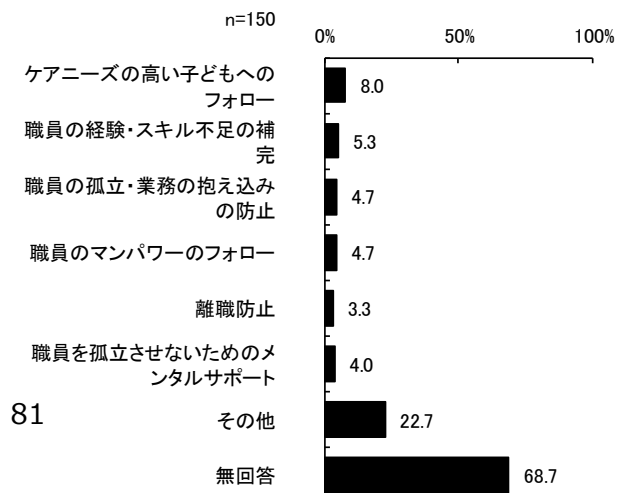


Q44 バックアップの各取組の目的や狙い

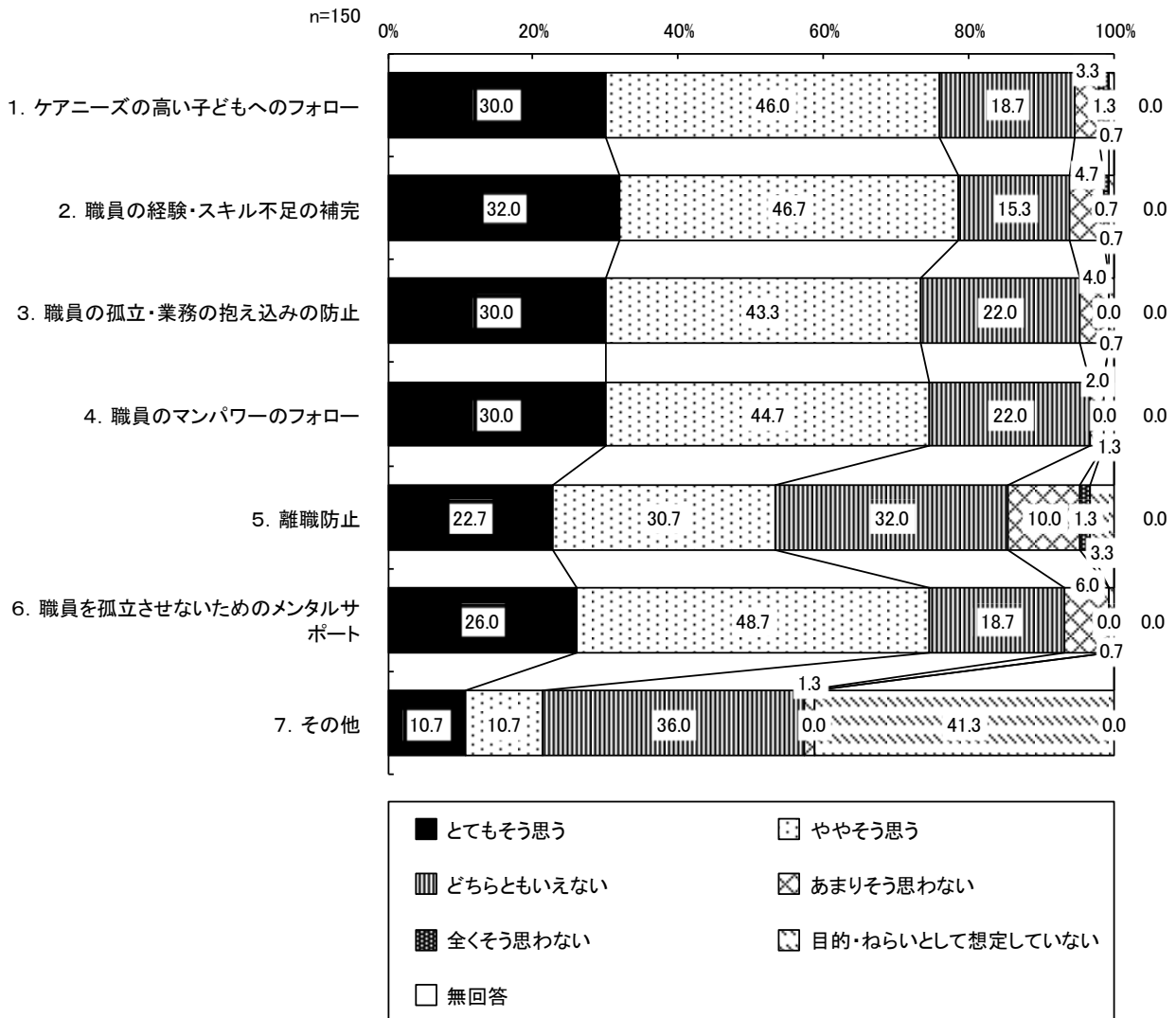
13. 調理師の配置



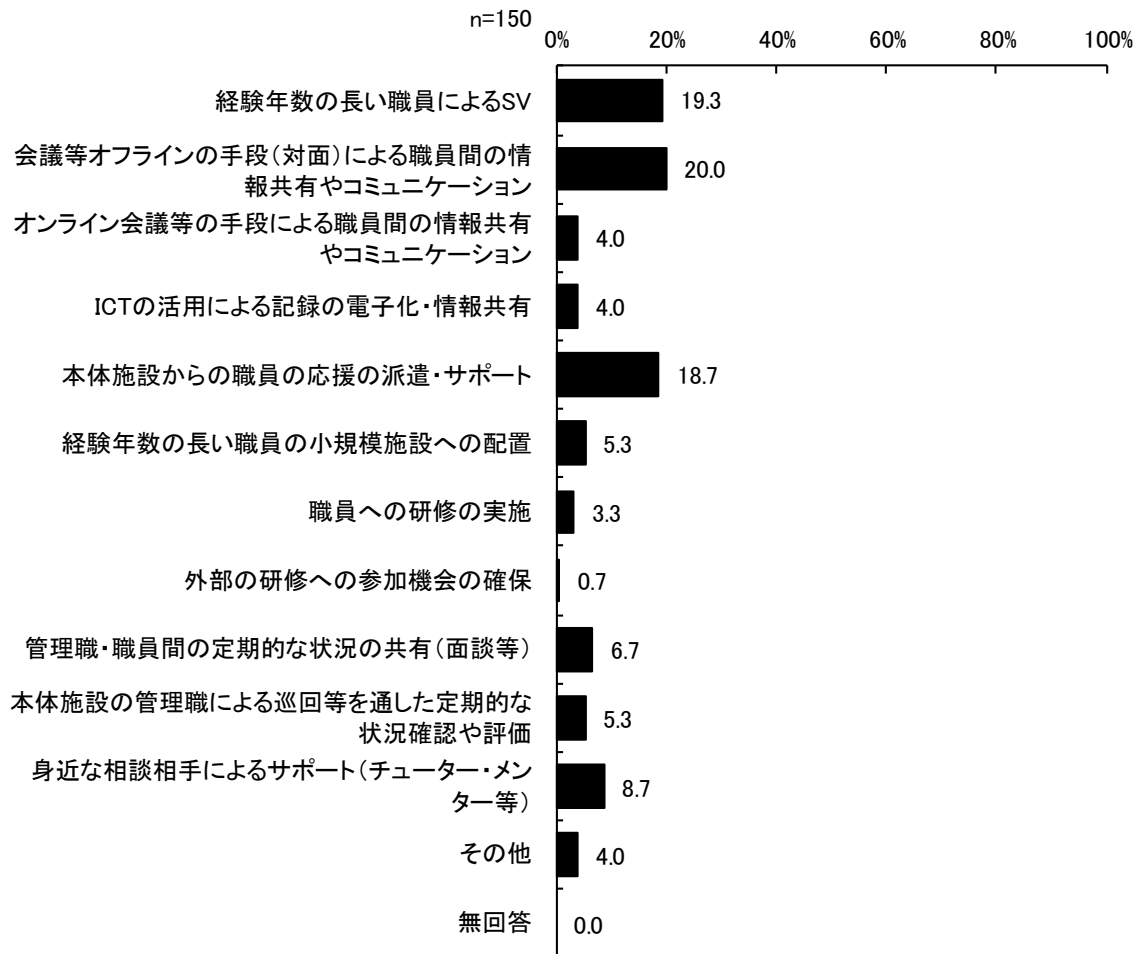
14. その他



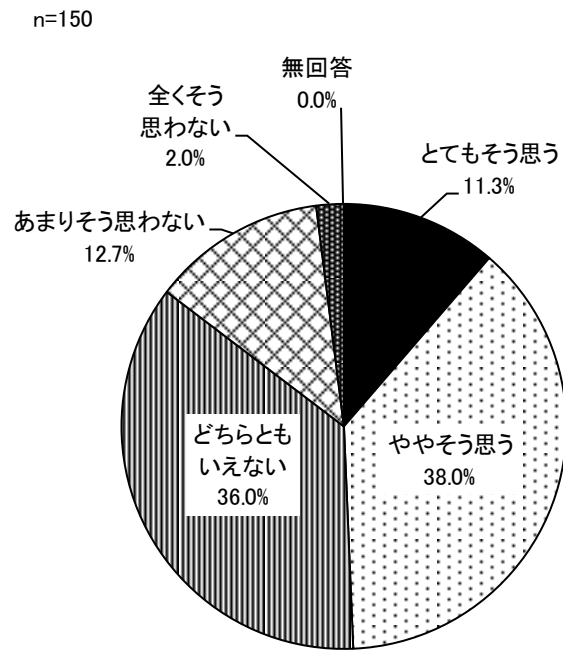
Q45 バックアップの各取組について、目的や狙い通りの効果を得られていると思うか



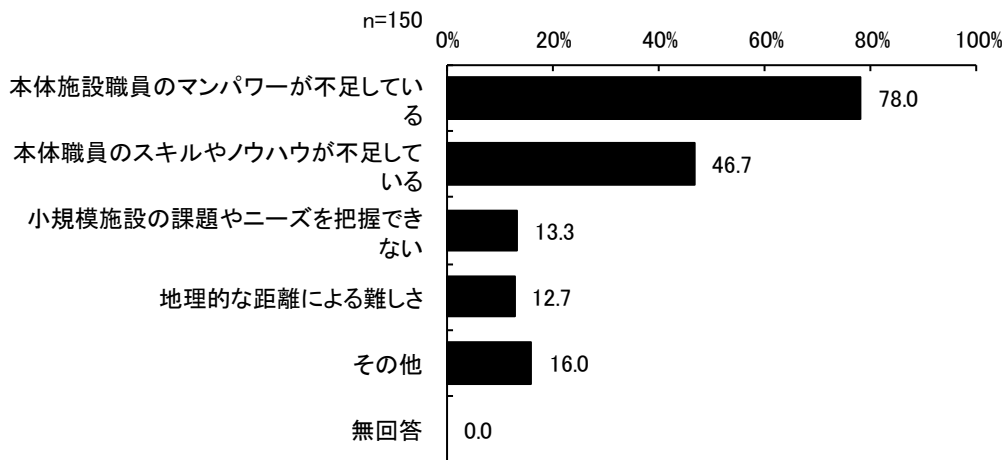
Q46 バックアップにおいて特に効果的・重要と考える取組



Q48 バックアップの取組を十分に行えていると感じるか

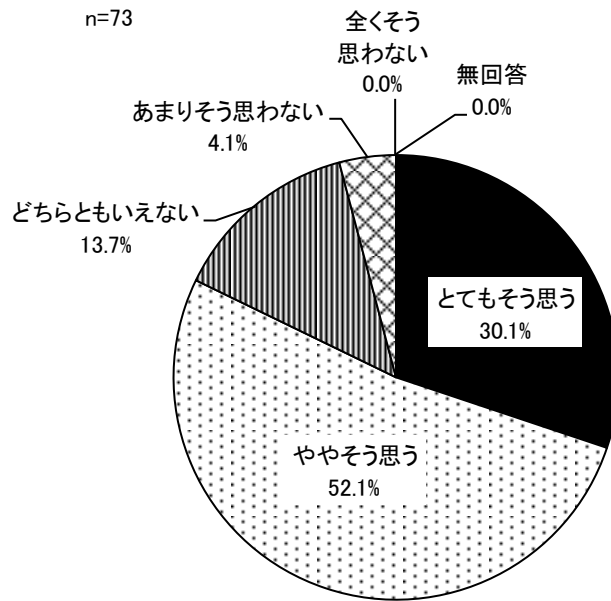


Q50 バックアップを行う上で課題・難しいと感じていること

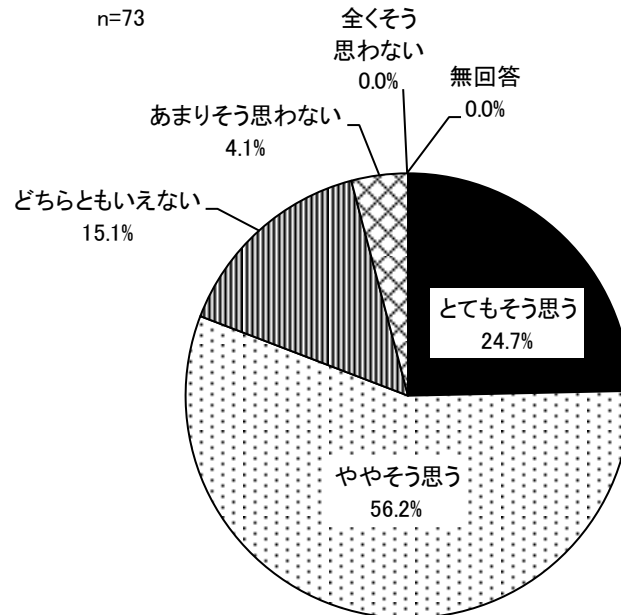


③ バックアップの取組状況（小規模施設が回答）

Q52 施設の職員の業務の負担感は大きいと感じるか

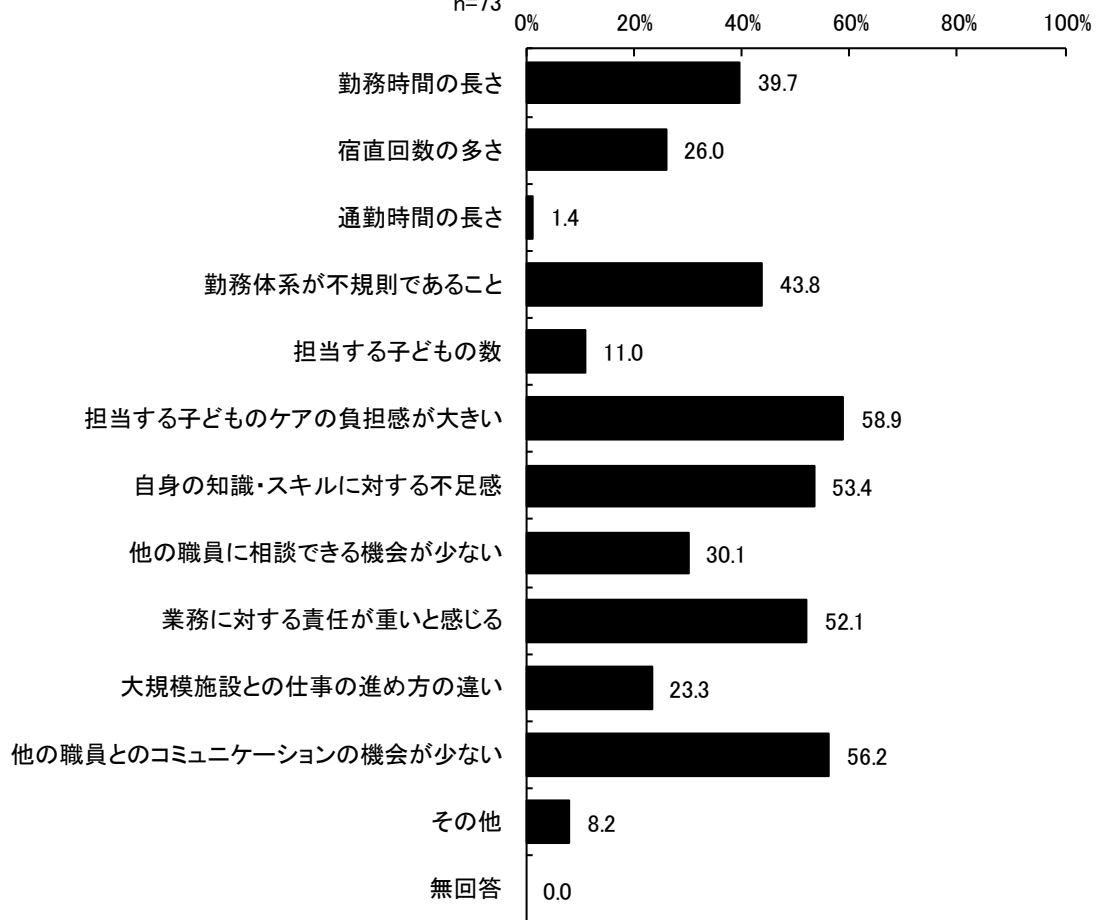


Q53 施設の小規模施設で働く職員は業務上で困難な事象に直面することが多いと感じるか



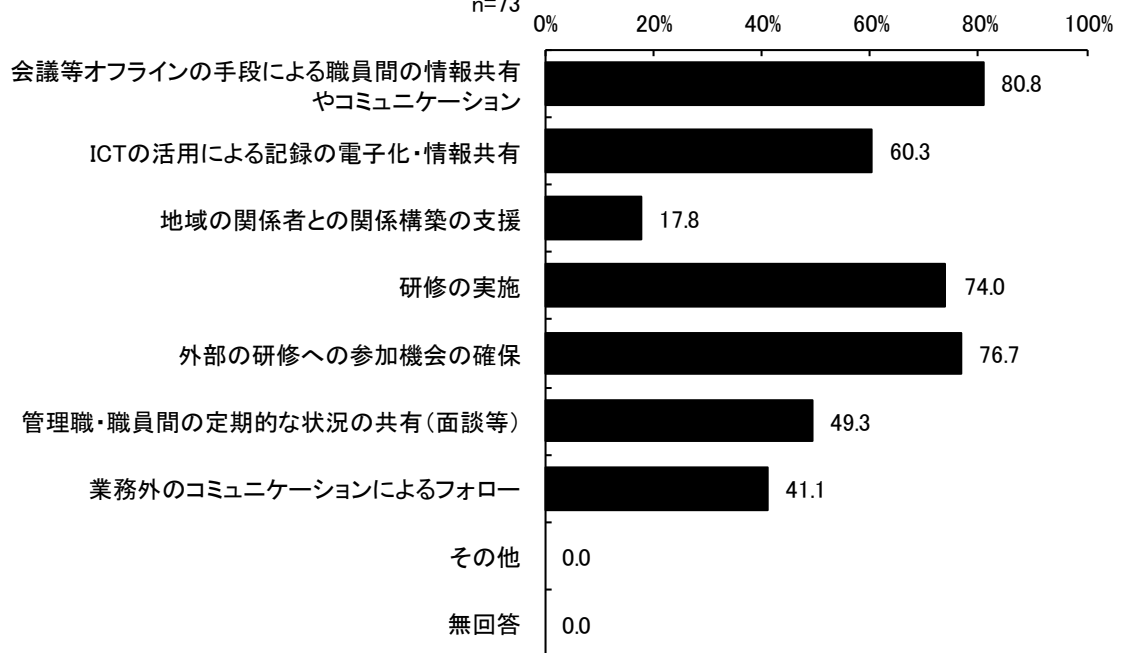
Q54 業務上で困難な事象に直面することが多いと感じる要因

n=73



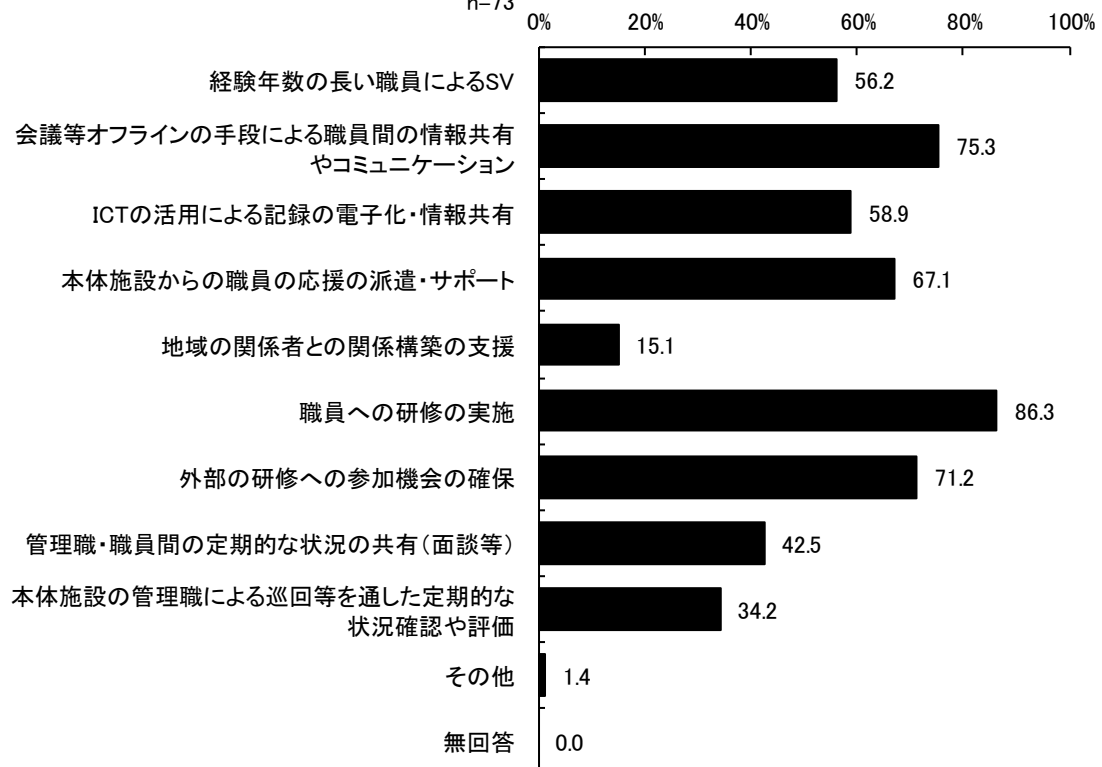
Q55 施設内での職員のフォローを目的とした取組

n=73



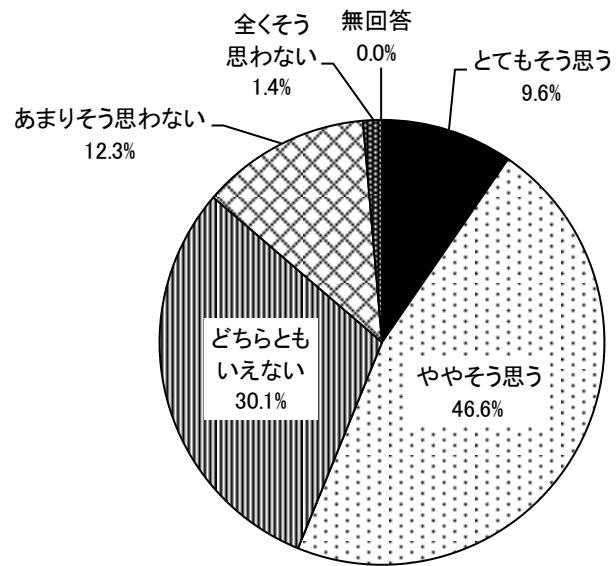
Q56 本体施設から受けているバックアップの内容

n=73



Q57 本体施設から十分なバックアップを得られていると感じるか

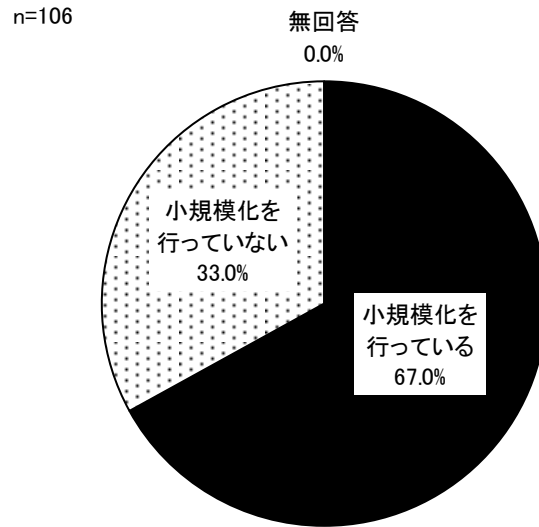
n=73



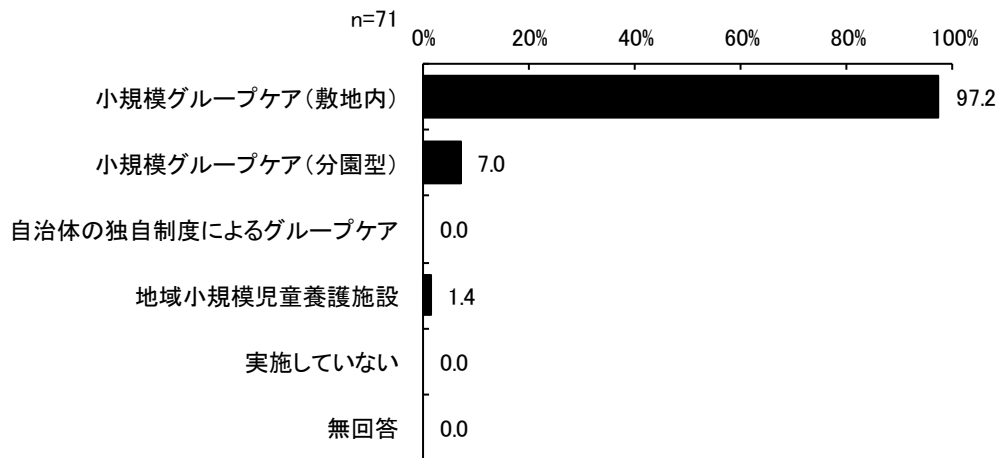
4) 乳児院 施設票

① 小規模化・地域分散化の状況

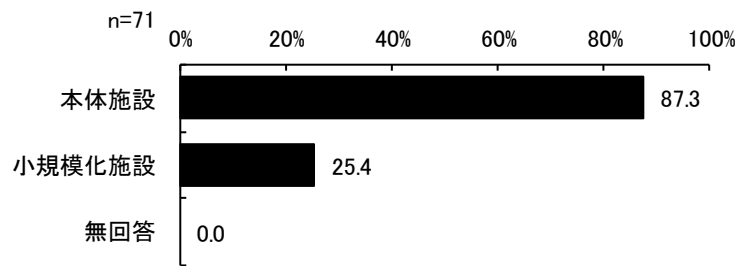
Q 4 施設では小規模化を行っているか



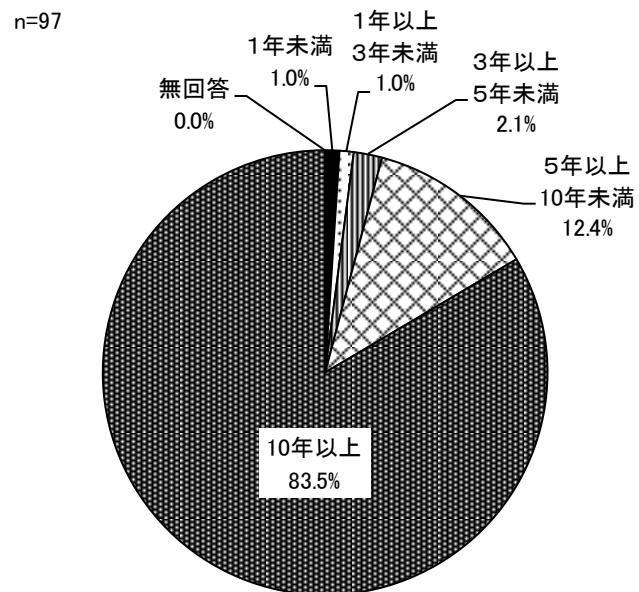
Q 5 小規模化を行っている場合、どの施設を含んでいるか



Q 6 「本体施設」「小規模化施設」のいずれに該当するか



Q 7 施設の設定後年数



Q 8 施設の従業員数

単位:人

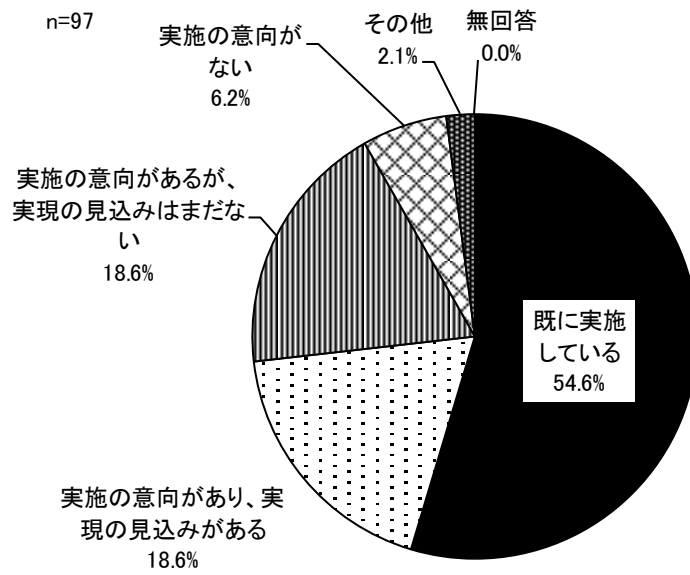
調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
97	43.2	20.5	16	121

Q 9 施設に常駐している専門職の人数

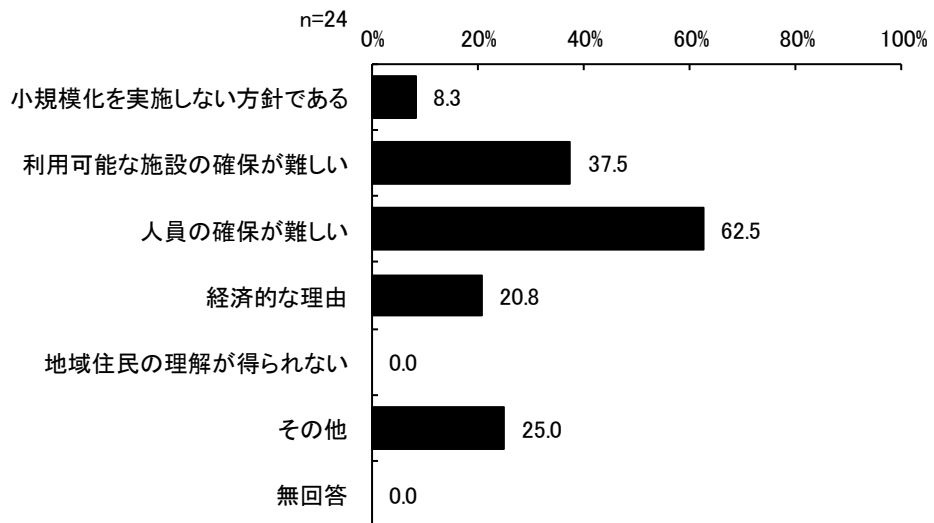
単位:人

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
医師	97	0.2	0.4	0	2
看護師	97	5.3	3.2	1	18
保育士	97	22.1	24.6	5	241
児童生活支援員	97	0.0	0.0	0	0
児童指導員	97	1.7	2.3	0	16
児童自立支援専門員	97	0.0	0.0	0	0
個別対応職員	97	1.0	0.3	0	2
家庭支援専門相談員	97	1.6	2.1	0	21
心理療法担当職員	97	0.8	0.7	0	3
職業指導員	97	0.0	0.0	0	0

Q10 小規模化の今後の実施意向



Q11 小規模化の実施予定がない理由



Q11 小規模化の目的（自由回答、抜粋）

Q12 小規模化の目的（自由回答・抜粋）

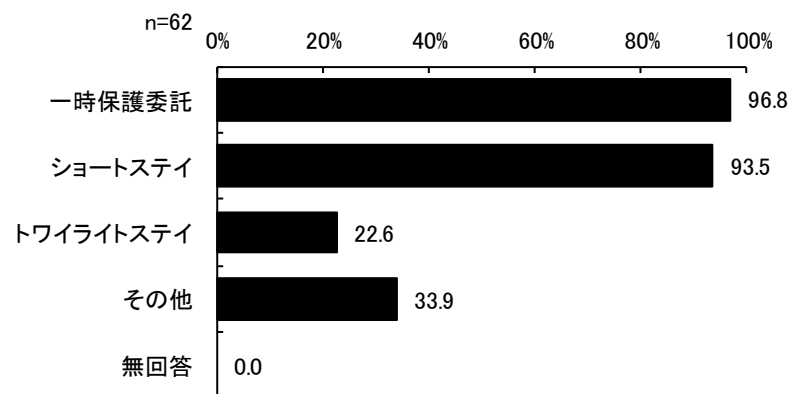
家庭的養育	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的養育を実践するため ・家庭的養育を実践するため子どもたちが安心できる応答的な養育環境の中で、ひとりひとりに寄り添ったケアをするため ・親子分離を経験したことで、できる限り家庭的な環境に近づけることで心身の負担の軽減するため
個別支援の充実、関係性の安定等	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人に丁寧に関わる ・子どもの生活の安定、愛着形成、家庭的養育の実施 ・生活集団の安定、関係性の安定のため

Q13 施設全体の定員数

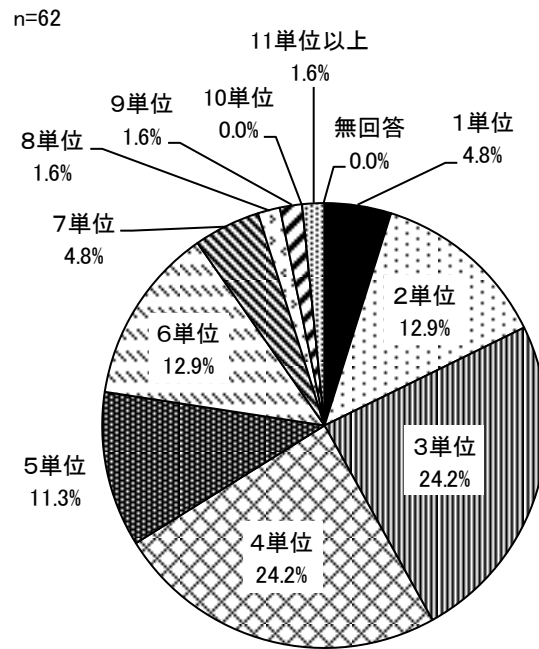
単位:人

調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
62	26.8	12.7	8	70

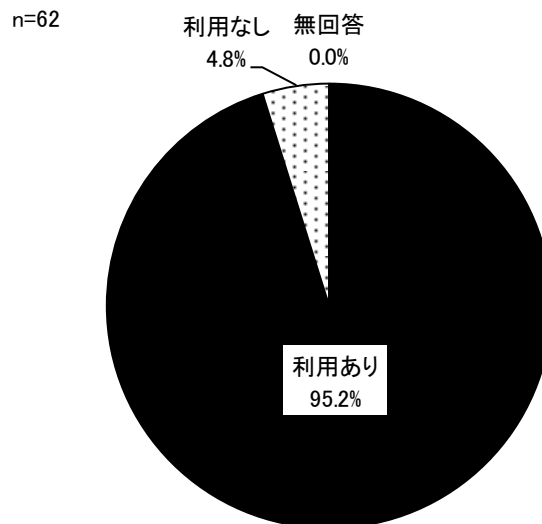
Q14 施設で実施している事業



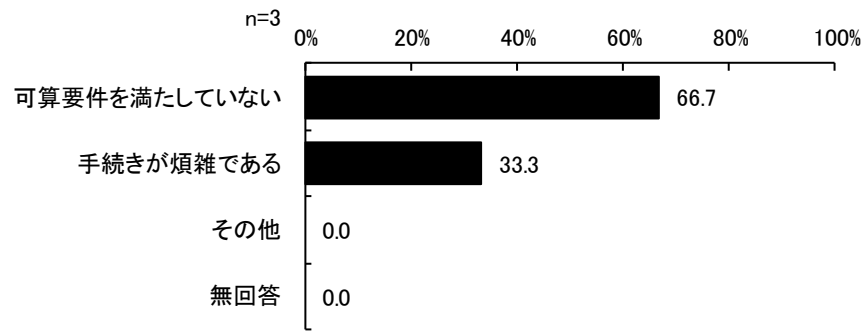
Q15 施設の養育単位数



Q16 小規模化に対する加算を利用しているか



Q17 可算を利用していない理由



Q18 どの職員を小規模施設に配置するか（自由回答・抜粋）

経験年数等	<ul style="list-style-type: none"> ・経験年数等考慮し偏りがないように配置 ・経験年数等考慮し偏りがないように配置新卒からベテランまで偏り無く配置し、ユニット内で職員教育が行えるようにする ・主任、リーダー、看護師、保育士、心理職などを配置
職員間のバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットリーダー→ホームリーダー→CWを選出し、人材育成を兼ねて配置を考えている。 ・該当児童の担当職員を配置。その際、リーダー職員と初任者職員の配置バランスを考慮している。 ・勤務年数等、全体のバランスを考えている
子どもとの組み合わせ等	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の成育歴や発達、職員の経験年数や職種を考慮して配置する。また、担当養育制であるため、担当児と担当職員が関われるよう配慮する

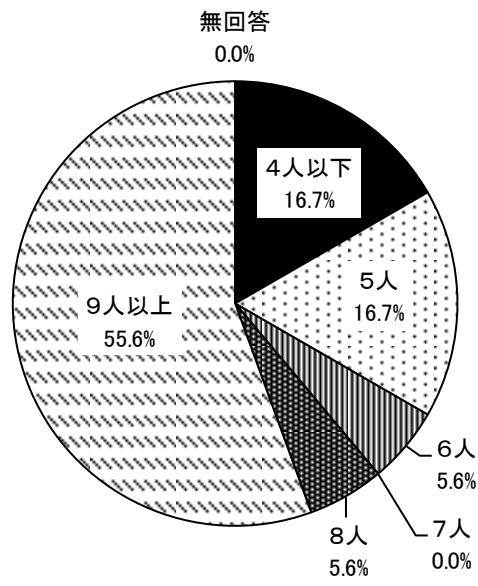
Q20 施設の設置年

単位:年

調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
14	1999.4	23.4	1947	2021

Q21 施設の定員

n=18



Q22 施設（小規模施設内）の従業員数

単位:人

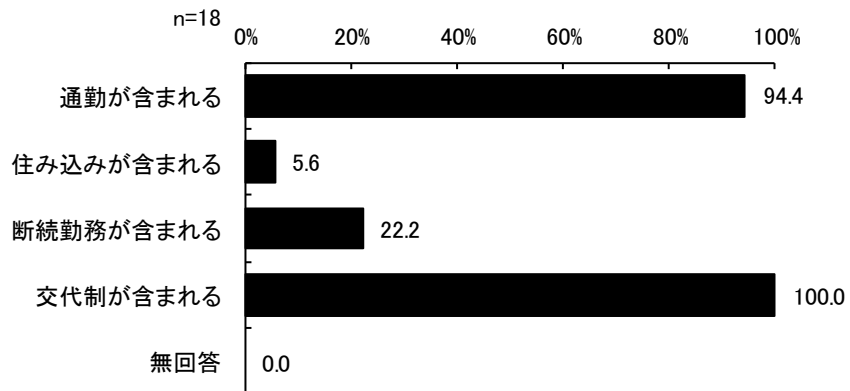
調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
18	22.9	18.5	0	54

Q23 施設に常駐している専門職の人数

単位:人

	調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
医師	18	0.2	0.4	0	1
看護師	18	3.1	2.6	0	8
保育士	18	14.6	11.6	0	35
児童生活支援員	18	0.0	0.0	0	0
児童指導員	18	0.9	1.3	0	5
児童自立支援専門員	18	0.0	0.0	0	0
個別対応職員	18	0.6	0.5	0	1
家庭支援専門相談員	18	0.9	0.7	0	2
心理療法担当職員	18	0.6	0.6	0	2
職業指導員	18	0.1	0.2	0	1

Q24 施設における勤務形態で当てはまるもの



Q25 本体施設の職員で貴施設の支援を兼務している職員は何名いるか

単位:人

調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
18	4.0	7.0	0	23

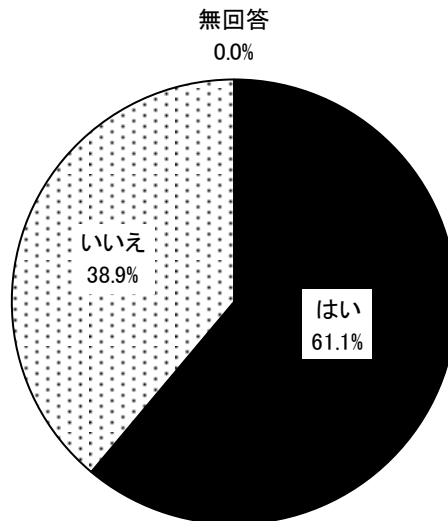
Q26 施設（小規模施設内）職員の平均勤続年数

単位:年

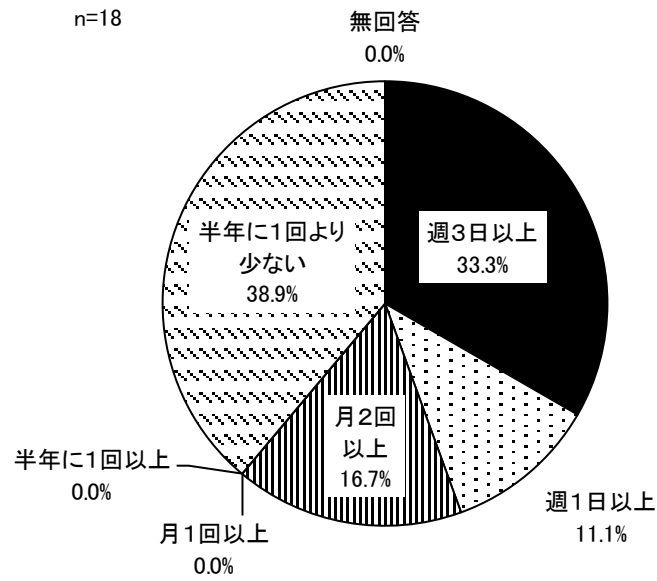
調査数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
18	7.1	3.8	0	16

Q27 兼務でない本体施設の職員から支援を受けることはあるか

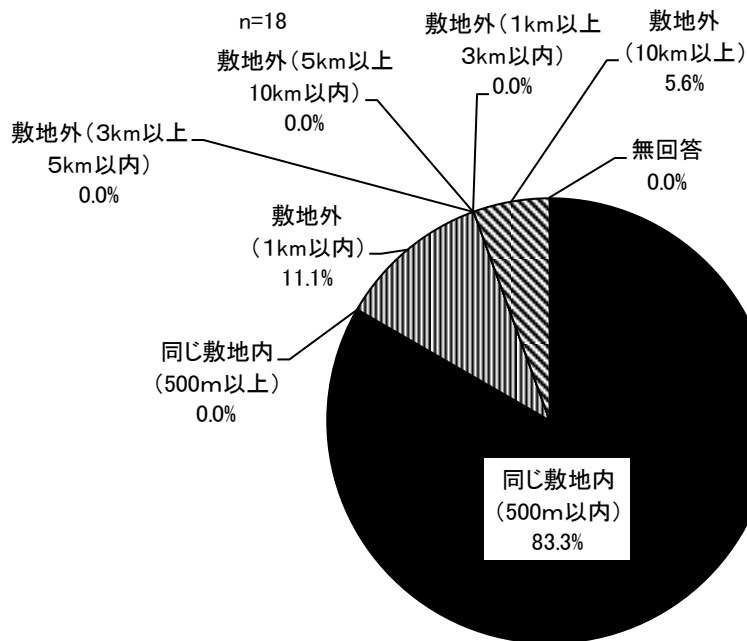
n=18



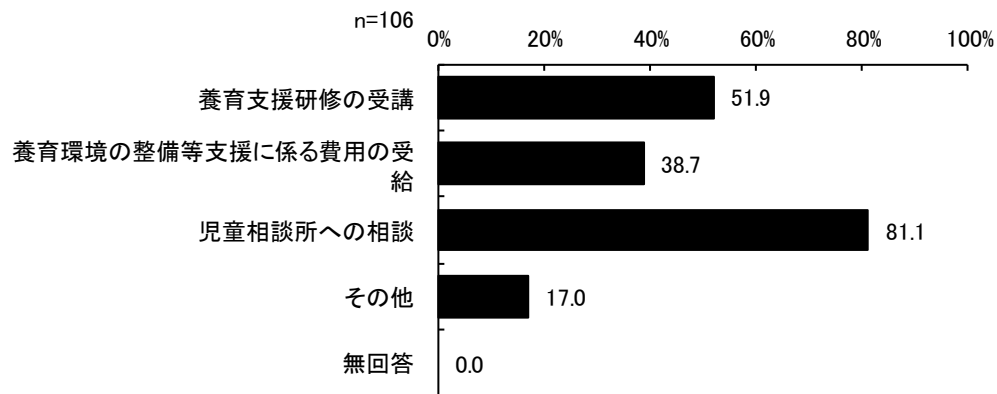
Q28 兼務でない本体施設の職員による支援はどの程度の頻度で行われるか



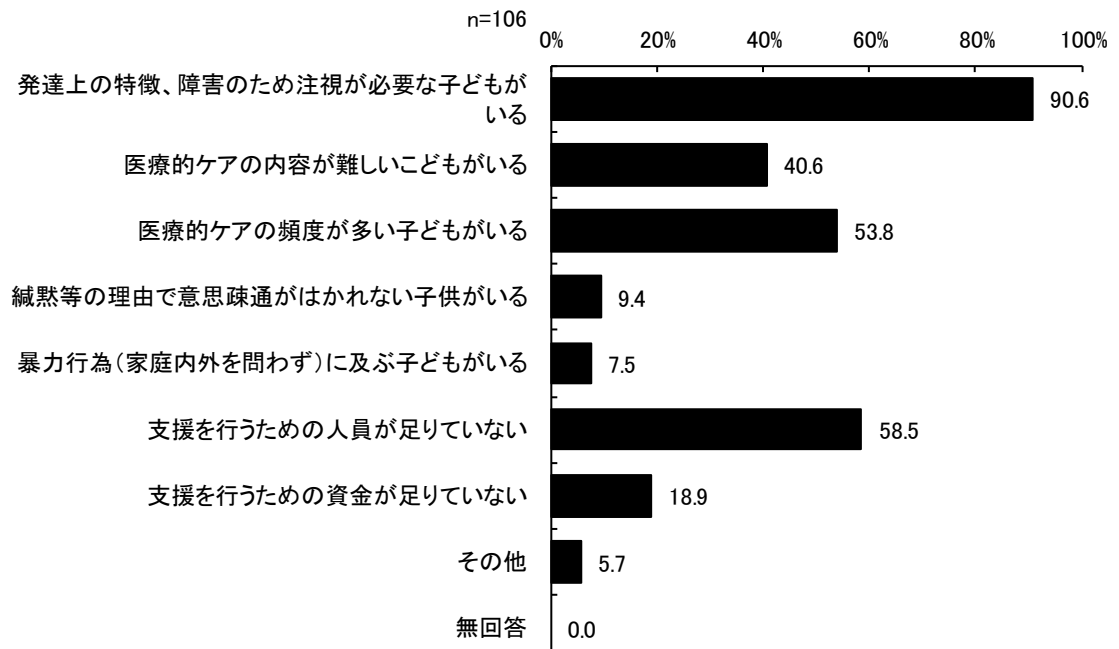
Q29 本体施設との距離はどの程度あるか



Q33 公的サービスで利用しているもの

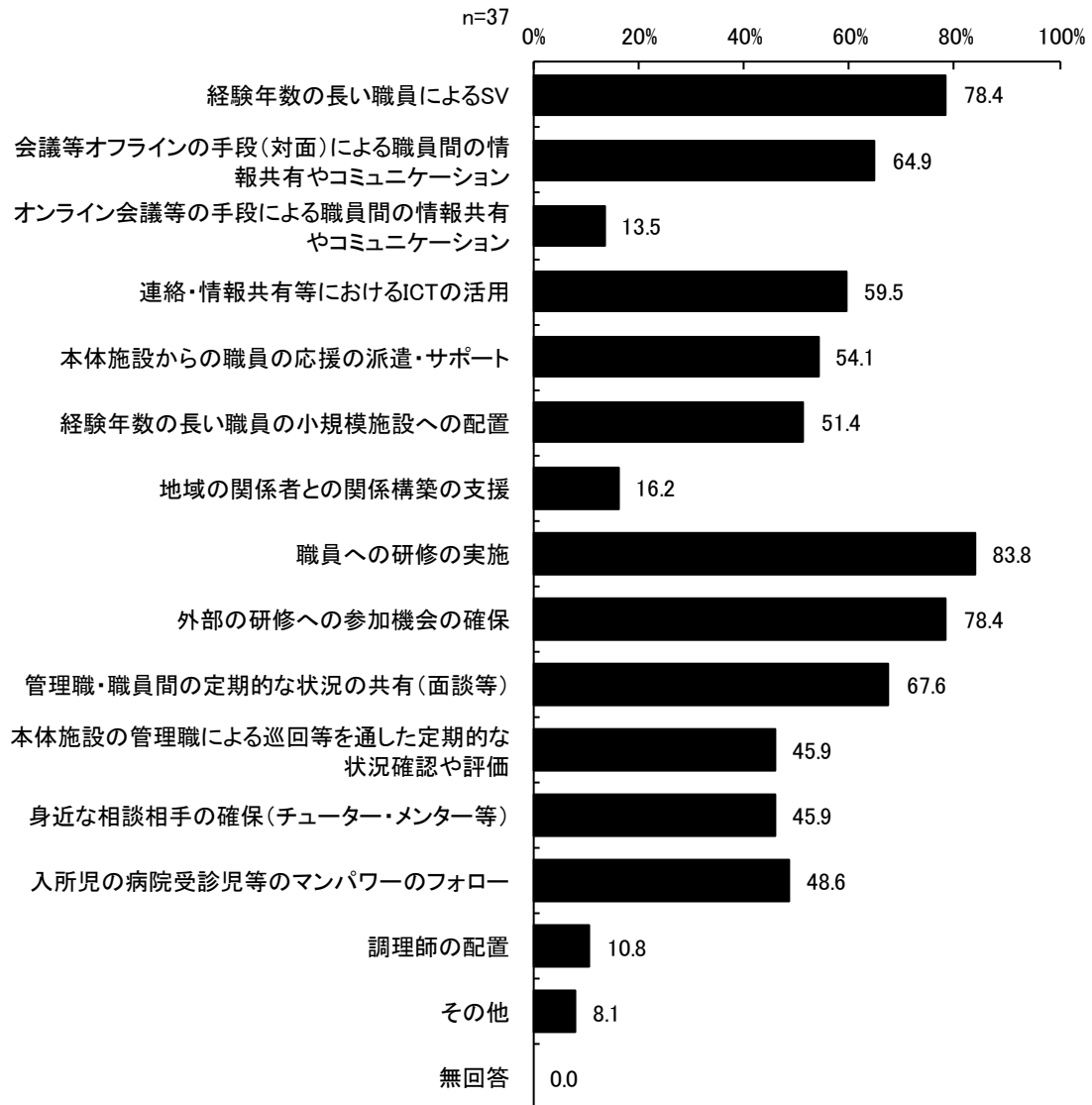


Q35 現在子どもの支援を行う上で苦労していること

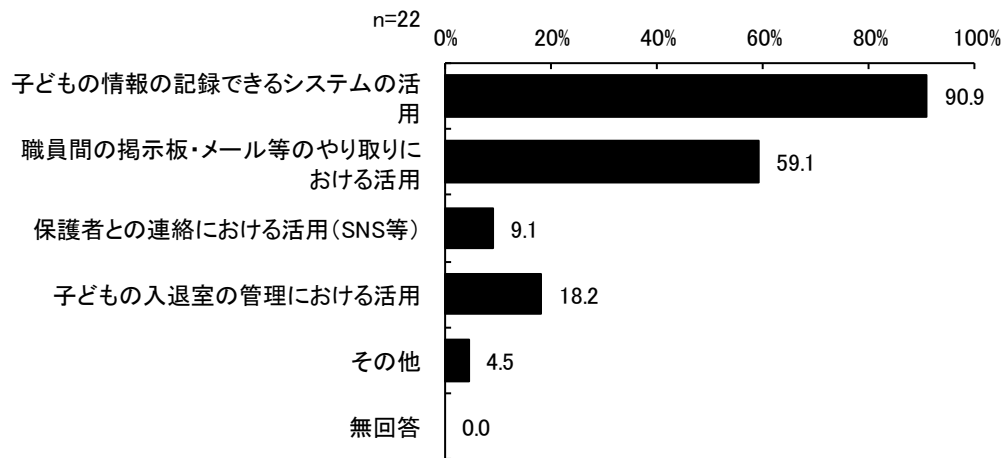


② バックアップの取組状況（本体施設が回答）

Q38 小規模施設に対するバックアップとして実施していること



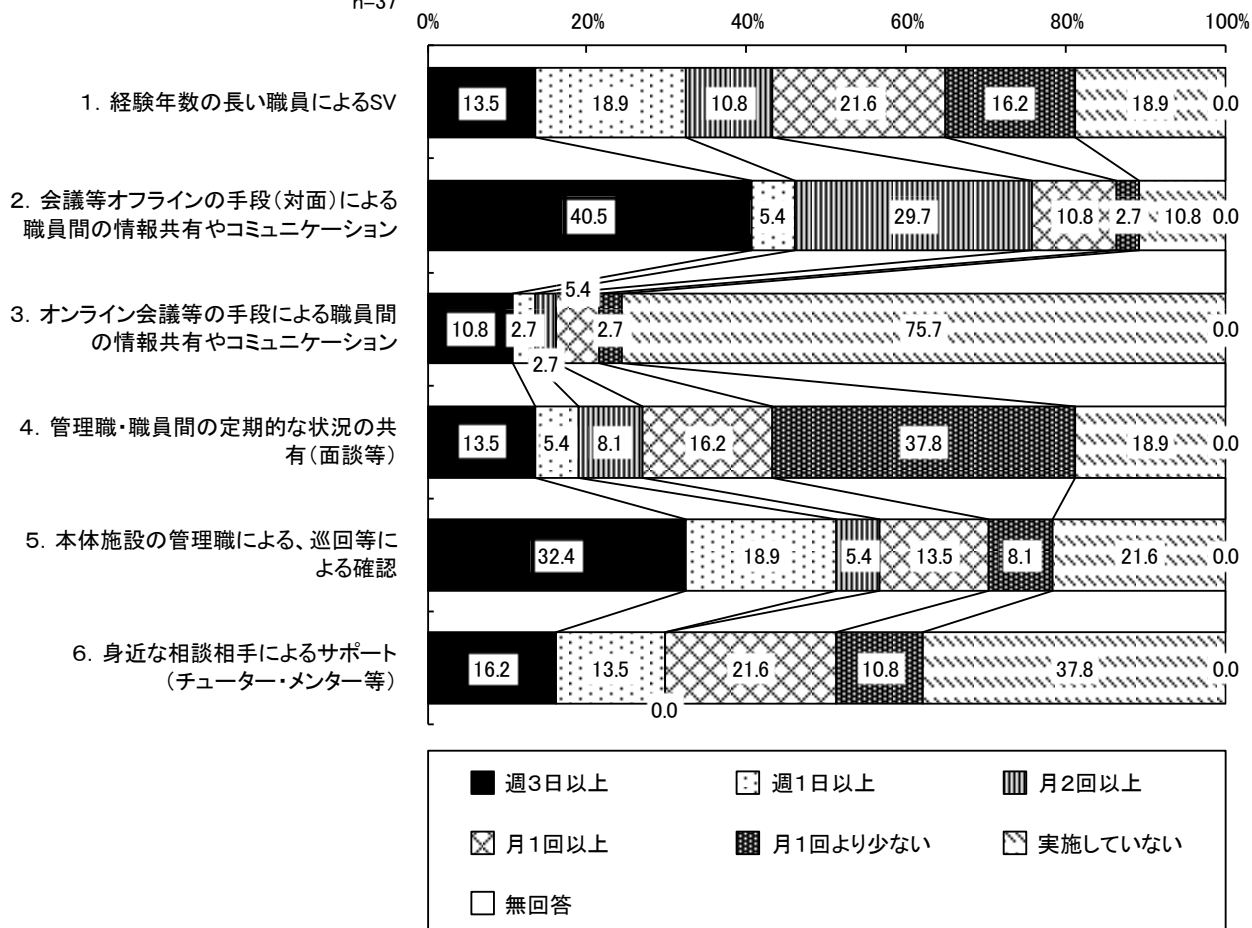
Q39 ICT 活用の取り組みの詳細



バックアップの取組を行う頻度

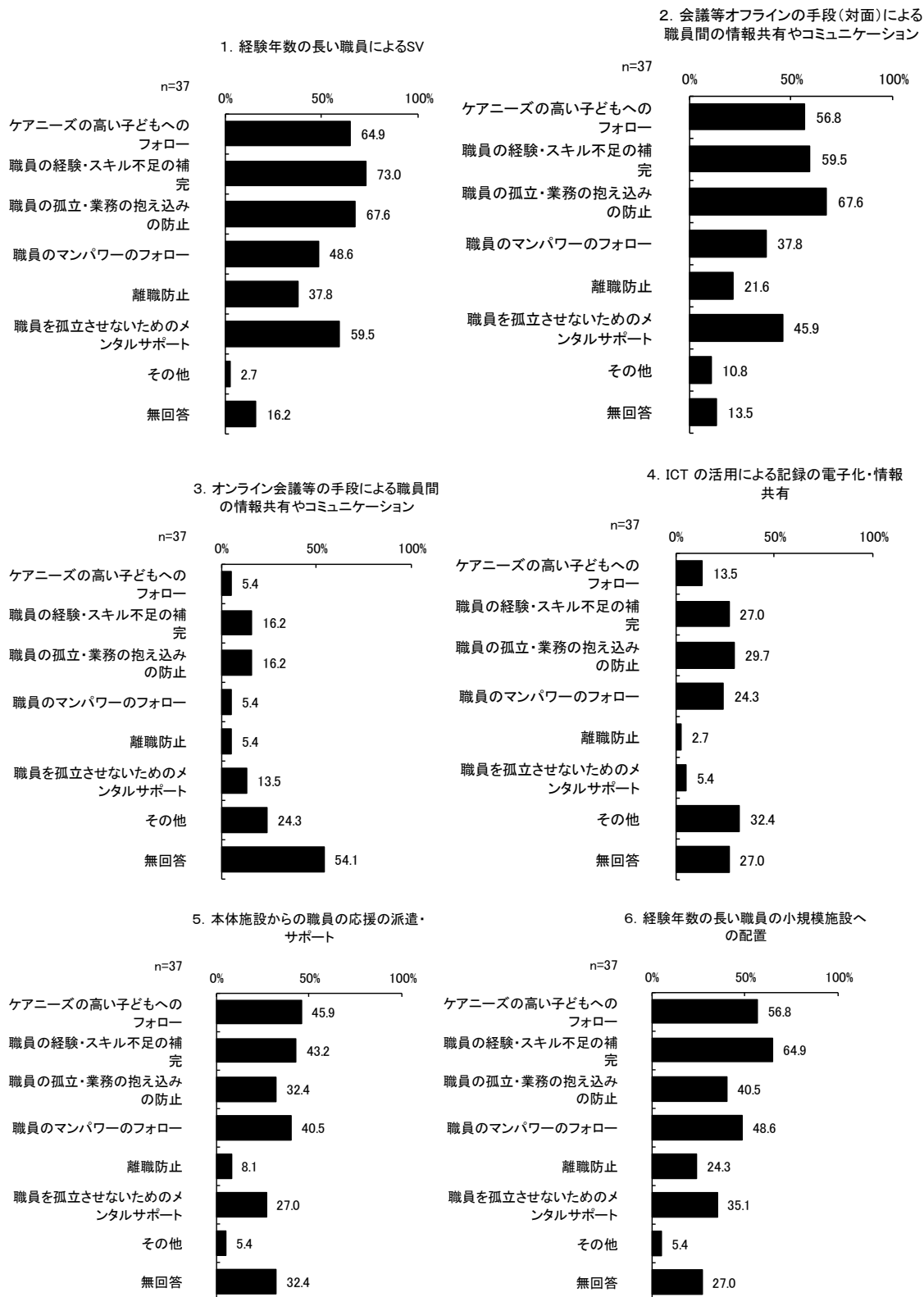
Q40 バックアップの取組を行う頻度

n=37



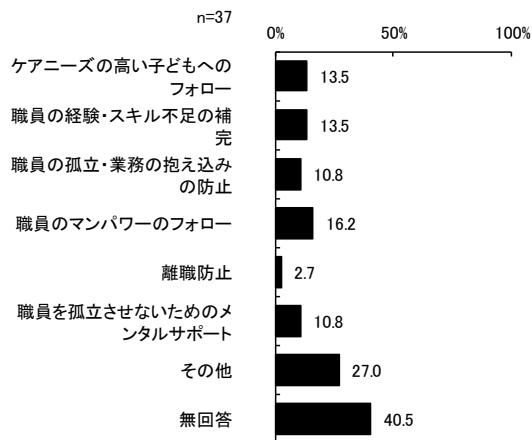
- バックアップの各取組の目的や狙いについて当てはまるもの

Q41 バックアップの各取組の目的や狙いについて当てはまるもの

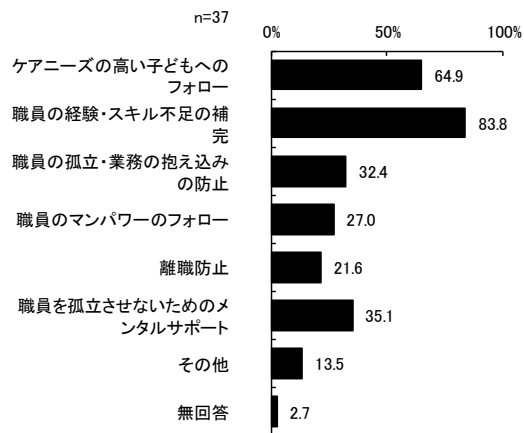


Q41 バックアップの各取組の目的や狙いについて当てはまるもの

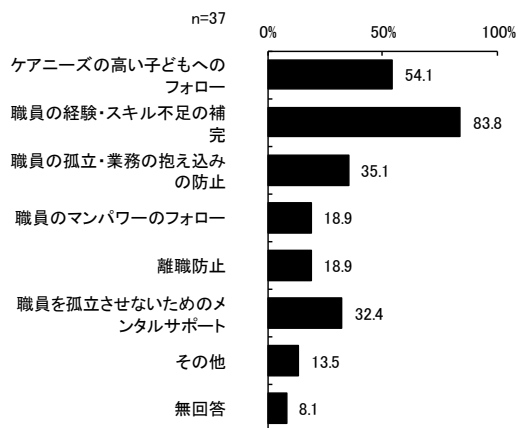
7. 地域の関係者との関係構築の支援



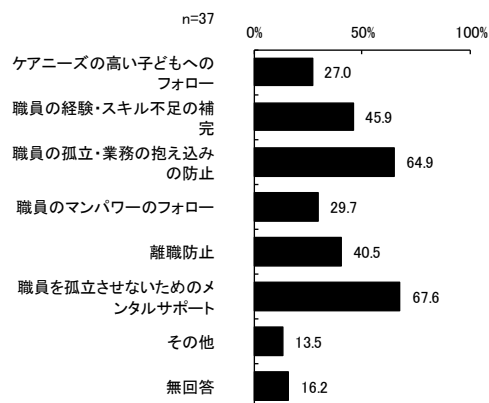
8. 職員への研修の実施



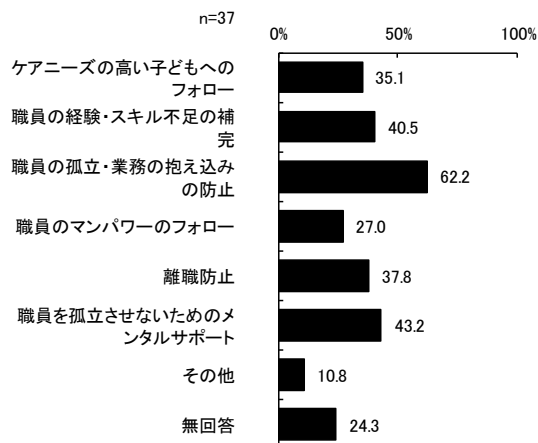
9. 外部の研修への参加機会の確保



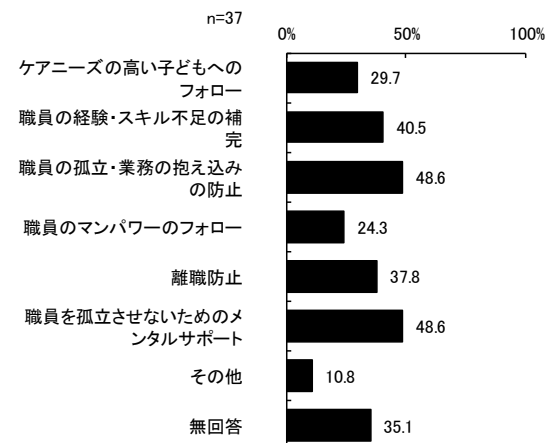
10. 管理職・職員間の定期的な状況の共有(面談等)



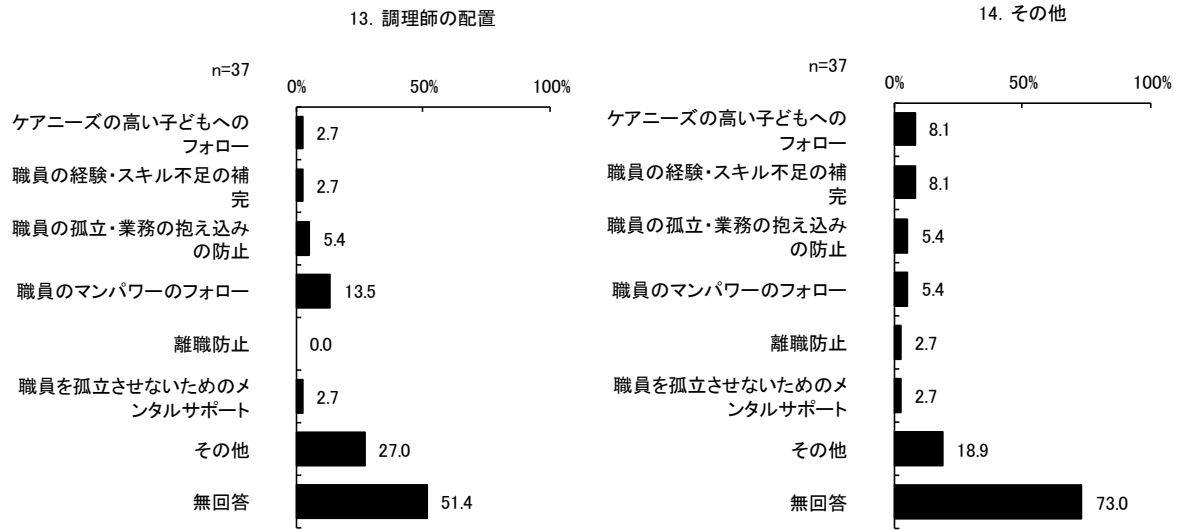
11. 本体施設の管理職の定期的な状況確認や評価



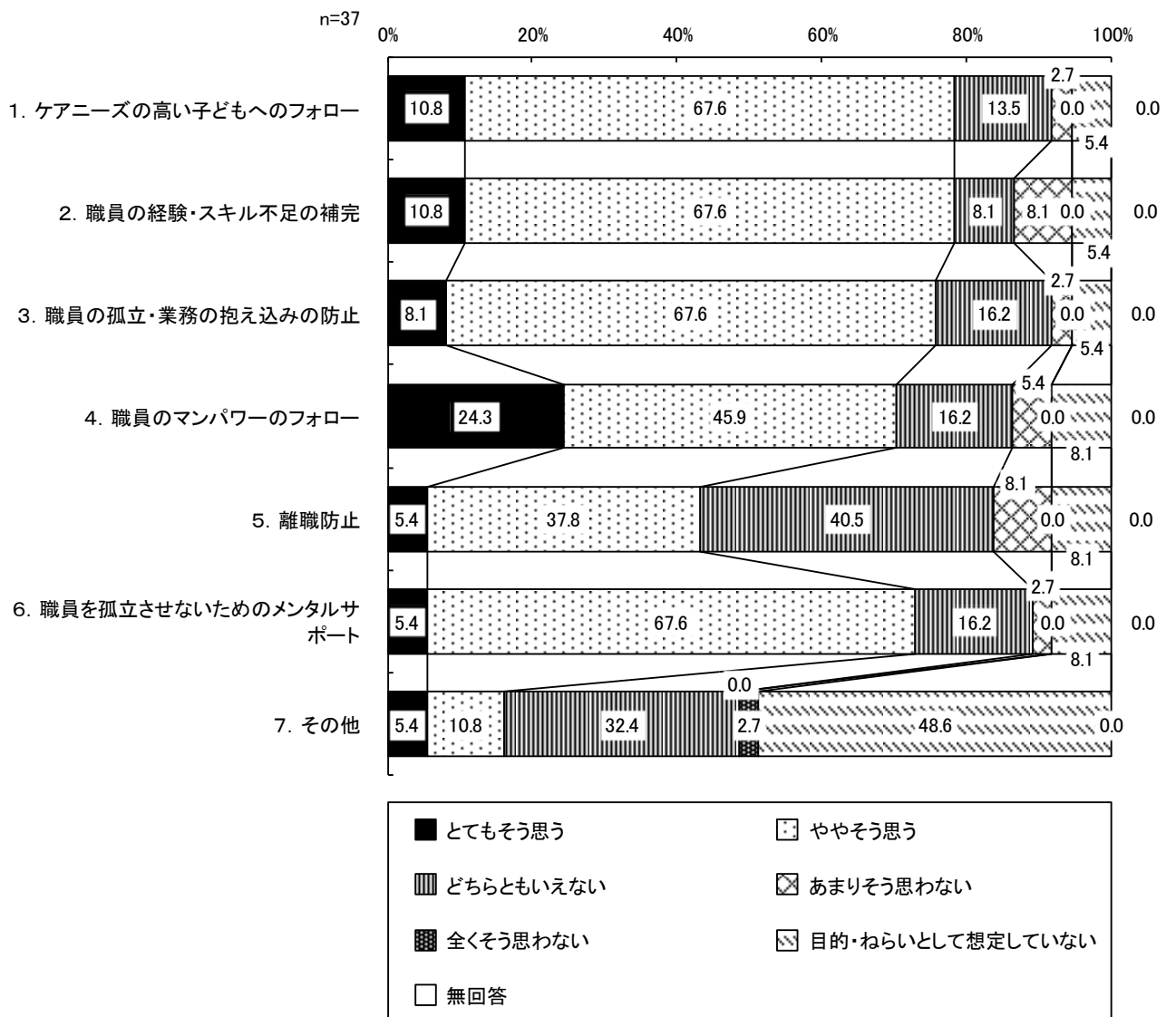
12. 身近な相談相手の確保(チューター・メンター等)



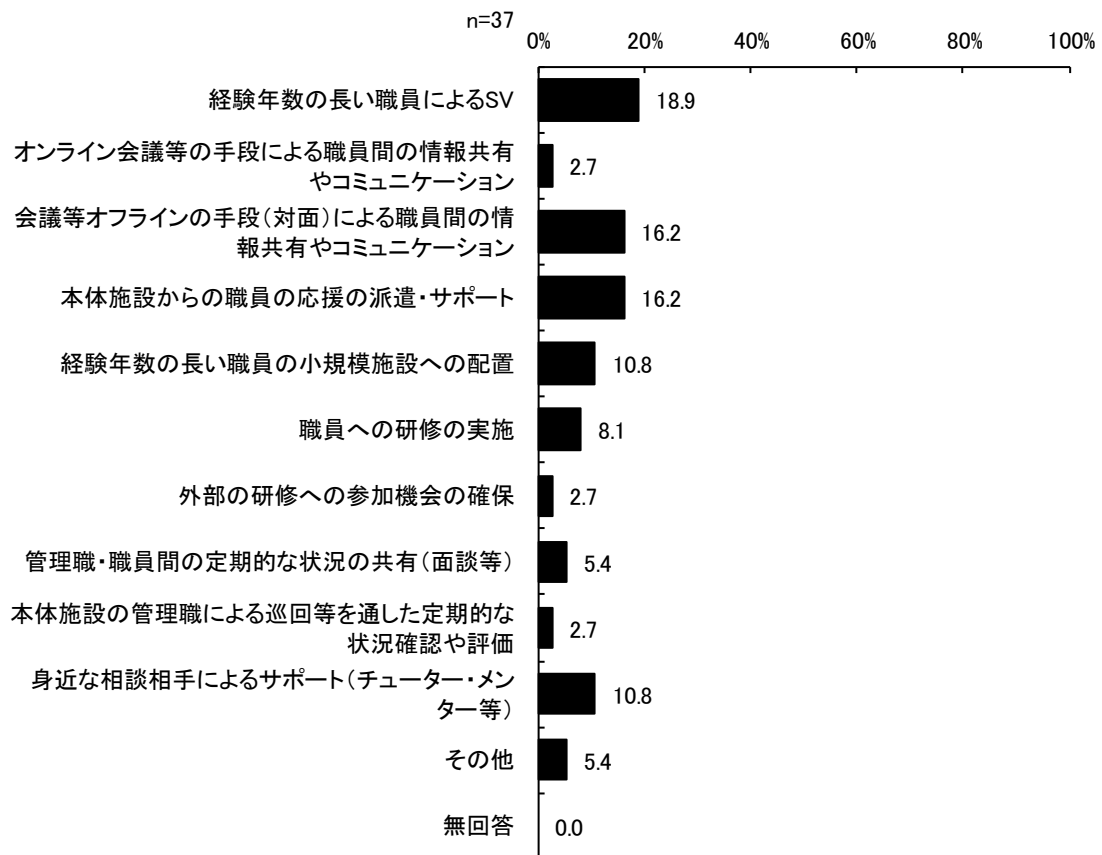
Q41 バックアップの各取組の目的や狙いについて当てはまるもの



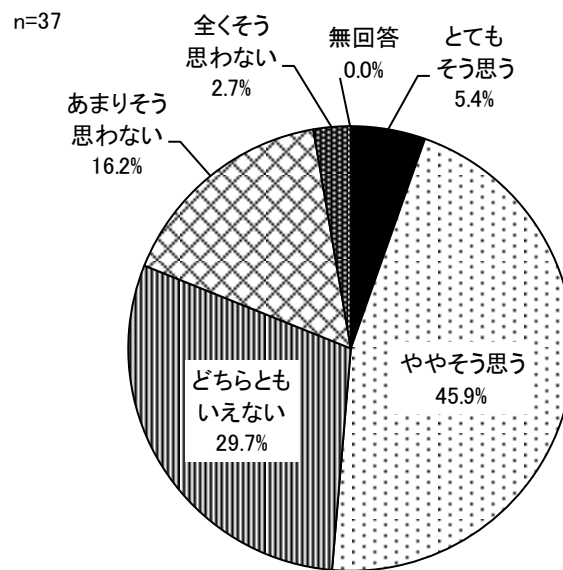
Q42 バックアップの各取組について、目的や狙い通りの効果を得られていると思うか



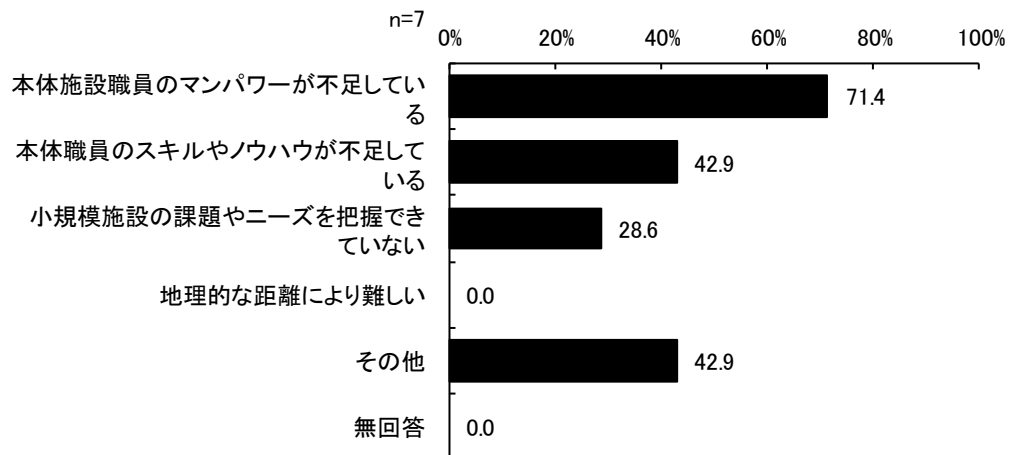
Q43 バックアップにおいて特に効果的・重要と考える取組



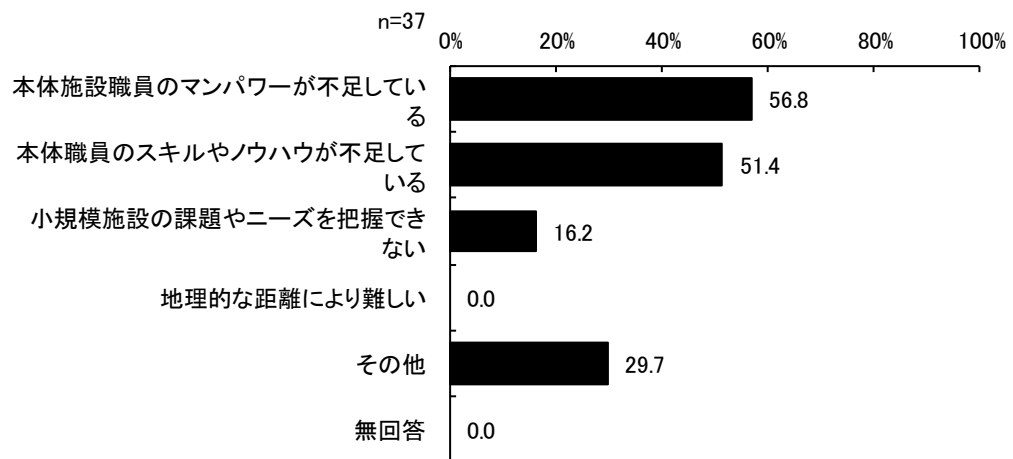
Q45 バックアップの取組を十分に行えていると感じるか



Q46 バックアップの取組を十分に行えていないと感じる理由

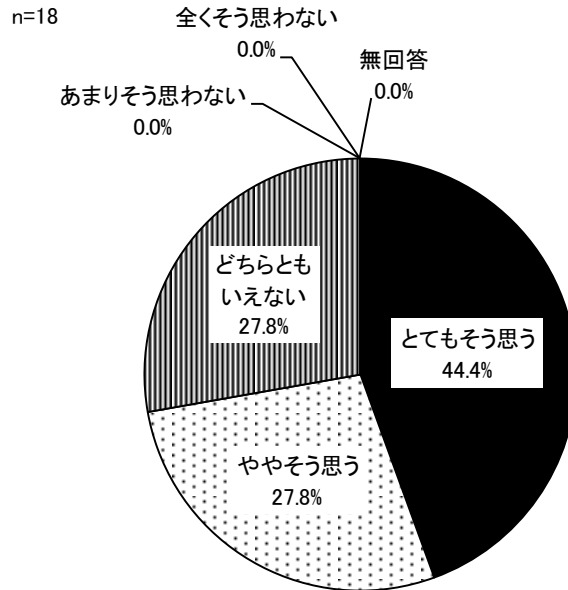


Q47 バックアップを行う上で課題・難しいと感じていること

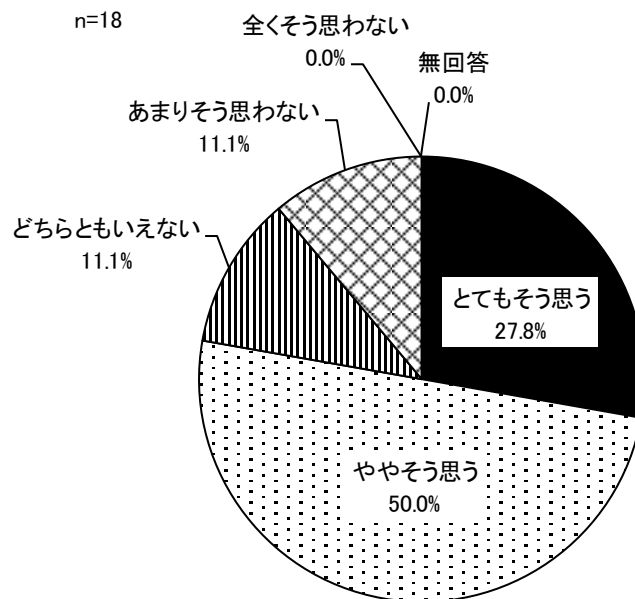


③ バックアップの取組状況（小規模施設が回答）

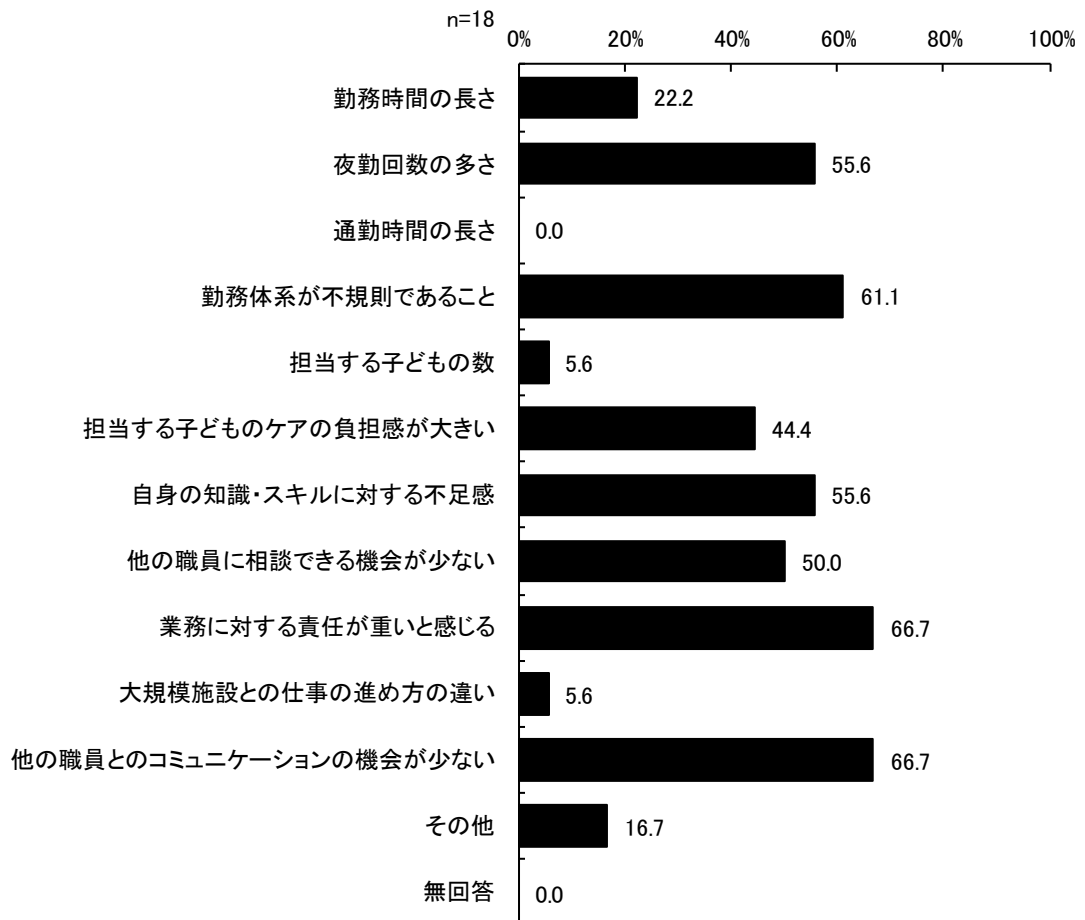
Q49 施設の小規模施設で働く職員の業務の負担感は大きいと感じるか



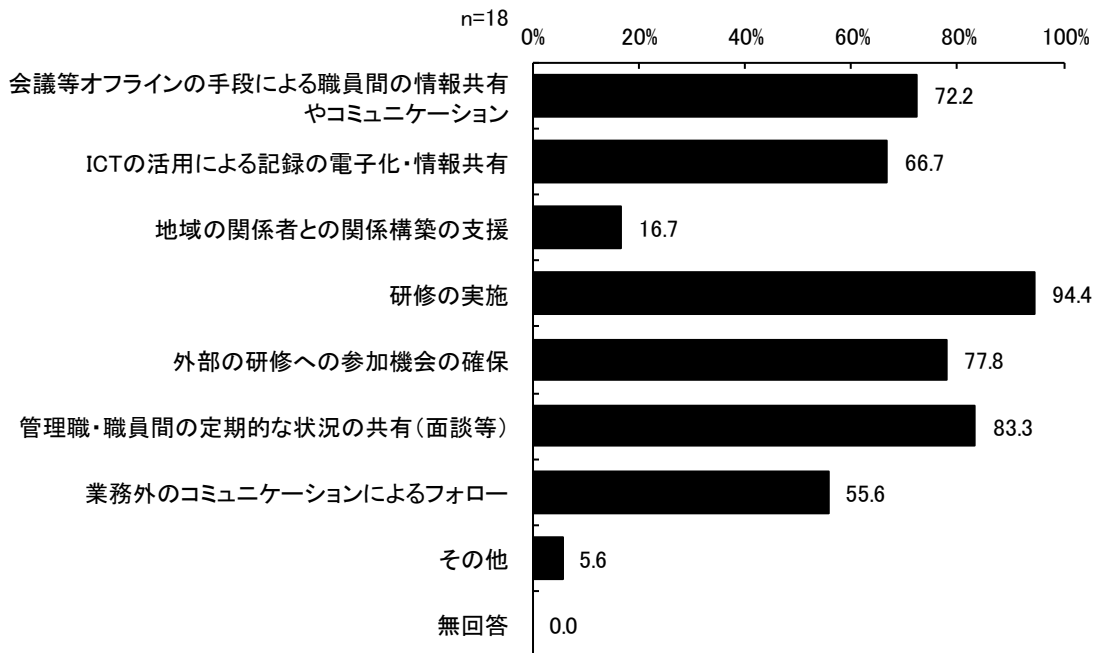
Q50 施設の小規模施設で働く職員は業務上で困難な事象に直面することが多いと感じるか



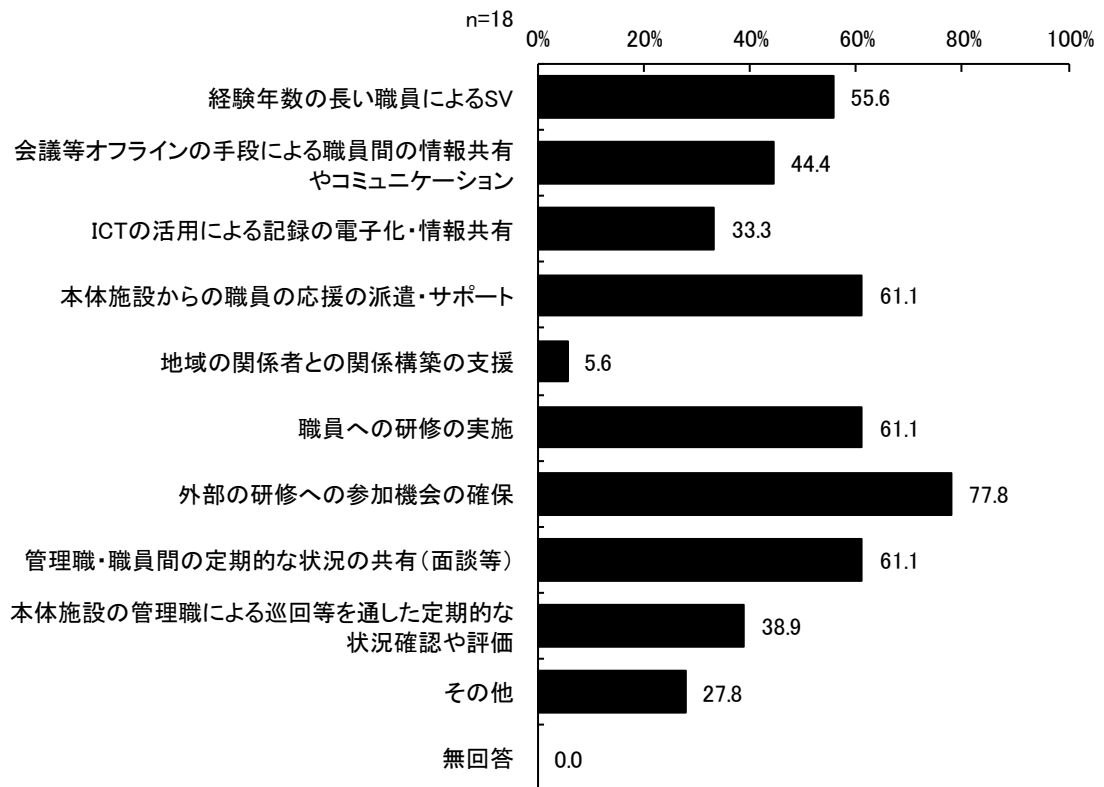
Q51 業務上で困難な事象に直面することが多いと感じる要因



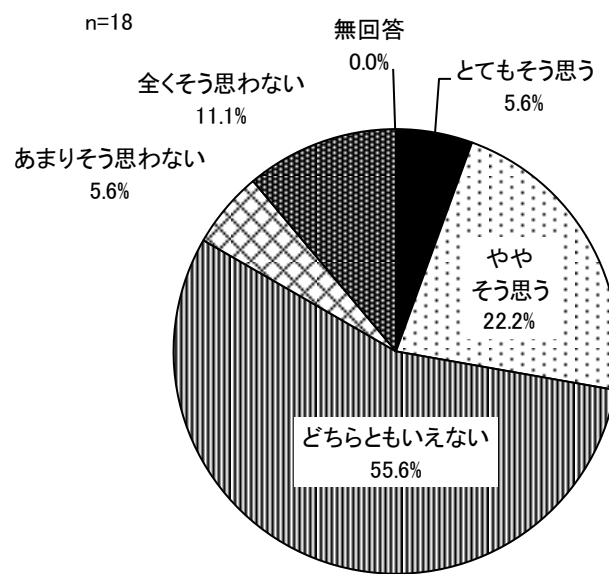
Q52 施設内での職員のフォローを目的とした取組について当てはまるもの



Q53 本体施設から受けているバックアップの内容



Q54 本体施設から十分なバックアップを得られていると感じるか



「里親・ファミリーホーム・施設のあり方の検討に関する調査研究事業」
「児童養護施設や乳児院の小規模化・地域分散化における本体施設のバックアップ体制に関する調査研究事業」
『児童養護施設に関するアンケート調査』（小規模施設の職員に対するアンケート）

【ご回答いただくにあたって】
このアンケートは、現時点の状況でご回答ください。

基本情報についてお伺いします。

1	貴施設のお名前を教えてください。																	
職種を選択ください。																		
2	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">1. 医師</td> <td style="width: 33%;">5. 児童指導員</td> <td style="width: 33%;">9. 心理療法担当職員</td> </tr> <tr> <td>2. 看護師</td> <td>6. 児童自立支援専門員</td> <td>10. 職業指導員</td> </tr> <tr> <td>3. 保育士</td> <td>7. 個別対応職員</td> <td>11. 母子支援員</td> </tr> <tr> <td>4. 児童生活支援員</td> <td>8. 家庭支援専門相談員</td> <td></td> </tr> </table>	1. 医師	5. 児童指導員	9. 心理療法担当職員	2. 看護師	6. 児童自立支援専門員	10. 職業指導員	3. 保育士	7. 個別対応職員	11. 母子支援員	4. 児童生活支援員	8. 家庭支援専門相談員						
1. 医師	5. 児童指導員	9. 心理療法担当職員																
2. 看護師	6. 児童自立支援専門員	10. 職業指導員																
3. 保育士	7. 個別対応職員	11. 母子支援員																
4. 児童生活支援員	8. 家庭支援専門相談員																	
3	社会的養護関連施設（児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設等）での経験年数を教えてください。	年																
4	小規模施設における経験年数を教えてください。	年																
5	貴施設における経験年数を教えてください。	年																
6	貴施設（小規模施設）で勤務する職員を貴施設での経験年数が長い順で並べた際に、あなたは何人中何人目ですか。	人中 番目																
7	勤務形態として当てはまるものを選択してください。 1. 通勤が含まれる 2. 住み込みが含まれる 3. 断続勤務が含まれる 4. 交代制が含まれる																	
8	本体施設への兼務を行っていますか。 1. はい 2. いいえ																	
9	本体施設への勤務と小規模施設への勤務はそれぞれおよそ週何日程度ですか。																	
	【本体施設】勤務はおよそ週何日程度ですか。	日																
	【小規模施設】勤務はおよそ週何日程度ですか。	日																
10	担当している子どもの人数を教えてください。	人																
11	担当している子どもの人数を年齢帯ごとに教えてください。																	
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 25%;">0歳</td> <td style="width: 25%;">1歳</td> <td style="width: 25%;">2-3歳</td> <td style="width: 25%;">4-5歳</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">人</td> <td style="text-align: center;">人</td> <td style="text-align: center;">人</td> <td style="text-align: center;">人</td> </tr> <tr> <td>6-9歳</td> <td>10-14歳</td> <td>15-17歳</td> <td>18歳以上</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">人</td> <td style="text-align: center;">人</td> <td style="text-align: center;">人</td> <td style="text-align: center;">人</td> </tr> </table>	0歳	1歳	2-3歳	4-5歳	人	人	人	人	6-9歳	10-14歳	15-17歳	18歳以上	人	人	人	人	
0歳	1歳	2-3歳	4-5歳															
人	人	人	人															
6-9歳	10-14歳	15-17歳	18歳以上															
人	人	人	人															
12	業務上で困難な事象に直面することが多いと感じますか。 1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. どちらとも言えない 4. あまりそう思わない 5. 全くそう思わない																	
13	業務上の負担感は大きいと感じますか。 1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. どちらとも言えない 4. あまりそう思わない 5. 全くそう思わない																	

14	以下の事項が困難に直面する際の要因になっていますか。当てはまるものをすべて選択してください。						
	職務内容（子どもの情緒や行動等への対応）						
	子どもの問題行動への対応	子どもとの関係性の構築	仕事と私生活の切り替えの難しさ	業務内容の難しさ			
	とてもそう思う						
	ややそう思う						
	どちらとも言えない						
	あまりそう思わない						
	全くそう思わない						
	職務内容（その他）						
	ルーティーンワーク	会議・記録等	保護者への対応	地域の関係機関との連携			
	とてもそう思う						
	ややそう思う						
	どちらとも言えない						
	あまりそう思わない						
	全くそう思わない						
	一時保護への対応		専門性	労働環境	その他		
	職員が少ないタイミングでの一時保護対応	一時保護により、急性期対応が求められることが多い	自身の知識・スキルに対する不足感	業務の身体的負担が大きい			
	とてもそう思う						
	ややそう思う						
	どちらとも言えない						
	あまりそう思わない						
	全くそう思わない						
15	困難を感じる際の背景要因として、当てはまるものをすべて選択してください。						
	勤務時間の長さ	宿直回数の多さ	通勤時間の長さ	勤務体系が不規則であること	職員のマンパワーの不足（日勤時間帯）	職員のマンパワーの不足（宿直時間帯）	
	とてもそう思う						
	ややそう思う						
	どちらとも言えない						
	あまりそう思わない						
	全くそう思わない						
	担当する子どもの数	本体施設や大規模施設との仕事の進め方の違い	上長に相談できる機会が少ない	他職員（同僚）に相談できる機会が少ない	学ぶ仕組みや機会が少ない	その他	
	とてもそう思う						
	ややそう思う						
	どちらとも言えない						
	あまりそう思わない						
	全くそう思わない						
16	子どもをケアするうえで困難に直面する際の背景にある子どもの状況として当てはまるものをすべて選択してください。						
	1. 医療的ケアの内容が難しい	6. 知的障害を有している	11. 学校に通おうとしない、学業不振等教育上の問題を有している				
	2. 医療的ケアの頻度が多い	7. 発達障害を有している	12. 内気、緘黙など性格・行動上の問題を有している				
	3. 精神障害を有している	8. 愛着障害を有している。	13. 施設内で暴力に及ぶことがある				
	4. 被虐待体験等により、子どもからのニーズが発出されない	9. 虞犯行為に及ぶことがある	14. その他				
	5. 身体的障害を有している（視覚・聴覚を含む）	10. 触法行為に及ぶことがある					
17	困難に直面する要因の中で「自身の知識・スキルに対する不足感」とお答えした方について、どのような点で知識やスキルを身に付けたいと考えますか。						
18	困難を感じる際の背景要因の中で、「職員のマンパワーの不足」とお答えした方について、どのような場面で職員のマンパワーが不足していると感じますか。						

19 施設内の取組で行っているものを全て選択してください。						
1. 会議等オフラインの手段（対面）による職員間の情報共有やコミュニケーション	5. 研修の実施	9. 身近な相談相手によるサポート（チューター・メンター等）				
2. オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	6. 外部の研修への参加機会の確保	10. その他				
3. ICTの活用による記録の電子化・情報共有	7. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）					
4. 地域の関係者との関係構築の支援	8. 業務外のコミュニケーションによるフォロー					
20 本体施設から十分なバックアップを得られていると感じますか。						
1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない				
2. ややそう思う	4. あまりそう思わない					
21 本体施設から受けている支援として当てはまるものをすべて選択してください。						
1. 経験年数の長い職員によるSV	6. 経験年数の長い職員の小規模施設への配置	11. 本体施設の管理職による巡回等を通じた定期的な状況確認や評価				
2. 職員間の掲示板・メール等のやり取りにおける活用	7. 地域の関係者との関係構築の支援	12. 身近な相談相手によるサポート（チューター・メンター等）				
3. オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	8. 職員への研修の実施	13. その他				
4. 連絡・情報共有等におけるICTの活用	9. 外部の研修への参加機会の確保					
5. 本体施設からの職員の応援の派遣・サポート	10. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）					
22 上記（Q21）バックアップの取組を行う頻度を教えてください。						
	経験年数の長い職員によるSV	会議等オフラインの手段（対面）による職員間の情報共有やコミュニケーション	オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）	本体施設の管理職による巡回等を通じた定期的な状況確認や評価	身近な相談相手の確保（チューター・メンター等）
週3回以上						
週1回以上						
月2回以上						
月1回以上						
月1回より少ない						
実施していない						
23 上記（Q21）の取組が、自身の業務負担軽減や業務の効果的な実施において効果があると感じていますか。						
1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない				
2. ややそう思う	4. あまりそう思わない					
24 本体施設からの支援に期待することは何ですか。						
ご回答者様についてお伺いします。						
25	より正確に実態を把握するため、個別にヒアリングをお願いする可能性がございます。ヒアリングをお受けすることは可能ですか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. はい 2. いいえ					
26	回答者様のお名前を教えてください。 ※文字を入力してください					
27	電話番号をご記入ください。 ※数字を入力してください					
28	メールアドレスをご記入ください。 ※メールアドレスを入力してください					
設問は以上となります。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。						

「里親・ファミリーホーム・施設のあり方の検討に関する調査研究事業」
「児童養護施設や乳児院の小規模化・地域分散化における本体施設のバックアップ体制に関する調査研究事業」
『乳児院に関するアンケート調査』（小規模施設の職員に対するアンケート）

【ご回答いただくにあたって】
このアンケートは、現時点の状況でご回答ください。

基本情報についてお伺いします。

1	貴施設のお名前を教えてください。													
職種を選択ください。														
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">1. 医師</td> <td style="width: 33%;">5. 児童指導員</td> <td style="width: 33%;">9. 心理療法担当職員</td> </tr> <tr> <td>2. 看護師</td> <td>6. 児童自立支援専門員</td> <td>10. 職業指導員</td> </tr> <tr> <td>3. 保育士</td> <td>7. 個別対応職員</td> <td>11. 母子支援員</td> </tr> <tr> <td>4. 児童生活支援員</td> <td>8. 家庭支援専門相談員</td> <td></td> </tr> </table>			1. 医師	5. 児童指導員	9. 心理療法担当職員	2. 看護師	6. 児童自立支援専門員	10. 職業指導員	3. 保育士	7. 個別対応職員	11. 母子支援員	4. 児童生活支援員	8. 家庭支援専門相談員	
1. 医師	5. 児童指導員	9. 心理療法担当職員												
2. 看護師	6. 児童自立支援専門員	10. 職業指導員												
3. 保育士	7. 個別対応職員	11. 母子支援員												
4. 児童生活支援員	8. 家庭支援専門相談員													
3	社会的養護関連施設（児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設等）での経験年数を教えてください。	年												
4	小規模施設における経験年数を教えてください。	年												
5	貴施設における経験年数を教えてください。	年												
6	貴施設（小規模施設）で勤務する職員を、貴施設での経験年数が長い順で並べた際に、あなたは何人中何人目ですか。	人中 番目												
7	勤務形態として当てはまるものをすべて選択してください。 1. 通勤が含まれる 2. 住み込みが含まれる 3. 断続勤務が含まれる 4. 交代制が含まれる													
8	本体施設への兼務を行っていますか。 1. はい 2. いいえ													
9	本体施設への勤務と小規模施設への勤務はそれぞれおよそ週何日程度ですか。													
	【本体施設】勤務はおよそ週何日程度ですか。	日												
	【小規模施設】勤務はおよそ週何日程度ですか。	日												
10	担当している子どもの人数を教えてください。	人												
担当している子どもの人数を年齢帯ごとに教えてください。														
11	0歳	1歳	2歳	3歳以上										
	人	人	人	人										
業務の負担が大きいと感じますか。														
12	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">1. とてもそう思う</td> <td style="width: 33%;">3. どちらとも言えない</td> <td style="width: 33%;">5. 全くそう思わない</td> </tr> <tr> <td>2. ややそう思う</td> <td>4. あまりそう思わない</td> <td></td> </tr> </table>		1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない	2. ややそう思う	4. あまりそう思わない							
1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない												
2. ややそう思う	4. あまりそう思わない													
困難な事象に直面することが多いと感じますか。														
13	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">1. とてもそう思う</td> <td style="width: 33%;">3. どちらとも言えない</td> <td style="width: 33%;">5. 全くそう思わない</td> </tr> <tr> <td>2. ややそう思う</td> <td>4. あまりそう思わない</td> <td></td> </tr> </table>		1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない	2. ややそう思う	4. あまりそう思わない							
1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない												
2. ややそう思う	4. あまりそう思わない													

14	以下の事項が困難に直面する際の要因になっていますか。当てはまるものをすべて選択してください。						
	職務内容（子どもの情緒や行動等への対応）						
	子どもの問題行動への対応	子どもとの関係性の構築	仕事と私生活の切り替えの難しさ	業務内容の難しさ			
	とてもそう思う						
	ややそう思う						
	どちらとも言えない						
	あまりそう思わない						
	全くそう思わない						
	職務内容（その他）						
	ルーティーンワーク	会議・記録等	保護者への対応	地域の関係機関との連携			
	とてもそう思う						
	ややそう思う						
	どちらとも言えない						
	あまりそう思わない						
	全くそう思わない						
	一時保護への対応		専門性	労働環境	その他		
	職員が少ないタイミングでの一時保護対応	一時保護により、急性期対応が求められることが多い	自身の知識・スキルに対する不足感	業務の身体的負担が大きい			
	とてもそう思う						
	ややそう思う						
	どちらとも言えない						
	あまりそう思わない						
	全くそう思わない						
15	困難を感じる際の背景要因として、当てはまるものをすべて選択してください。						
	勤務時間の長さ	夜勤回数の多さ	通勤時間の長さ	勤務体系が不規則であること	職員のマンパワーの不足（日勤時間帯）	職員のマンパワーの不足（夜勤時間帯）	
	とてもそう思う						
	ややそう思う						
	どちらとも言えない						
	あまりそう思わない						
	全くそう思わない						
	担当する子どもの数	本体施設や大規模施設との仕事の進め方の違い	上長に相談できる機会が少ない	他職員（同僚）に相談できる機会が少ない	学ぶ仕組みや機会が少ない	その他	
	とてもそう思う						
	ややそう思う						
	どちらとも言えない						
	あまりそう思わない						
	全くそう思わない						

16	子どもをケアするうえで困難に直面する際の背景にある子どもの状況として当てはまるものをすべて選択してください。						
	1. 低出生体重児		13. 出生時から医療機関との連携が続いている				
	2. 精神医学的診断がつき服薬している		14. 愛着形成上の問題を有している（情緒面について個別的なかかわりや特定の養育者との愛着形成を特に必要とする）				
	3. 身体的障害（視覚・聴覚を含む）を有している（疑いがある場合を含む）		15. 年齢相応の基本的な生活習慣が身につけていない（年齢にそぐわない行為や発言がある）				
	4. 知的障害を有している（疑いがある場合を含む）		16. 施設内で暴力に及ぶことがある・他者とトラブルになりやすい				
	5. 発達障害を有している（疑いがある場合を含む）		17. ト라우マ起因の行動や症状がある				
	6. PTSDを有している（疑いがある場合を含む）		18. 出生時から医療機関との連携が継続している				
	7. 食事（ミルクを含む）に課題がある		19. 早期療育のために連携している機関がある				
	8. 睡眠に課題がある（入眠困難、眠りが浅く何度も起きる、夜驚、早朝覚醒など）	20. 医療的ケアの内容が難しい					
	9. 筋緊張がある	21. 内気、緘黙など性格・行動上の問題を有している					
	10. 身体面において個別的な訓練やトレーニングを必要とする	22. 母語が日本語以外であるためコミュニケーションが難しい					
	11. 社会面（言語面含む）において個別的な訓練やトレーニングを必要とする	23. 無国籍である					
	12. 生活面において、個別的な訓練やトレーニングを必要とする						
17	困難に直面する要因の中で「自身の知識・スキルに対する不足感」とお答えした方について、どのような点で知識やスキルを身に付けたいと考えますか。						
18	困難を感じる際の背景要因の中で、「職員のマンパワーの不足」とお答えした方について、どのような場面で職員のマンパワーが不足していると感じますか。						
19	施設内の取組で行っているものをすべて選択してください。						
	1. 会議等オフラインの手段（対面）による職員間の情報共有やコミュニケーション	5. 研修の実施	9. 身近な相談相手によるサポート（チューター・メンター等）				
	2. オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	6. 外部の研修への参加機会の確保	10. その他				
	3. ICTの活用による記録の電子化・情報共有	7. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）					
	4. 地域の関係者との関係構築の支援	8. 業務外のコミュニケーションによるフォロー					
20	本体施設から十分なバックアップを得られていると感じますか。						
	1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない				
	2. ややそう思う	4. あまりそう思わない					
21	本体施設から受けている支援として当てはまるものをすべて選択してください。						
	1. 経験年数の長い職員によるSV	6. 経験年数の長い職員の小規模施設への配置	11. 本体施設の管理職による巡回等を通じた定期的な状況確認や評価				
	2. 職員間の掲示板・メール等のやり取りにおける活用	7. 地域の関係者との関係構築の支援	12. 身近な相談相手によるサポート（チューター・メンター等）				
	3. オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	8. 職員への研修の実施	13. その他				
	4. 連絡・情報共有等におけるICTの活用	9. 外部の研修への参加機会の確保					
	5. 本体施設からの職員の応援の派遣・サポート	10. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）					
22	以下のバックアップの取組を行う頻度を教えてください。						
		経験年数の長い職員によるSV	会議等オフラインの手段（対面）による職員間の情報共有やコミュニケーション	オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）	本体施設の管理職による巡回等を通じた定期的な状況確認や評価	身近な相談相手の確保（チューター・メンター等）
	週3回以上						
	週1回以上						
	月2回以上						
	月1回以上						
	月1回より少ない						
	実施していない						

上記(Q21)の取組が、自身の業務負担軽減や業務の効果的な実施において効果があると感じていますか。	
23	1. とても思う 2. ややそう思う 3. どちらとも言えない 4. あまりそう思わない 5. 全くそう思わない
24	本体施設からの支援に期待することは何ですか。
ご回答者様についてお伺いします。	
25	より正確に実態を把握するため、個別にヒアリングをお願いする可能性がございます。ヒアリングをお受けすることは可能でしょうか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. はい 2. いいえ
26	回答者様のお名前を教えてください。 ※文字を入力してください
27	電話番号をご記入ください。 ※数字を入力してください
28	メールアドレスをご記入ください。 ※メールアドレスを入力してください
設問は以上となります。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。	

「里親・ファミリーホーム・施設のあり方の検討に関する調査研究事業」
「児童養護施設や乳児院の小規模化・地域分散化における本体施設のバックアップ体制に関する調査研究事業」
『児童養護施設に関するアンケート調査』（施設一般に関するアンケート）

【ご回答いただくにあたって】
このアンケートは、現時点の状況でご回答ください。

基本情報についてお伺いします。

1	貴施設のお名前を教えてください。	
2	貴施設の種類の種類を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 児童養護施設児童 2. 心理治療施設 3. 児童自立支援施設 4. 自立援助ホーム	
3	施設が所在している都道府県を教えてください。	
4	施設が所在している市町村名を教えてください。	
5	貴施設では小規模化・地域分散化を行っていますか ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください	
	1. 小規模化・地域分散化の双方を行っている 2. 小規模化のみ行っている 3. 地域分散化のみ行っている 4. どちらも行っていない	
6	(小規模化・地域分散化を行っている場合) 以下に挙げるどの施設を含んでいますか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください。	
	1. 小規模グループケア（敷地内） 2. 小規模グループケア（分園型） 3. 自治体の独自制度によるグループケア 4. 地域小規模児童養護施設 5. 実施していない	
7	貴施設は、「本体施設」「小規模・地域分散施設」のいずれに該当しますか。 1. 本体施設 2. 小規模・地域分散施設	
8	貴施設の設定後年数を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 1年未満 2. 1年以上3年未満 3. 3年以上5年未満 4. 5年以上10年未満 5. 10年以上	
9	貴施設の従業員数を教えてください。	人
10	貴施設に常駐している専門職の人数を記入してください (複数の役割がある場合は重複してカウントしてください)	
	医師	人
	看護師	人
	保育士	人
	児童生活支援員	人
	児童指導員（少年指導員含む）	人
	児童自立支援専門員	人
	個別対応職員	人
	家庭支援専門相談員	人
	心理療法担当職員	人
	職業指導員	人
	栄養士	人
	調理員	人
	母子支援員	人
		人
11	【本体施設のみ】小規模化の今後の実施意向を教えてください。（1）小規模化	
	1. 既に実施している 2. 実施の意向があり、実現の見込みがある 3. 実施の意向があるが、実現の見込みはまだない 4. 実施の意向がない 5. その他	
12	【本体施設のみ】小規模化の今後の実施意向を教えてください。（2）地域分散化	
	1. 既に実施している 2. 実施の意向があり、実現の見込みがある 3. 実施の意向があるが、実現の見込みはまだない 4. 実施の意向がない 5. その他	
13	【上記で見込みはまだない・意向がないを選択した方】小規模化の実施予定がない理由を教えてください。	
	1. 小規模化・地域分散化を実施しない方針である 2. 利用可能な施設の確保が難しい 3. 人員の確保が難しい 4. 経済的な理由 5. 地域住民の理解が得られない 6. その他	
14	【本体施設のみ】小規模化の目的を教えてください。	

【本体施設】を選択された方にお伺いします。				
15	【本体施設のみ】施設全体の定員数を教えてください。			人
16	【本体施設のみ】貴施設で実施している事業を教えてください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 一時保護委託 2. ショートステイ 3. トワイライトステイ 4. その他			
17	【本体施設のみ】貴施設の養育単位数を教えてください。			単位
18	【本体施設のみ】小規模化の実施に対する加算を利用していますか。 1. 利用あり 2. 利用なし			
19	【本体施設のみ】(利用していない場合) 加算を使用していない理由を教えてください。 1. 可算要件を満たしていない 2. 手続きが煩雑である 3. その他			
20	【本体施設のみ】どの職員を小規模施設に配置するかについて、配置の考え方を教えてください。			
【小規模・地域分散化施設】を選択された方にお伺いします。				
21	貴施設のお名前を教えてください。			
22	貴施設の設置年を教えてください。			
23	【小規模・地域分散化施設】貴施設の定員数を教えてください。			
	1. 4人以下	3. 6人	5. 8人	
	2. 5人	4. 7人	6. 9人以上	
24	貴施設の従業員数を教えてください。			人
25	貴施設に常駐している専門職の人数を記入してください (複数の役割がある場合は重複してカウントしてください)			
	医師	看護師	保育士	児童生活支援員
	人	人	人	人
	児童指導員	児童自立支援専門員	個別対応職員	家庭支援専門相談員
	人	人	人	人
	心理療法担当職員	職業指導員	母子支援員	
	人	人	人	人
26	【小規模・地域分散化施設】貴施設における勤務形態について教えてください。 1. 通勤が含まれる 2. 住み込みが含まれる 3. 断続勤務が含まれる 4. 交代制が含まれる			
27	【小規模・地域分散化施設】本体施設の職員で貴施設の支援を兼務している職員は何人いますか。			人
28	【小規模・地域分散化施設】貴施設の職員の平均勤続年数を教えてください。			年
29	【小規模・地域分散化施設】兼務でない本体施設の職員から支援を受けることはありますか。 1. はい 2. いいえ			
30	【小規模・地域分散化施設】兼務でない本体施設の職員による支援はどの程度の頻度で行われますか。			
	1. 週3回以上	3. 月2回以上	5. 半年に1回以上	
	2. 週1回以上	4. 月1回以上	6. 半年に1回より少ない	
31	【小規模・地域分散化施設】本体施設との距離はどれぐらいですか。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください			
	1. 同じ敷地内 (500m以内)	4. 敷地外 (1km以上3km以内)	7. 敷地外 (10km以上)	
	2. 同じ敷地内 (500m以上)	5. 敷地外 (3km以上5km以内)		
	3. 敷地外 (1km以内)	6. 敷地外 (5km以上10km以内)		

【すべての施設（本体施設、小規模・地域分散化施設）】の方にお伺いします。							
32	【すべての施設】入所している子どもの数をご記入ください。					人	
33	【すべての施設】定期的に通院している子どもの数をご記入ください。					人	
34	【すべての施設】定期的に投薬を受けている子どもの数をご記入ください。					人	
35	【すべての施設】妊娠検査・性病検査を受けた子どもの数をご記入ください。					人	
36	公的サービスで利用しているものがあれば教えてください。 1. 養育支援研修の受講 2. 養育環境の整備等支援に係る費用の受給 3. 児童相談所への相談 4. その他						
37	【すべての施設】上記の他、公的サービスで利用しているものがあれば教えてください。						
38	現在子どもの支援を行う上で苦勞していることがあればすべて教えてください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください						
	1. 発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる		4. 緘黙等の理由で意思疎通がはかれない子どもがいる		7. 支援を行うための資金が足りていない		
	2. 医療的ケアの内容が難しい子どもがいる		5. 暴力行為に及ぶ子どもがいる（家庭内外を問わず）		8. その他		
	3. 医療的ケアの頻度が多い子どもがいる		6. 支援を行うための人員が足りていない				
39	現在子どもの支援を行う上で苦勞していることがあれば教えてください。（自由記述）						
【本体施設】を選択された方にお伺いします。							
40	【本体施設】小規模・地域分散化施設に対するバックアップとして実施していることを全て選択してください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください						
	1. 経験年数の長い職員によるSV		6. 経験年数の長い職員の小規模施設への配置		11. 本体施設の管理職による巡回等を通じた定期的な状況確認や評価		
	2. 職員間の掲示板・メール等のやり取りにおける活用		7. 地域の関係者との関係構築の支援		12. 身近な相談相手の確保（チューター・メンター等）		
	3. オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション		8. 職員への研修の実施		13. 入所児の病院受診児等のマンパワーのフォロー		
	4. 連絡・情報共有等におけるICTの活用		9. 外部の研修への参加機会の確保		14. 調理師の配置		
	5. 本体施設からの職員の応援の派遣・サポート		10. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）		15. その他		
41	【4. ICT活用を選択された方へ】取り組みの詳細をすべて選択してください。						
	1. 子どもの情報の記録できるシステムの活用		3. 保護者との連絡における活用（SNS等）		5. その他		
	2. 職員間の掲示板・メール等のやり取りにおける活用		4. 子どもの入退室の管理における活用				
42	以下のバックアップの取組を行う頻度を教えてください。						
		経験年数の長い職員によるSV	会議等オフラインの手段（対面）による職員間の情報共有やコミュニケーション	オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）	本体施設の管理職による、巡回等を通じた定期的な状況確認や評価	身近な相談相手の確保（チューター・メンター等）
	週3回以上						
	週1回以上						
	月2回以上						
	月1回以上						
	月1回より少ない						
	実施していない						

43	バックアップの各取り組みの目的や狙いについて当てはまるものを全て選択してください。						
		経験年数の長い職員によるSV	会議等オフラインの手段（対面）による職員間の情報共有やコミュニケーション	オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	ICTの活用による記録の電子化・情報共有	本体施設からの職員の応援の派遣・サポート	経験年数の長い職員の小規模施設への配置
	ケアニーズの高い子どもへのフォロー						
	職員の経験・スキル不足の補完						
	職員の孤立・業務の抱え込みの防止						
	職員のマンパワーのフォロー						
	離職防止						
	職員を孤立させないためのメンタルサポート						
	その他						
		地域の関係者との関係構築の支援	職員への研修の実施	外部の研修への参加機会の確保	管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）	本体施設の管理職による、巡回等を通じた定期的な状況確認や	身近な相談相手の確保（チューター・メンター等）
	ケアニーズの高い子どもへのフォロー						
	職員の経験・スキル不足の補完						
	職員の孤立・業務の抱え込みの防止						
	職員のマンパワーのフォロー						
	離職防止						
	職員を孤立させないためのメンタルサポート						
	その他						
		調理師の配置	その他				
	ケアニーズの高い子どもへのフォロー						
	職員の経験・スキル不足の補完						
	職員の孤立・業務の抱え込みの防止						
	職員のマンパワーのフォロー						
	離職防止						
	職員を孤立させないためのメンタルサポート						
	その他						
44	バックアップの各取り組みについて、目的や狙い通りの効果を得られていると思いますか。						
		とてもそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない	
	ケアニーズの高い子どもへのフォロー						
	職員の経験・スキル不足の補完						
	職員の孤立・業務の抱え込みの防止						
	職員のマンパワーのフォロー						
	離職防止						
	職員を孤立させないためのメンタルサポート						
	その他						
45	バックアップにおいて特に効果的・重要と考える取り組みを1つ選択してください。						
	1. 経験年数の長い職員によるSV	6. 経験年数の長い職員の小規模施設への配置	11. 本体施設の管理職による、巡回等を通じた定期的な状況確認や評価				
	2. 職員間の掲示板・メール等のやり取りにおける活用	7. 地域の関係者との関係構築の支援	12. 身近な相談相手の確保（チューター・メンター等）				
	3. オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	8. 職員への研修の実施	13. その他				
	4. ICTの活用による記録の電子化・情報共有	9. 外部の研修への参加機会の確保					
	5. 本体施設からの職員の応援の派遣・サポート	10. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）					
46	上記（Q45）で選択した取り組みについて、効果的と考える理由や具体的に工夫している点を教えてください。						
47	バックアップの取り組みを十分に行っていると感じますか。						
	1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない				
	2. ややそう思う	4. あまりそう思わない					
48	バックアップの取り組みを十分に行えていないと感じる理由をすべて教えてください。						
	1. 本体施設職員のマンパワーが不足している	3. 小規模施設の課題やニーズを把握できていない	5. その他				
	2. 本体職員のスキルやノウハウが不足している	4. 地理的な距離により難しい					

49	バックアップを行う上で課題・難しいと感じていることをすべて選択してください。		
	1. 本体施設職員のマンパワーが不足している	3. 小規模施設の課題やニーズを把握できていない	5. その他
	2. 本体職員のスキルやノウハウが不足している	4. 地理的な距離により難しい	
50	上記（Q49）について詳細を教えてください。		
【小規模施設・地域分散施設】を選択された方にお伺いします。			
51	貴施設の職員の業務の負担感は大きいと感じますか。		
	1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない
	2. ややそう思う	4. あまりそう思わない	
52	貴施設の職員は業務上で困難な事象に直面することが多いと感じますか。		
	1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない
	2. ややそう思う	4. あまりそう思わない	
53	上記（Q52）の要因として考えるものをすべて選んでください。		
	1. 勤務時間の長さ	5. 担当する子どもの数	9. 業務に対する責任が重いと感じる
	2. 宿直回数の多さ	6. 担当する子どものケアの負担感が大きい	10. 大規模施設との仕事の進め方の違い
	3. 地域の関係者との関係構築の支援	7. 自身の知識・スキルに対する不足感	11. 他の職員とのコミュニケーションの機会が少ない
	4. 勤務体系が不規則であること	8. 他の職員に相談できる機会が少ない	12. その他
54	施設内での職員のフォローを目的とした取り組みについて当てはまるものを全て選んでください。		
	1. 会議等オフラインの手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	4. 研修の実施	7. 業務外のコミュニケーションによるフォロー
	2. ICTの活用による記録の電子化・情報共有	5. 外部の研修への参加機会の確保	8. その他
	3. 通勤時間の長さ	6. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）	
55	本体施設から受けているバックアップの内容について当てはまるものを全て選んでください。		
	1. 経験年数の長い職員によるSV	5. 地域の関係者との関係構築の支援	9. 本体施設の管理職による、巡回等を通じた定期的な状況確認や評価
	2. 会議等オフラインの手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	6. 職員への研修の実施	10. その他
	3. ICTの活用による記録の電子化・情報共有	7. 外部の研修への参加機会の確保	
	4. 本体施設からの職員の応援の派遣・サポート	8. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）	
56	本体施設から十分なバックアップを得られていると感じますか。		
	1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない
	2. ややそう思う	4. あまりそう思わない	
57	本体施設からの支援に期待することは何ですか。		
ご回答者様についてお伺いします。			
58	より正確に実態を把握するため、個別にヒアリングをお願いする可能性がございます。ヒアリングをお受けすることは可能でしょうか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. はい 2. いいえ		
59	回答者様のお名前を教えてください。 ※文字を入力してください		
60	電話番号をご記入ください。 ※数字を入力してください		
61	メールアドレスをご記入ください。 ※メールアドレスを入力してください		
設問は以上となります。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。			

「里親・ファミリーホーム・施設のあり方の検討に関する調査研究事業」
「児童養護施設や乳児院の小規模化・地域分散化における本体施設のバックアップ体制に関する調査研究事業」
『乳児院に関するアンケート調査』（施設一般に関するアンケート）

【ご回答いただくにあたって】
このアンケートは、現時点の状況でご回答ください。

基本情報についてお伺いします。

1	貴施設のお名前を教えてください。			
2	施設が所在している都道府県を教えてください。			
3	施設が所在している市町村名を教えてください。			
4	貴施設では小規模化を行っていますか ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. はい 2. いいえ			
（小規模化を行っている場合）以下に挙げるどの施設を含んでいますか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください。				
5	1. 小規模グループケア（敷地内） 2. 小規模グループケア（分園型）	3. 自治体の独自制度によるグループケア 4. 地域小規模児童養護施設		
6	5. 実施していない			
6	貴施設は、「本体施設」「小規模施設」のいずれに該当しますか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 本体施設 2. 小規模施設			
7	貴施設の設立後年数を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 1年未満 2. 1年以上3年未満 3. 3年以上5年未満 4. 5年以上10年未満 5. 10年以上			
8	貴施設の従業員数を教えてください。	人		
貴施設に常駐している専門職の人数を記入してください （複数の役割がある場合は重複してカウントしてください）				
9	医師	看護師	保育士	児童生活支援員
	人	人	人	人
	児童指導員	児童自立支援専門員	個別対応職員	家庭支援専門相談員
	人	人	人	人
	心理療法担当職員	職業指導員	栄養士	調理員
	人	人	人	人
	母子支援員			
人	人	人	人	
小規模化の今後の実施意向を教えてください。（1）小規模化				
10	1. 既に実施している 2. 実施の意向があり、実現の見込みがある	3. 実施の意向があるが、実現の見込みはまだない 4. 実施の意向がない	5. その他	
【上記で見込みがない・意向がないとお答えした方へ】小規模化の実施予定がない理由を教えてください。				
11	1. 小規模化を実施しない方針である 2. 利用可能な施設の確保が難しい	3. 人員の確保が難しい 4. 経済的な理由	5. 地域住民の理解が得られない 6. その他	
12	小規模化の目的を教えてください。			

【本体施設】を選択された方にお伺いします。				
13	【本体施設のみ】施設全体の定員数を教えてください。			人
14	【本体施設のみ】貴施設で実施しているを教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 一時保護委託 2. ショートステイ 3. トワイライトステイ 4. その他			
15	【本体施設のみ】貴施設の養育単位数を教えてください。			単位
16	【本体施設のみ】小規模化に対する加算を利用していますか。 1. はい 2. いいえ			
17	【本体施設のみ】(利用していない場合) 加算を使用していない理由を教えてください。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. 可算要件を満たしていない 2. 手続きが煩雑である 3. その他			
18	【本体施設のみ】どの職員を小規模施設に配置するかについて、配置の考え方を教えてください。			
【小規模施設】を選択された方にお伺いします。				
19	【小規模施設】貴施設のお名前を教えてください。			
20	【小規模施設】貴施設の設置年を教えてください。			
21	【小規模施設】貴施設の定員数を教えてください。			
	1. 4人	3. 6人	5. 8人	
	2. 5人	4. 7人	6. 9人以上	
22	【小規模施設】貴施設（小規模施設内）の従業員数を教えてください。			人
23	【小規模施設】貴施設（小規模施設内）に常駐している専門職の人数を記入してください			
	医師	看護師	保育士	児童生活支援員
	人	人	人	人
	児童指導員	児童自立支援専門員	個別対応職員	家庭支援専門相談員
	人	人	人	人
	心理療法担当職員	職業指導員	母子支援員	
	人	人	人	人
24	【小規模施設】貴施設における勤務形態についてすべて教えてください。 1. 通勤が含まれる 2. 住み込みが含まれる 3. 断続勤務が含まれる 4. 交代制が含まれる			
25	【小規模施設】本体施設の職員で貴施設の支援を兼務している職員は何人いますか。			人
26	【小規模施設】貴施設（小規模施設内）の職員の平均勤続年数を教えてください。			年
27	【小規模施設】兼務でない本体施設の職員から支援を受けることはありますか。 1. はい 2. いいえ			
28	【小規模施設】兼務でない本体施設の職員による支援はどの程度の頻度で行われますか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください			
	1. 毎日	5. 週1回以上	9. 半年に1回以上	
	2. 週5回以上	6. 月2回以上	10. 1年に1回以上	
	3. 週3回以上	7. 月1回以上	11. 1年に1回未満	
	4. 週2回以上	8. 3か月に1回以上		
29	【小規模施設】本体施設との距離はどれぐらいですか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください			
	1. 同じ敷地内（500m以内）	4. 敷地外（1km以上3km以内）	7. 敷地外（10km以上）	
	2. 同じ敷地内（500m以上）	5. 敷地外（3km以上5km以内）		
	3. 敷地外（1km以内）	6. 敷地外（5km以上10km以内）		

【すべての施設（本体施設、小規模施設）】の方にお伺いします。							
30	【すべての施設】入所している子どもの数をご記入ください。						人
31	【すべての施設】定期的に通院している子どもの数をご記入ください。						人
32	【すべての施設】定期的に投薬を受けている子どもの数をご記入ください。						人
33	公的サービスで利用しているものがあれば教えてください。 1. 養育支援研修の受講 2. 養育環境の整備等支援に係る費用の受給 3. 児童相談所への相談 4. その他						
34	【すべての施設】上記の他、公的サービスで利用しているものがあれば教えてください。						
現在子どもの支援を行う上で苦勞していることがあればすべて教えてください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください							
35	1. 発達上の特徴、障害のため注視が必要な子どもがいる	4. 緘黙等の理由で意思疎通がはかれない子どもがいる	7. 支援を行うための資金が足りていない	2. 医療的ケアの内容が難しい子どもがいる	5. 暴力行為に及ぶ子どもがいる（家庭内外を問わず）	8. その他	
	3. 医療的ケアの頻度が多い子どもがいる	6. 支援を行うための人員が足りていない					
36	現在子どもの支援を行う上で苦勞していることがあれば教えてください。（自由記述）						
【本体施設】を選択された方にお伺いします。							
37	【本体施設】小規模施設に対するバックアップとして実施していることをすべて選択してください。※以下の該当する選択肢の数字を選んでください						
	1. 経験年数の長い職員によるSV	6. 経験年数の長い職員の小規模施設への配置	11. 本体施設の管理職による巡回等を通じた定期的な状況確認や評価	2. 職員間の掲示板・メール等のやり取りにおける活用	7. 地域の関係者との関係構築の支援	12. 身近な相談相手の確保（チューター・メンター等）	
	3. オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	8. 職員への研修の実施	13. 入所児の病院受診児等のマンパワーのフォロー	4. 連絡・情報共有等におけるICTの活用	9. 外部の研修への参加機会の確保	14. 調理師の配置	
	5. 本体施設からの職員の応援の派遣・サポート	10. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）	15. その他				
38	【4. ICT活用を選択された方へ】取り組みの詳細をすべて選択してください。						
	1. 子どもの情報の記録できるシステムの活用	3. 保護者との連絡における活用（SNS等）	5. その他	2. 職員間の掲示板・メール等のやり取りにおける活用	4. 子どもの入退室の管理における活用		
39	以下のバックアップの取組を行う頻度を教えてください。						
		経験年数の長い職員によるSV	会議等オフラインの手段（対面）による職員間の情報共有やコミュニケーション	オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）	本体施設の管理職による巡回等を通じた定期的な状況確認や評価	
	週3回以上					身近な相談相手の確保（チューター・メンター等）	
	週1回以上						
	月2回以上						
	月1回以上						
	月1回より少ない						
	実施していない						

40 バックアップの各取組の目的や狙いについて当てはまるものをすべて選択してください。						
	経験年数の長い職員によるSV	会議等オフラインの手段（対面）による職員間の情報共有やコミュニケーション	オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	ICTの活用による記録の電子化・情報共有	本体施設からの職員の応援の派遣・サポート	経験年数の長い職員の小規模施設への配置
	ケアニーズの高い子どもへのフォロー					
	職員の経験・スキル不足の補完					
	職員の孤立・業務の抱え込みの防止					
	職員のマンパワーのフォロー					
	職員を孤立させないためのメンタルサポート					
	離職防止					
	その他					
	地域の関係者との関係構築の支援	職員への研修の実施	外部の研修への参加機会の確保	管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）	本体施設の管理職による巡回等を通じた定期的な状況確認や評価	身近な相談相手の確保（チューター・メンター等）
	ケアニーズの高い子どもへのフォロー					
	職員の経験・スキル不足の補完					
	職員の孤立・業務の抱え込みの防止					
	職員のマンパワーのフォロー					
	職員を孤立させないためのメンタルサポート					
	離職防止					
	その他					
	調理師の配置	その他				
	ケアニーズの高い子どもへのフォロー					
	職員の経験・スキル不足の補完					
	職員の孤立・業務の抱え込みの防止					
	職員のマンパワーのフォロー					
	職員を孤立させないためのメンタルサポート					
	離職防止					
	その他					
41 バックアップの各取組について、目的や狙い通りの効果を得られていると思いますか。						
	とてもそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない	
	ケアニーズの高い子どもへのフォロー					
	職員の経験・スキル不足の補完					
	職員の孤立・業務の抱え込みの防止					
	職員のマンパワーのフォロー					
	職員を孤立させないためのメンタルサポート					
	離職防止					
	その他					
42 バックアップにおいて特に効果的・重要と考える取組を1つ選択してください。						
1. 経験年数の長い職員によるSV	6. 経験年数の長い職員の小規模施設への配置	11. 本体施設の管理職による巡回等を通じた定期的な状況確認や評価				
2. 職員間の掲示板・メール等のやり取りにおける活用	7. 地域の関係者との関係構築の支援	12. 身近な相談相手の確保（チューター・メンター等）				
3. オンライン会議等の手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	8. 職員への研修の実施	13. その他				
4. ICTの活用による記録の電子化・情報共有	9. 外部の研修への参加機会の確保					
5. 本体施設からの職員の応援の派遣・サポート	10. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）					
43 上記（Q42）で選択した取組について、効果的と考える理由や具体的に工夫している点を教えてください。						
44 バックアップの取組を十分に行っていると感じますか。						
1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない				
2. ややそう思う	4. あまりそう思わない					
45 バックアップの取組を十分に行っていないと感じる理由をすべて教えてください。						
1. 本体施設職員のマンパワーが不足している	3. 小規模施設の課題やニーズを把握できていない	5. その他				
2. 本体職員のスキルやノウハウが不足している	4. 地理的な距離により難しい					

46	バックアップを行う上で課題・難しいと感じていることをすべて選択してください。		
	1. 本体施設職員のマンパワーが不足している	3. 小規模施設の課題やニーズを把握できていない	5. その他
	2. 本体職員のスキルやノウハウが不足している	4. 地理的な距離により難しい	
47	上記（Q46）について詳細を教えてください。		
【小規模施設】を選択された方にお伺いします。			
48	貴施設の職員の業務の負担感は大きいと感じますか。		
	1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない
	2. ややそう思う	4. あまりそう思わない	
49	貴施設の職員は業務上で困難な事象に直面することが多いと感じますか。		
	1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない
	2. ややそう思う	4. あまりそう思わない	
50	上記（Q49）の要因として考えるものをすべて選んでください。		
	1. 勤務時間の長さ	5. 担当する子どもの数	9. 業務に対する責任が重いと感じる
	2. 宿直回数の多さ	6. 担当する子どものケアの負担感が大きい	10. 大規模施設との仕事の進め方の違い
	3. 地域の関係者との関係構築の支援	7. 自身の知識・スキルに対する不足感	11. 他の職員とのコミュニケーションの機会が少ない
	4. 勤務体系が不規則であること	8. 他の職員に相談できる機会が少ない	12. その他
51	施設内での職員のフォローを目的とした取組みについて当てはまるものをすべて選んでください。		
	1. 会議等オフラインの手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	4. 研修の実施	7. 業務外のコミュニケーションによるフォロー
	2. ICTの活用による記録の電子化・情報共有	5. 外部の研修への参加機会の確保	8. その他
	3. 通勤時間の長さ	6. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）	
52	本体施設から受けているバックアップの内容について当てはまるものをすべて選んでください。		
	1. 経験年数の長い職員によるSV	5. 地域の関係者との関係構築の支援	9. 本体施設の管理職による巡回等を通じた定期的な状況確認や評価
	2. 会議等オフラインの手段による職員間の情報共有やコミュニケーション	6. 職員への研修の実施	10. その他
	3. ICTの活用による記録の電子化・情報共有	7. 外部の研修への参加機会の確保	
	4. 本体施設からの職員の応援の派遣・サポート	8. 管理職・職員間の定期的な状況の共有（面談等）	
53	本体施設から十分なバックアップを得られていると感じますか。		
	1. とてもそう思う	3. どちらとも言えない	5. 全くそう思わない
	2. ややそう思う	4. あまりそう思わない	
54	本体施設からの支援に期待することは何ですか。		
ご回答者様についてお伺いします。			
55	より正確に実態を把握するため、個別にヒアリングをお願いする可能性がございます。ヒアリングをお受けすることは可能でしょうか。 ※以下の該当する選択肢の数字を選んでください 1. はい 2. いいえ		
56	回答者様のお名前を教えてください。 ※文字を入力してください		
57	電話番号をご記入ください。 ※数字を入力してください		
58	メールアドレスをご記入ください。 ※メールアドレスを入力してください		
設問は以上となります。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。			

この事業は令和4年度子ども・子育て支援推進調査研究事業
により実施したものです。

「児童養護施設や乳児院の小規模化・地域分散化における本体施設の
バックアップ体制に関する調査研究」

令和5年（2023年）3月発行

発行 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-9 JA 共済ビル 9 階
TEL 03-3221-7011（代表） FAX 03-3221-7022

不許複製